



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

GR 86



イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	20
安全なドライブのために	21
シートベルト	23
SRS エアバッグ	26
排気ガスに対する注意	35

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	49
オートアラーム	50

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	54
計器類	57
マルチインフォメーションディスプレイ	62

3 運転する前に

3-1. キー

キー	70
----	----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	73
トランク	75
スマートエントリー&スタートシステム	79

3-3. シートの調整

フロントシート	87
---------	----

リヤシート	89
ヘッドレスト	91

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	93
インナーミラー	94
ドアミラー	95

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ	97
----------	----

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	100
荷物を積むときの注意	107

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	109
オートマチックトランスミッション	113
マニュアルトランスミッション	117
方向指示レバー	119
パーキングブレーキ	120
アクティブサウンドコントロール	121

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	122
ハイビームアシスト	125
リヤフォグランプスイッチ	128
ワイパー&ウォッシャー	129

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	131
---------	-----

4-5. EyeSight

EyeSight	134
ブリクラッシュブレーキ	142
全車速追従機能付クルーズコントロール	151
追従機能付クルーズコントロール	166
定速クルーズコントロール	182

AT 誤発進抑制制御	190
AT 誤後進抑制制御	194
車線逸脱警報	197
ふらつき警報	199
先行車発進お知らせ	201
RAB（後退時ブレーキアシスト）	202
クリアランスソナー	206
EyeSight システムの作動音	210
EyeSight システムの故障および一時 停止	212

4-6. その他の運転支援機能

BSD / RCTA（後側方警戒支援シス テム）	215
ドライブモードセレクトスイッチ	220
ヒルスタートアシストコントロール	221
運転を補助する装置	224

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	229
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

オートエアコン	234
シートヒーター	238

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	240
-------------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧	242
トランク内装備	245

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	247
----------------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	252
内装の手入れ	255

ウルトラスエード®の手入れ	257
------------------------	-----

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	259
ガレージジャッキ	261
ウォッシャー液の補充	262
タイヤについて	263
タイヤ空気圧について	270
エアコンフィルターの交換	271
電子キーの電池交換	272
ヒューズの点検・交換	275
電球（バルブ）の交換	276

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	282
非常点滅灯（ハザードランプ）	283
発炎筒	283
車両を緊急停止するには	284
水没・冠水したときは	285
車中泊が必要なときは	286

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	287
フューエルポンプシャットオフシス テム	292
警告灯がついたときは	293
警告メッセージが表示されたときは	299
パンクしたときは（タイヤパンク応急 修理キット装着車）	300
パンクしたときは（応急用タイヤ装着 車）	309
エンジンがかからないときは	316
キーをなくしたときは	317
給油扉が開かないときは	318
電子キーが正常に働かないときは	318
バッテリーがあがったときは	320
オーバーヒートしたときは	323
スタックしたときは	325

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（油脂類の容量と 銘柄など）.....	328
---------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	333
-------------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	342
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	344
アルファベット順さくいん.....	345
五十音順さくいん.....	346

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそ

れがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。

RF 送信機取り付けについては、P.7も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

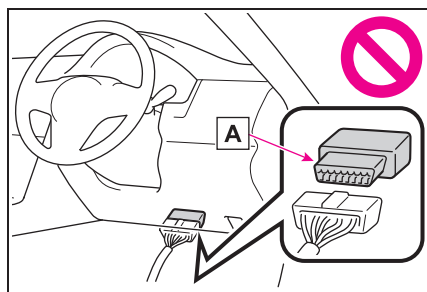
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が

発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよ

ぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- EyeSight
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。なお、デジタル配信

により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

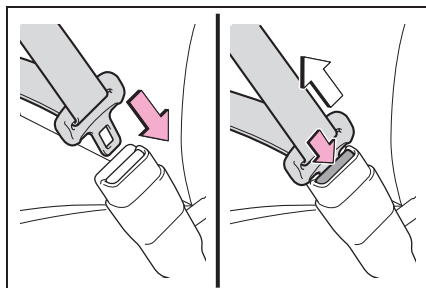
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

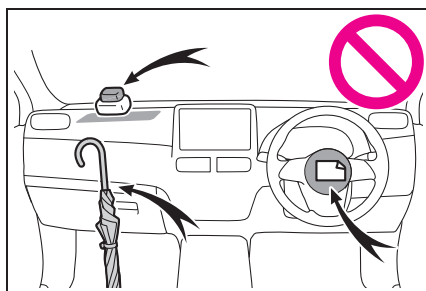
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

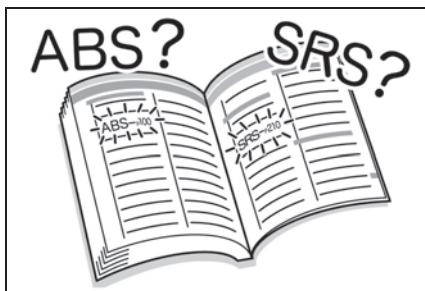


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

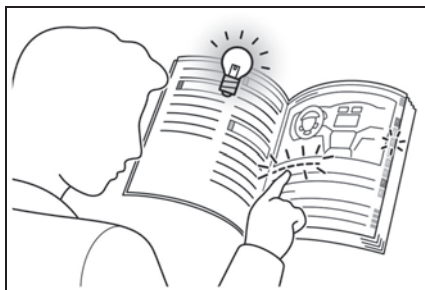
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：P.346
- アルファベット順さくいん：P.345



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：P.11



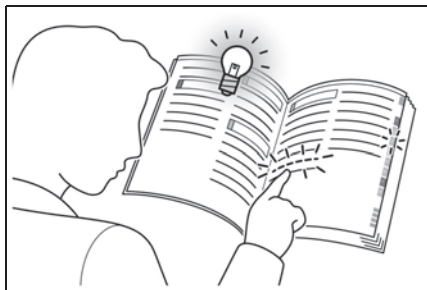
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
P.342
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.344



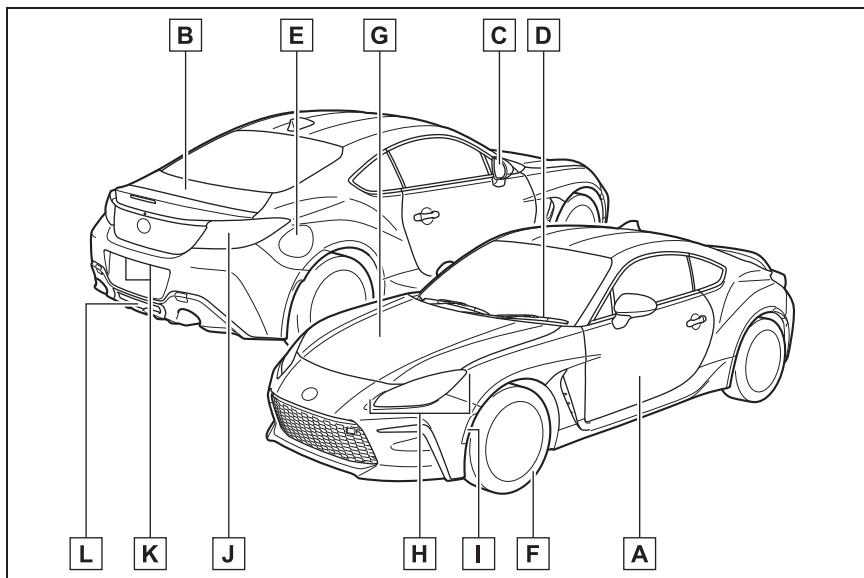
■ タイトルから探す

- 目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.73
	施錠／解錠.....	P.73
	ドアガラスの開閉	P.97
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.318
	警告灯	P.293
B	トランク.....	P.75
	車内から開ける	P.77
	車外から開ける	P.77
	警告灯	P.293
C	ドアミラー.....	P.95
	鏡面の角度調整	P.95
	ミラーの格納	P.96
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.236
D	ワイパー.....	P.129
	冬季の注意.....	P.229

E	給油口	P.131
	給油方法	P.132
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.328
F	タイヤ	P.263
	サイズ・空気圧	P.332
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.229
	点検・ローテーション・空気圧警報システム★	P.263
	パンク時の対処	P.300, 309
G	ボンネット	P.259
	開け方	P.259
	エンジンオイル	P.328
	オーバーヒート時の対処	P.323

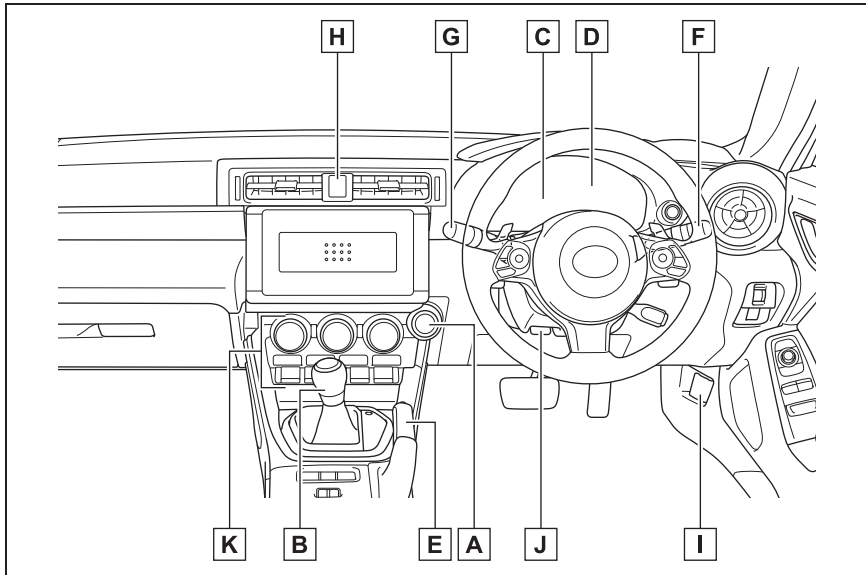
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P.276, ワット数：P.332)

H	ヘッドランプ・車幅灯・デイトタイムランニングランプ★・ 方向指示灯	P.119, 122
I	方向指示灯	P.119
J	尾灯・制動灯・方向指示灯	P.119, 122
K	番号灯	P.122
L	リヤフォグランプ★・後退灯	P.122, 128
	シフトポジションを R にする	P.113, 117

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル



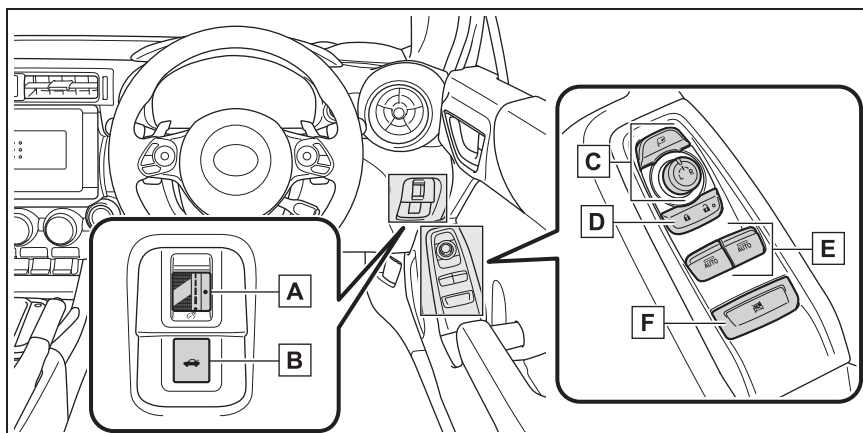
- A** エンジンスイッチ P.109
 エンジンの始動・モード切りかえ P.109
 エンジンの緊急停止 P.284
 エンジンが始動できないときの対処 P.316
 警告メッセージ P.299
- B** シフトレバー P.113, 117
 シフトポジションの切りかえ P.113, 117
 けん引時の注意 P.287
 シフトレバーが動かないときの対処[※] P.114
- C** マルチインフォメーションディスプレイ P.62
 表示内容 P.62
 警告メッセージ表示時の対処 P.299
- D** メーター P.57
 見方・明るさの調整 P.57
 警告灯／表示灯 P.54

	警告灯点灯時の対処	P.293
E	パーキングブレーキ	P.120
	かける・解除する	P.120
	冬季の注意.....	P.231
F	方向指示レバー	P.119
	ランプスイッチ	P.122
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・ デイトタイムランニングランプ★	P.122
	リヤフォグランプ★	P.128
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.129
	使い方	P.129
	ウォッシャー液の補充	P.262
H	非常点滅灯スイッチ	P.283
I	ボンネット解除レバー	P.259
J	ハンドル位置調整レバー.....	P.93
K	エアコン.....	P.234
	操作方法.....	P.234
	リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）.....	P.236

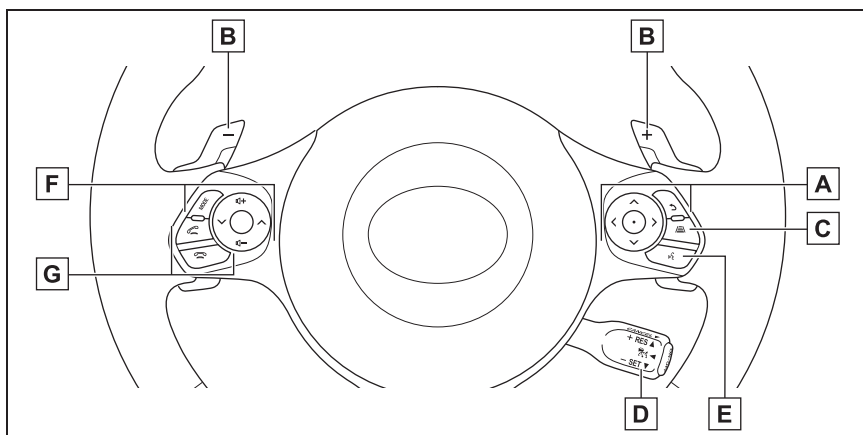
※ オートマチック車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



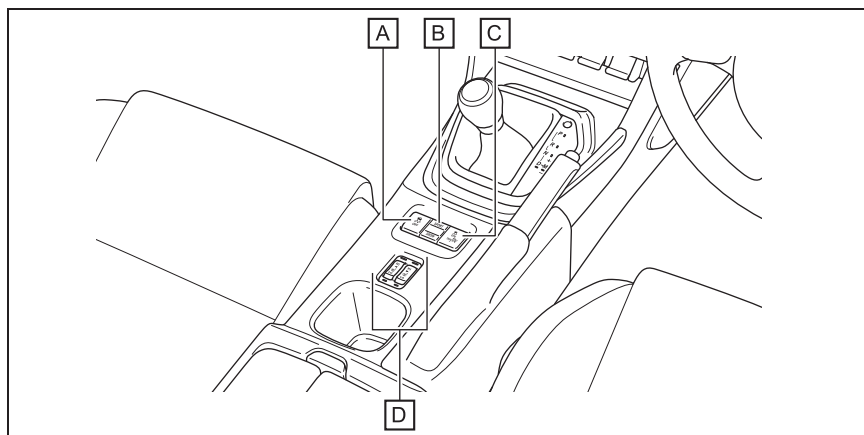
- A** インストルメントパネル照度調整ダイヤル..... P.60
- B** トランクオープナースイッチ..... P.77
- C** ドアミラースイッチ..... P.95
- D** ドアロックスイッチ..... P.74
- E** パワーウインドウスイッチ..... P.97
- F** ウィンドウロックスイッチ..... P.98



- A** メーター操作スイッチ..... P.63
- B** パドルシフトスイッチ★..... P.115

C	車間距離切りかえスイッチ	P.161
D	クルーズコントロールスイッチ	
	全車速追従機能付クルーズコントロール★	P.151
	追従機能付クルーズコントロール★	P.166
	定速クルーズコントロール	P.182
E	音声認識スイッチ	P.248
F	オーディオスイッチ	P.248
G	ハンズフリースイッチ	P.248

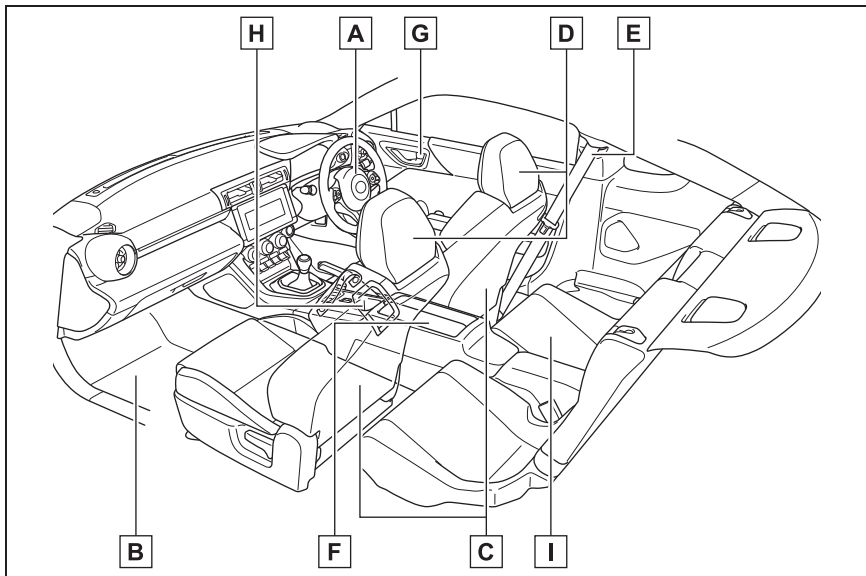
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A	VSC OFF スイッチ	P.224
B	走行制御モードスイッチ★	P.220
C	TRACK スイッチ	P.225
D	シートヒータースイッチ★	P.238

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

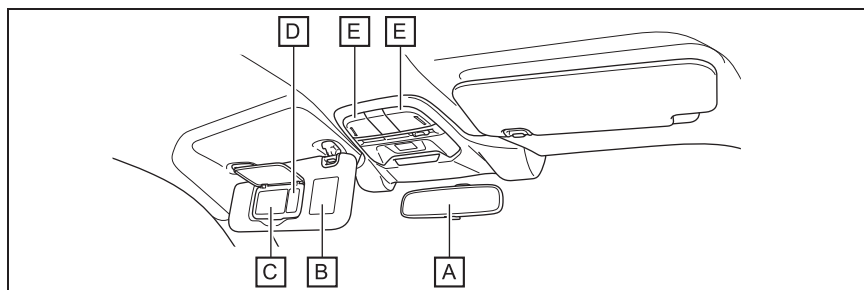
■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.26
- B** フロアマット P.20
- C** フロントシート P.87
- D** ヘッドレスト P.91
- E** シートベルト P.23
- F** コンソールボックス／カップホルダー P.243
- G** ドアロックレバー P.75
- H** カップホルダー★ P.244
- I** リヤシート P.89

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井



- A** インナーミラー P.94
- B** サンバイザー★※ P.248
- C** バニティミラー P.249
- D** バニティミラーランプ★ P.249
- E** インテリアランプ／パーソナルランプ P.240

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.39)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	20
安全なドライブのために	21
シートベルト	23
SRS エアバッグ	26
排気ガスに対する注意	35

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	49
オートアラーム	50

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

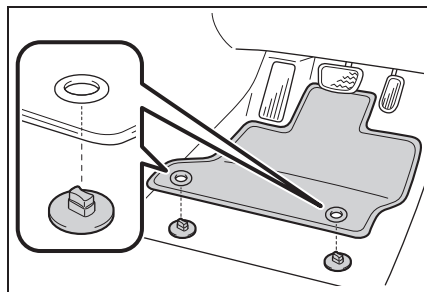
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

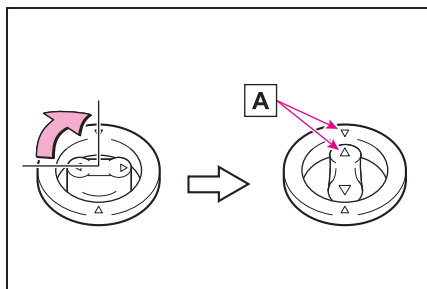
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

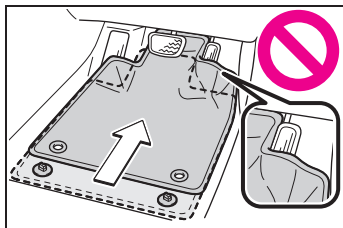
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告**■ 運転する前に**

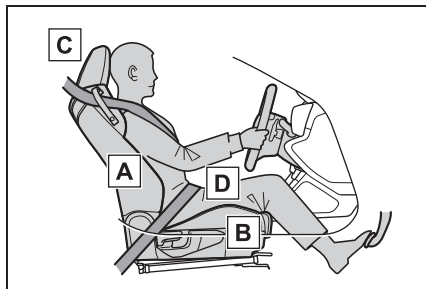
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.87）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.87）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.91）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.23）

⚠ 警告**■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.23)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.38)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.94, 95)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

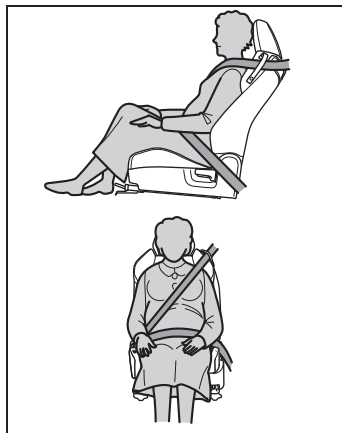
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.24)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.46

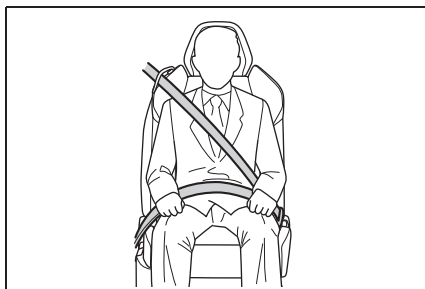
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

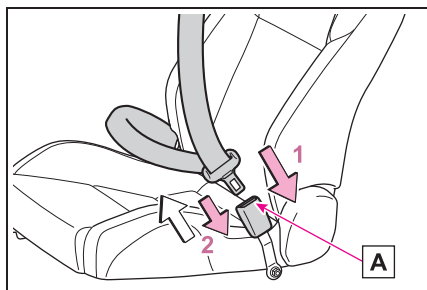
知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.38)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



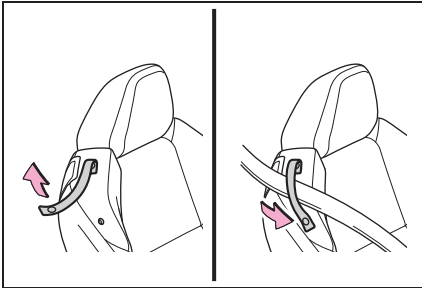
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトガイド



フロント席のシートベルトを着用するときは、ベルトをガイドに通してください。フロント席のシートベルトをガイドに通しておくとシートベルトが引き出しやすくなります。

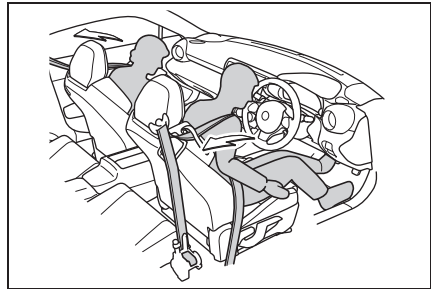
リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

警告

■ シートベルトガイドを使うときは

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っばったりしないでください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

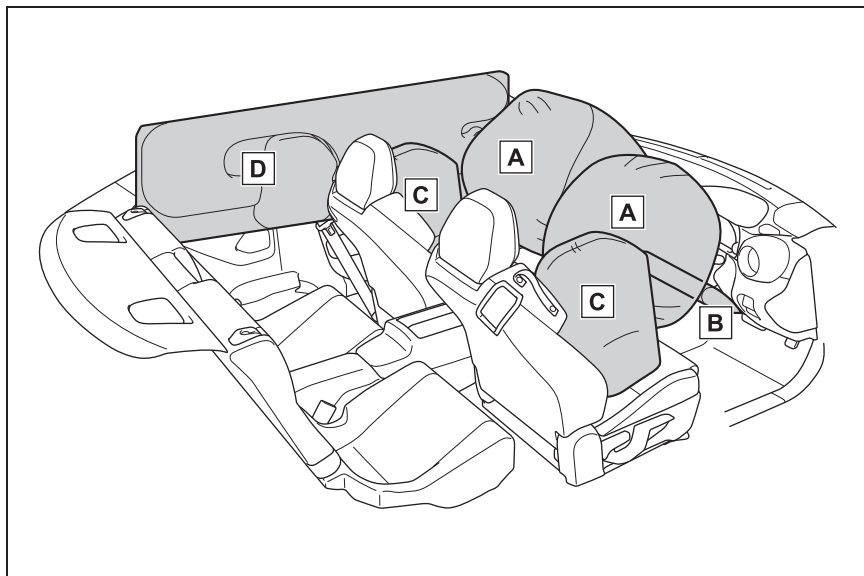
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

SRS※ エアバッグ

※ SRS エアバッグの SRS とは Supplemental Restraint System の略で、乗員補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグシステムについて



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する動きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

B SRS ニーエアバッグ

運転席 SRS エアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ

車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する動きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

D SRS カーテンシールドエアバッグ

車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

知識

■ 作動条件

すべてのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

■ SRS エアバッグが作動すると

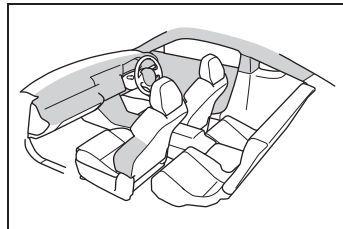
- SRS エアバッグは膨らんだ後、ただちにしぼんで視界を妨げません。(SRSカーテンシールドエアバッグを除く)
- SRS エアバッグは効果を発揮するために瞬時に膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると、作動音とともに白煙が発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物が付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。まれに皮ふに刺激を感じる場合があります。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

警告

■ SRS エアバッグについて

SRSエアバッグシステムに関して次のことを必ずお守りください。守らないと、衝突などのとき効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用し、シート位置・ハンドル位置を調整して正しい運転（乗車）姿勢をとる。
SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- 膝の上に物を抱えるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しない。
SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げるおそれがあります。
- シートカバーを前席シートに取り付けたり、敷いたりしない。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしない。



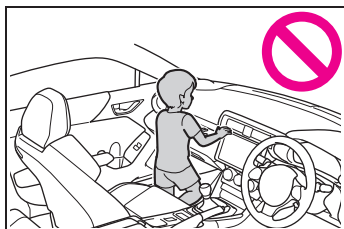
- SRSエアバッグ格納部が破損したり、ひび割れたりした場合は、トヨタ販売店で交換してください。

警告

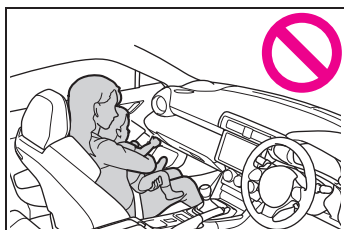
■ お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- 走行中にシートから立ち上がらない。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡につながるおそれがあります。



- お子さまをひざの上に抱いたり、背負ったりした状態で乗車しない。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡につながるおそれがあります。



- 12歳以下または身長150cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。チャイルドシートの使用方法是、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けない。

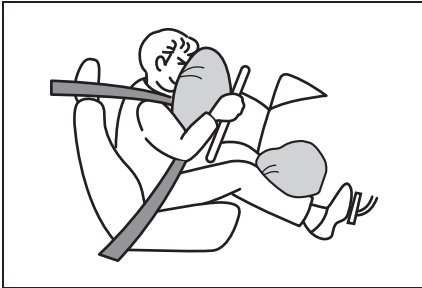
事故などで助手席 SRS エアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡するおそれがあります。



- SRS エアバッグが膨らんだ直後は、SRS エアバッグの構成部品に触れない。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。SRS エアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けてただちにしぼみ始めます（SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS ニーエアバッグを除く）。排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをするおそれがあります。
- 大きな衝撃を受けた場合、SRS エアバッグの作動の有無にかかわらず、必ずトヨタ販売店で点検を受ける。SRS エアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席 SRS エアバッグ・SRS ニーエアバッグ

ハンドル部に格納された SRS エアバッグおよびハンドル下のパネル部に格納された SRS ニーエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。



⚠ 警告

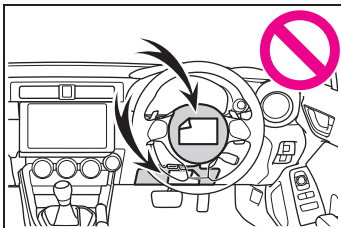
■ 運転席 SRS エアバッグ・SRS ニーエアバッグについて

運転席 SRS エアバッグ・SRS ニーエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らない。

SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



- SRS エアバッグ格納部に身体（手、顔、足、胸など）を近づけない。

助手席 SRS エアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納された SRS エアバッグが、瞬時に膨らみ、その後しぼみます。

助手席 SRS エアバッグは、助手席に同乗者がいなくても運転席 SRS エアバッグと同時に作動します。



⚠ 警告

■ 助手席 SRS エアバッグについて

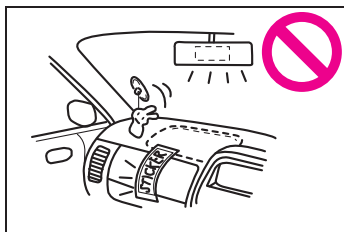
助手席 SRS エアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグ格納部に身体（手、顔、足、胸など）を近づけたり、もたれかからない。

⚠ 警告

- インストルメントパネルの上面またはその周辺にステッカー類を貼ったり、アクセサリ、ナビゲーションシステムや芳香剤などを置かない。SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスにアクセサリなどを取り付けたり、インナーミラーにワイドミラーを取り付けない。
SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納された SRS サイドエアバッグおよび左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納された SRS カーテンシールドエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

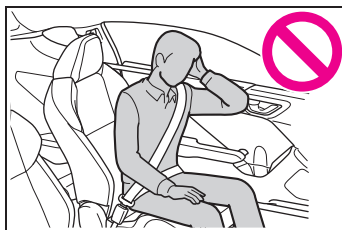


⚠ 警告

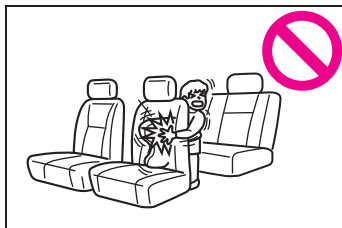
■ SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグについて

SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。
守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- フロントシート背もたれの SRS サイドエアバッグ格納部に身体（手、足、顔）を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らない。

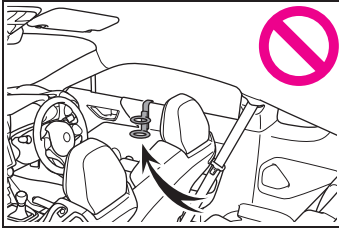


- 後席からフロントシートの背もたれを抱え込むような姿勢はしない。



警告

- SRS サイドエアバッグ格納部周辺に物を置いたり、カップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けない。SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかない。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。特にお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントウインドウガラス、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部など SRS カーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリやハンズフリーマイクなどを取り付けない。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部など SRS カーテンシールドエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えない。

運転席、助手席 SRS エアバッグ および運転席 SRS ニーエアバッグが作動するとき、しないとき

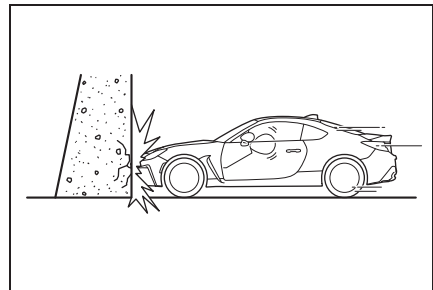
運転席、助手席 SRS エアバッグおよび運転席 SRS ニーエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部、下肢などへの衝撃をやわらげる装置です。

車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。したがって、車体の損傷が大きくても SRS エアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

■ 作動するとき

- 次のようなときに作動します。

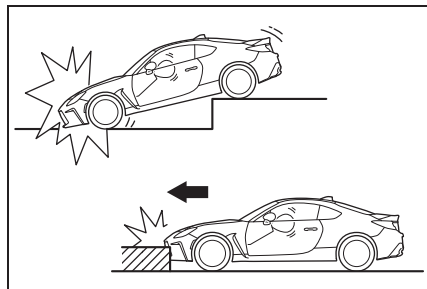
約 20 km/h ～約 30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、またはこれと同等以上の衝撃を受けたとき



- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動す

ることがあります。

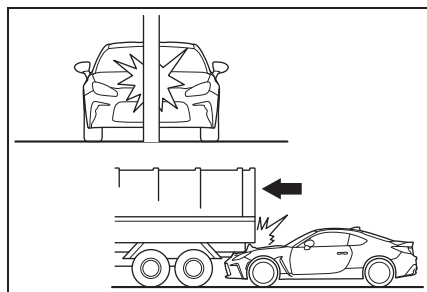
深い穴や溝に落ちたり、縁石に衝突したときや、ジャンプしたり、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき



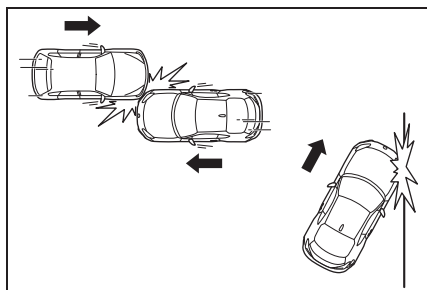
■ 作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったときは作動しにくくなります。

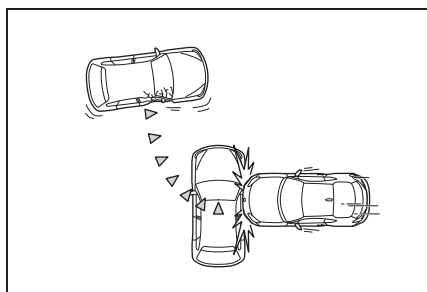
・ 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき



・ 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき

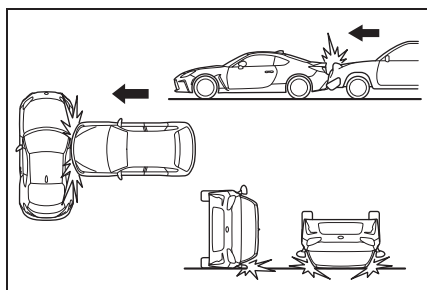


・ 駐車している車両など、衝突の衝撃により移動または変形するものに衝突したとき



- また、次のような場合は SRS エアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮されません。

後ろから衝突されたり、横方向から衝突されたり、横転や転覆したとき

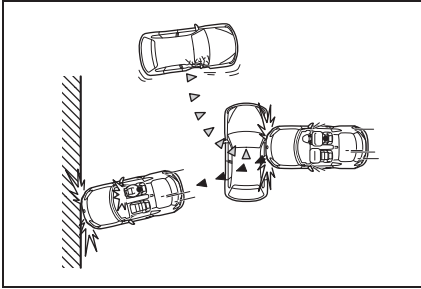


■ 作動しないとき

次のようなときは作動しません。

一度 SRS エアバッグが作動した

後の衝突


**SRS サイドエアバッグ、SRS
カーテンシールドエアバッグが
作動するとき、しないとき**

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS カーテンシールドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンシールドエアバッグは、車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

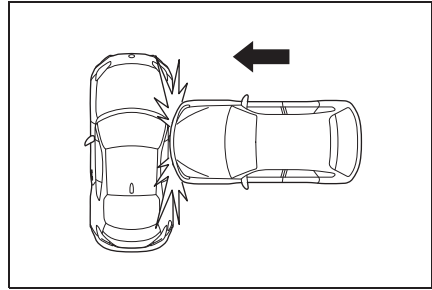
SRS サイドエアバッグおよび SRS カーテンシールドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

■ 作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと

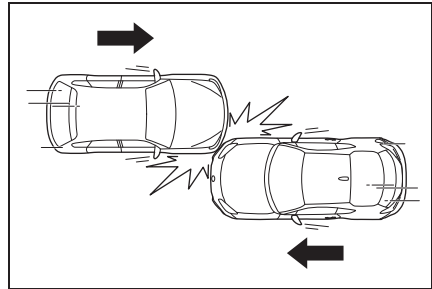
作動します。

側面に真横から衝突されたとき



- 次のような場合も、衝突の部位、衝撃の大きさによっては作動することがあります。

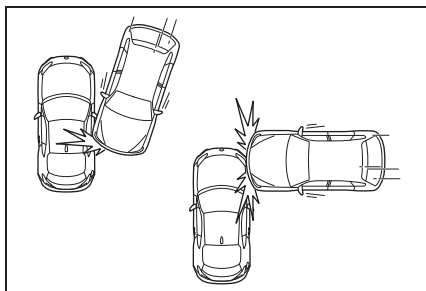
片側衝突（オフセット衝突）のとき


■ 作動しにくいとき

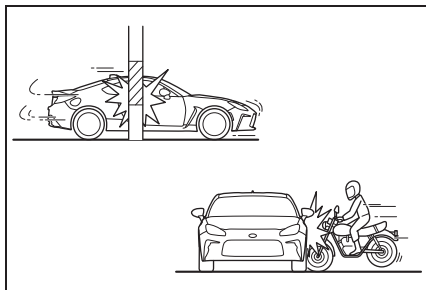
- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。

衝突した物に変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため、SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグは作動しにくくなります。

- ・ 車両側面に斜めから衝突されたり、客室以外に側面から衝突されたとき

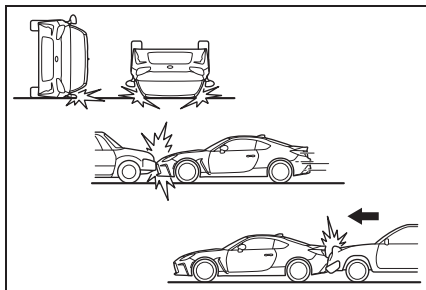


- ・電柱などに衝突したり、側面にバイクが真横から衝突したとき



- 次のような場合は SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

横転や転覆したり、停車中や走行中の車に正面から衝突したり、後ろから衝突されたとき

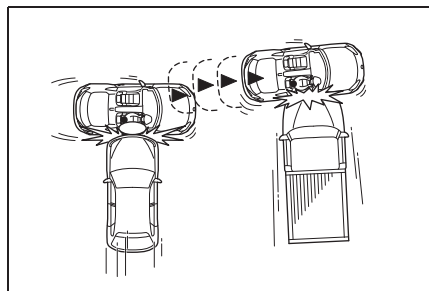


■ 作動しないとき

次のようなときは作動しません。

一度 SRS サイドエアバッグ、

SRS カーテンシールドエアバッグが作動した後の衝突

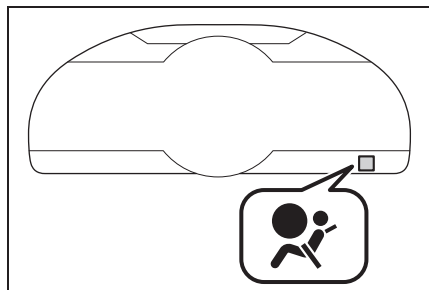


SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

SRS エアバッグ警告灯、SRS エアバッグシステム（プリテンショナー付シートベルト含む）で兼用しています。

システムの異常を検知すると警告灯が点灯し、割り込み画面を表示します。（→P.299）

エンジンスイッチを ON にすると点灯し、約 6 秒後に消灯します。



 警告**■ SRS エアバッグ／プリテンショナー 警告灯**

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。軽微な衝撃で SRS エアバッグが作動したり、衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- エンジンスイッチをONにして6秒以上経過しても、点灯しているとき
- 走行中に点灯したとき

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**■排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.38)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- パワーウィンドウを誤操作しないように、ウィンドウロックスイッチ(→P.98)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.38)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.38

チャイルドシートを使用するとき：
P.39

シート位置別チャイルドシートの
適合性について：P.40

チャイルドシートの取り付け方
法：P.44

- ・ シートベルトで固定する：P.45
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.46
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.48

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けのシート位置との適合性を確認してください。
(→P.40)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

⚠ 警告**■ チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.40）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するとき**■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

助手席にチャイルドシートを取り付けることはできません。

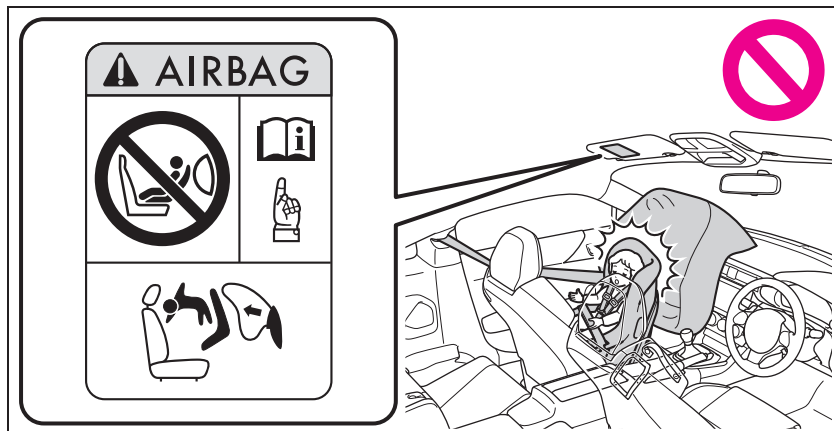
⚠ 警告**■ チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートをうしろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、この車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。

警告



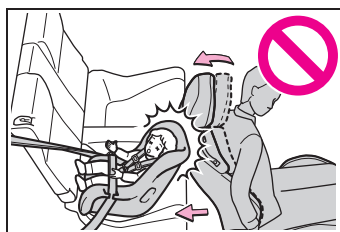
警告

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの

適合性（→P.42）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

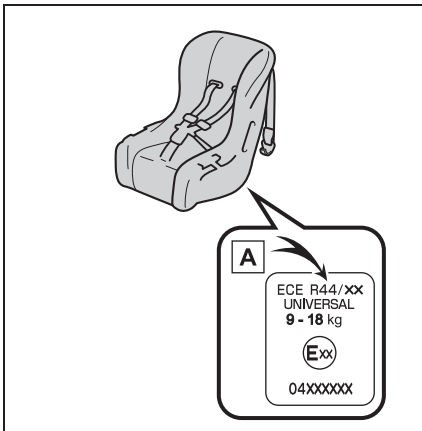
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク ※²
対象となるお子さまの体重の範

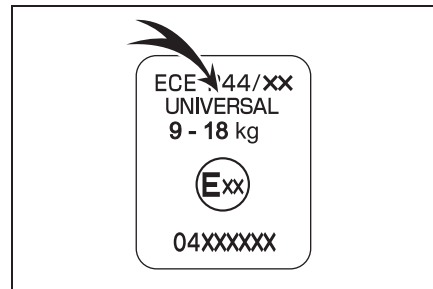
囲が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリを確認する

チャイルドシートのカテゴリが次のどのカテゴリに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

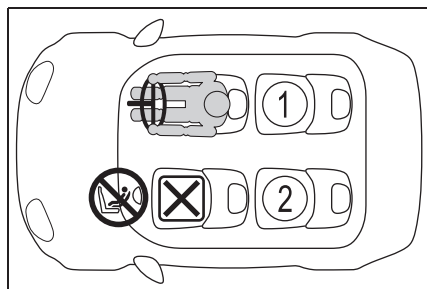
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※¹ UN(ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



①	
②	



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	②
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1※
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	F2X	F2X
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×

※ 取り付ける際には助手席のシート位置を一番前、背もたれを直立の位置に調整して助

手席には座らないでください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

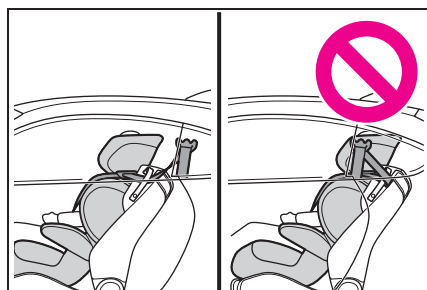
チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に

つながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

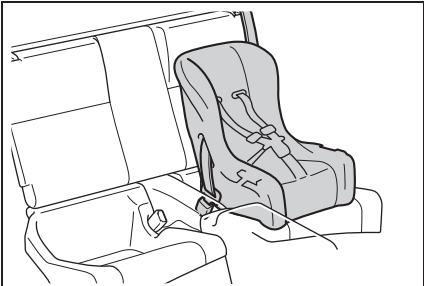
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

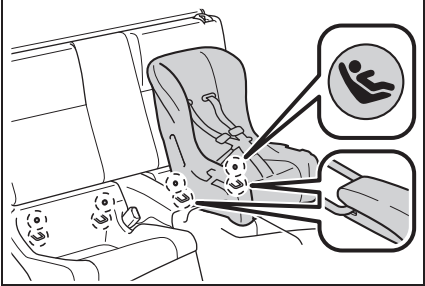
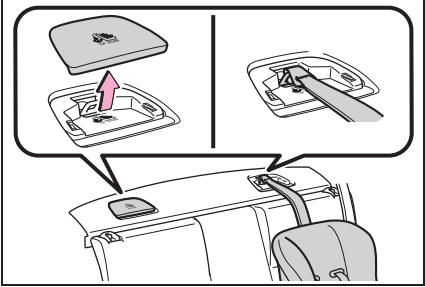


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.45

	固定方法	ページ
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.46
テザーベルトを固定する		P.48

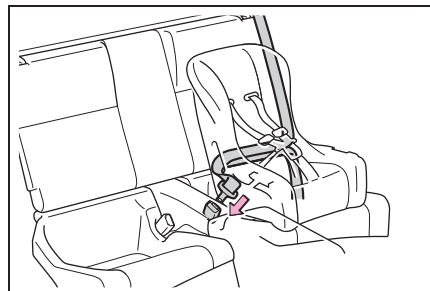
チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.41, 42）

- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

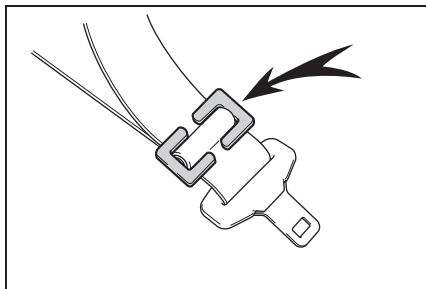
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロック

ングクリップ品番：73119-22010)



- 3** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.46)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

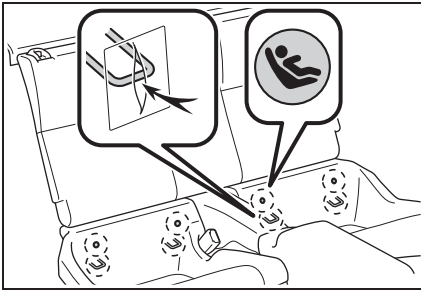
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



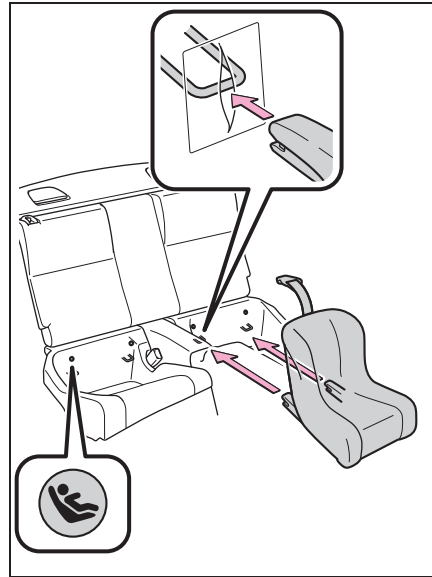
■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.41, 42）

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



2 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.46）

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

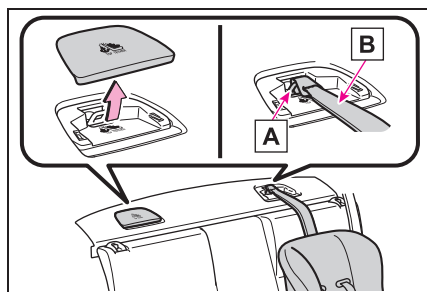
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカレッジが装備されています。テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

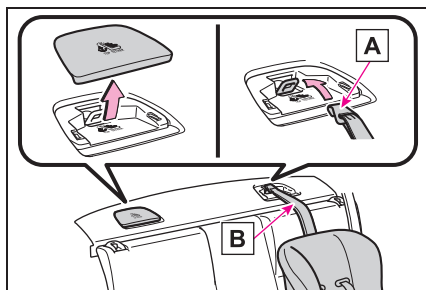
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.46)



A フック

B テザーベルト

知識

■ トップテザーアンカレッジを使用するとき

はずしたフタはなくさないように、保管しておいてください。

また、チャイルドシートを取りはずした後は、はずしたフタをもとの状態にもどしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

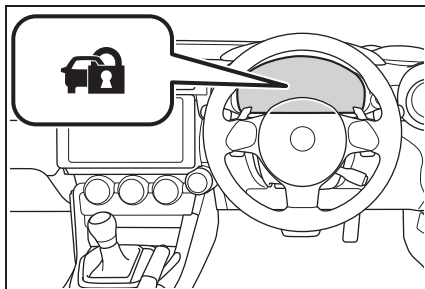
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり開けられると、オートアラームが作動します。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

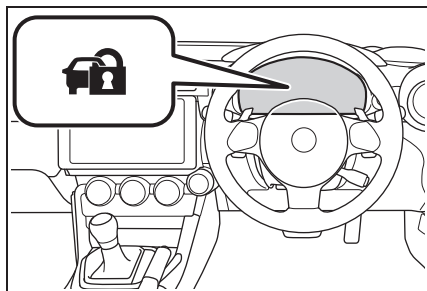
■ オートアラームを設定するには

ドア・トランクを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

インジケーター点灯中にドアの解錠操作やエンジンスイッチを ACC にすると、オートアラームは設定されません。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

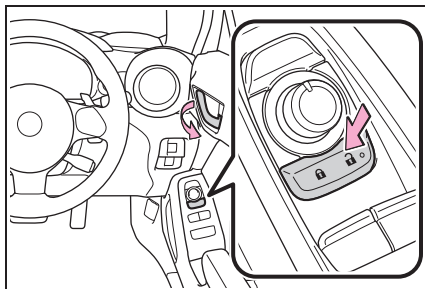
- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する

オートアラーム作動 / 非作動の切りかえ

- 1 全てのドアが閉まっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 ドアロックスイッチの  を押すと同時に運転席ドアを開け、約 10 秒間保持する

次のように作動 / 非作動が切りかわりま

す。



オートアラームの状態	ホーン	マルチインフォメーション表示
非作動	2 回吹鳴	"AL OFF"
作動	1 回吹鳴	"AL ON"

知識

■オートアラームについて

特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■トランクの開閉について

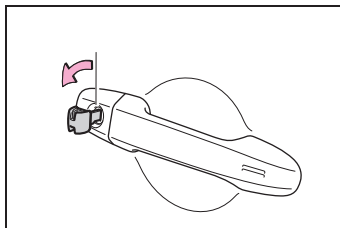
- トランクを開けたままで設定操作をした場合、オートアラームは設定されません。トランクを閉め、30 秒以上経過すると設定されます。
- オートアラーム設定時、スマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってトランクを解錠すると、オートアラームが待機状態になります。トランクを閉めて 30 秒以上経過すると、再度オートアラームが設定されます。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動

することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

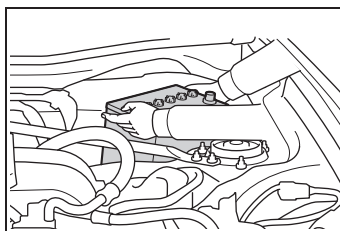
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・トランクを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき (→P.321)



⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

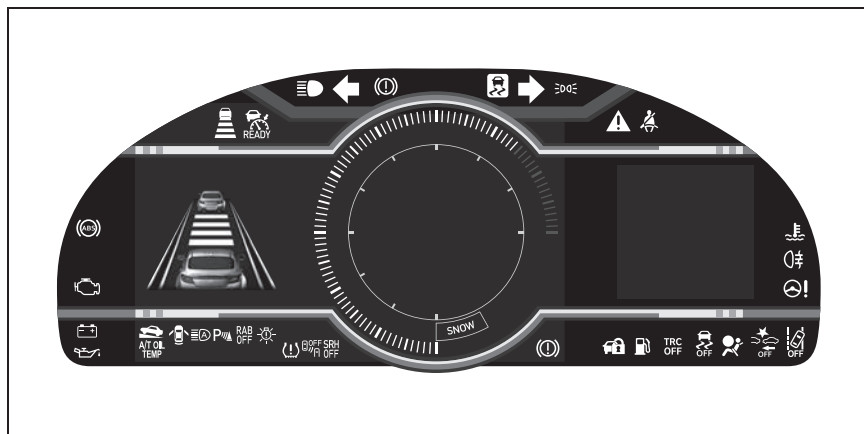
警告灯／表示灯	54
計器類	57
マルチインフォメーションディスプレイ	62

警告灯／表示灯

メーター・オーバーヘッドコンソールの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



(赤色)

ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.293)



(黄色)

ブレーキ負圧系警告灯 ※¹
(→P.293)



(赤色)

高水温警告灯 ※¹ (→P.293)



充電警告灯 ※¹ (→P.293)



油圧警告灯 ※¹ (→P.294)



エンジン警告灯 ※¹
(→P.294)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯 ※¹
(→P.294)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※¹ (→P.294)



パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.294)



燃料残量警告灯 ※¹
(→P.294)



オートマチックトランスミ
ッション油温警告灯★
(→P.295)



半ドア警告灯 (→P.295)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 ※^{1, 2}
(→P.295)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1, 3 (→P.295)



BSD / RCTA 警告灯★ (→P.296)



SRH 警告灯★ (→P.296)



RAB · クリアランスソナー警告灯 (→P.296)



スリップ表示灯 ※1 (→P.296)



LED ヘッドランプ警告灯 (→P.296)



オートヘッドランプレベラー警告灯 (→P.297)



マスターウォーニング ※1 (→P.297)



EyeSight 警告表示灯 (→P.297)



タイヤ空気圧警告灯★, ※1 (→P.297)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 助手席シートベルト警告灯はオーバーヘッドコンソールに表示されます。

※3 オーバーヘッドコンソールに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.119)



尾灯表示灯 (→P.122)



ハイビーム表示灯 (→P.123)



ハイビームアシスト表示灯 (→P.125)



リヤフォグランプ表示灯★ (→P.128)



EyeSight 一時停止表示灯 (→P.213)



プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.150)



定速クルーズ表示灯 (→P.183)

(白色/緑色)



全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロール表示 (白色/緑色) 灯 (→P.156, 171)



READY 表示灯★ (→P.156, 171, 183)



先行車表示灯 (→P.156, 171)



先行車表示灯 ※4 (→P.156, 171)



自車表示灯 ※4 (→P.156, 171, 183)



車間設定表示灯 (→P.161, 176)



車間設定表示灯 ※4
(→P.161, 176)



車線逸脱警報 OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.198, 200)



BSD / RCTA OFF 表示灯 ★
※2 (→P.215)



SRH OFF 表示灯 ★ ※2
(→P.124)



RAB OFF 表示灯 / 一時停止
表示灯 ★ ※1, 2 (→P.205)



クリアランスソナー OFF 表示
灯 / 一時停止表示灯 ※2
(→P.205, 206)



(点滅)

スリップ表示灯 ※1
(→P.224)



VSC OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.224)



TRC OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.224)



スマートエントリー&スター
トシステム表示灯 ※4
(→P.109)



ヒルスタートアシストコント
ロール作動表示灯 (→P.221)



(青色)

低水温表示灯 ※3



低温表示灯 ※5 (→P.57)



セキュリティ表示灯 (→P.49, 50)



シフトアップ/ダウン可能表
示灯 ★ (→P.116)



シフトアップインジケター ★
(→P.119)

● 走行モード表示

▶ ノーマルモード時



スノーモード表示灯 ★
(→P.220)



スポーツモード表示灯 ★
(→P.220)

▶ TRACK モード時



スノーモード表示灯 ★
(→P.220)



スポーツモード表示灯 ★
(→P.220)



TRACK 表示灯
(→P.225)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはエ
ンジンをかけると消灯します。点灯し
ない場合や点灯したままのときはシス
テム異常のおそれがあります。トヨタ
販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 エンジン冷却水温が低いときに点灯し
ます。

※4 マルチインフォメーションディスプレ
イに表示されます。

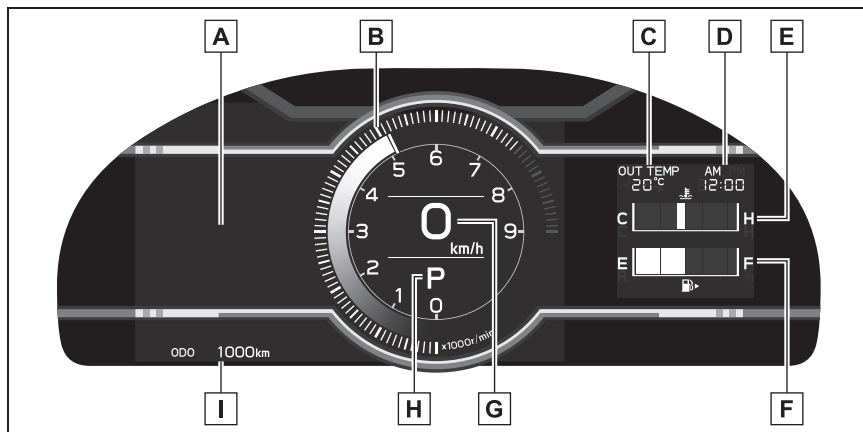
※5 外気温が約 3° C 以下のときに点灯し
ます。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ ノーマルモード時

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.62)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.299)

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低く表示されます。

C 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

D 時計**E** 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

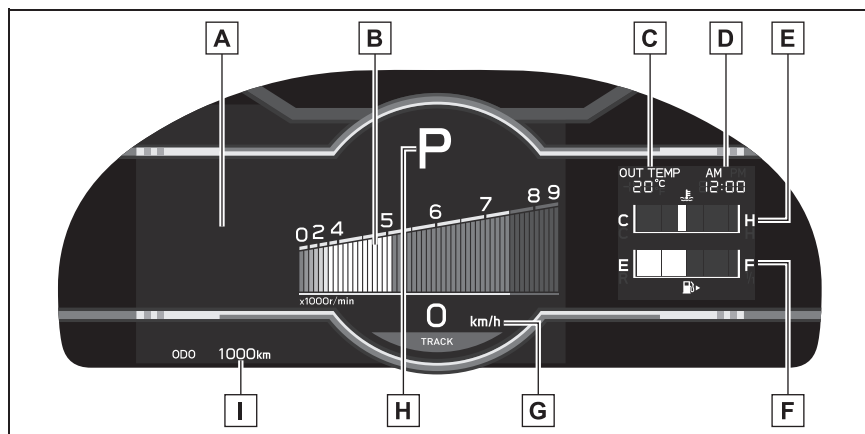
- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

G スピードメーター

H シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.113, 118)

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.60)

▶ TRACK モード時



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.62)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.299)

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低く表示されます。

C 外気温

外気温度を -40° C ~ 50° C のあいだで表示します。

D 時計

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

G スピードメーター

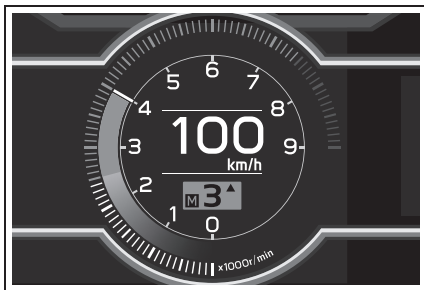
H シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.113, 118)

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.60)

■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数に到達すると、シフトポジション・ギヤ段表示部が橙色に点灯し、ブザーが鳴ります。また、レッドゾーンに入るとシフトポジション・ギヤ段表示部が赤色に点灯します。

初期設定は非表示になっています。表示／非表示を切りかえることができます。(→P.333)



REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの  で設定することができます。

知識

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.62

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。(→P.67)

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低くなるためエンジン回転数に注意してください。
- 水温計の表示が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.323)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

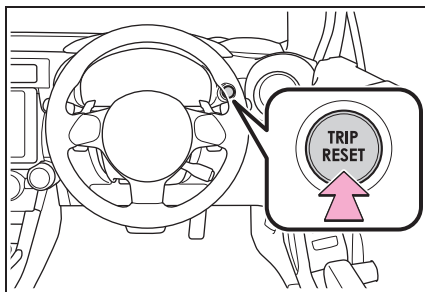
● トリップメーター A /トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

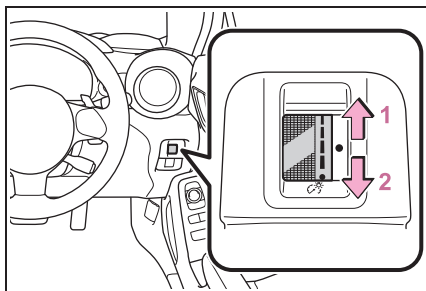
■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



画面やスイッチ類の明るさを調整するには

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに、インストルメントパネル照度調整ダイヤルでメーターおよびインストルメントパネル照明などの照度を調整できます。



1 明るくする

2 暗くする

□ 知識

■ 減光制御について

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯すると、メーターおよびインストルメントパネル照明などは減光されます。ただし、インストルメントパネル照度調整ダイヤルを上側いっぱいにもわした状態では、ヘッドランプまたは車幅灯が点灯してもこれらの照明は減光されません。

■ オートディマーキャンセル機能

昼間やランプを早めに点灯させたいときなど周囲が明るいときには、自動で減光をキャンセルします。このとき、インストルメントパネル照度調整ダイヤルを回しても明るさを調整することはできません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

時計の調整をするには

マルチインフォメーションディスプレイの  から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
 - 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “時計” を選択する
 - 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “:00” を選択する
“はい” を選択すると分を 00 に合わせることができます。
- 0 ～ 29 分は切り下げられます。
(例えば、1:00 ～ 1:29 は 1:00 になります。)
 - 30 ～ 59 分は切り上げられます。
(例えば、1:30 ～ 1:59 は 2:00 になります。)

■ 詳細設定

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “時計” を選択する
- 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “時刻合わせ” を選択する
- 4 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して変更したい項目を選択する

- 5 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができません。

● AM / PM[※]

● 時

● 分

[※] 表示形式が “12H” に設定されている場合のみ変更できます (→P.333)

マルチインフォメーションディスプレイ

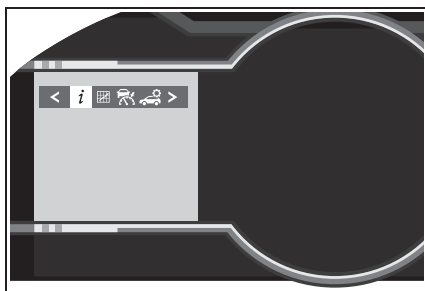
ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ 通常表示

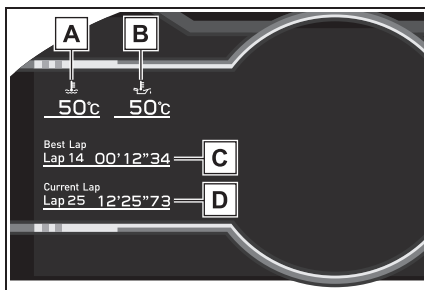
メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



▶ TRACK モード専用表示

TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にすると、TRACK モード専用表示を固定表示します。(→P.150)



A 水温計 (→P.57)

B 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

C 最速ラップタイム

操作方法は P.66 を参照してください。

D 現在のラップタイム

操作方法は P.66 を参照してください。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押すとメニューアイコンが表示されます。



ドライブインフォメーション (→P.63)



スポーツインフォメーション (→P.64)



運転支援機能情報 (→P.67)



運転支援機能設定 (→P.67)



設定 (→P.67)



警告メッセージ (→P.299)

□ 知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

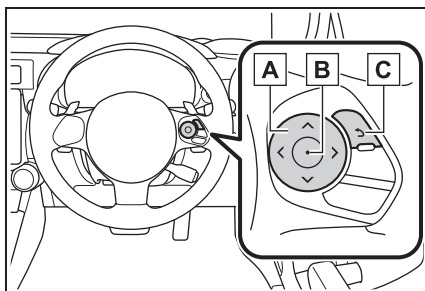
■ 低温時の画面表示について

→P.57

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

各コンテンツ特有の操作方法については、それぞれのコンテンツの説明を参照してください。



- A** < / > : メニューの切りかえ
 ^ / v : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動
- B** 短押し: 決定
 長押し: リセット / G の表示範囲切りかえ
- C** ひとつ前の画面にもどる

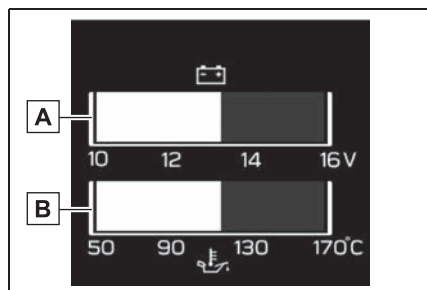
ドライブインフォメーション

■ 表示項目

メーター操作スイッチの < または > を押して **i** を選択し、^ または v を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- ドライブインフォメーション 3
- ドライブインフォメーション 4

■ **ドライブインフォメーション 1**
 表示される数値は参考として利用してください。



A 電圧計

電圧の状態を表示します。

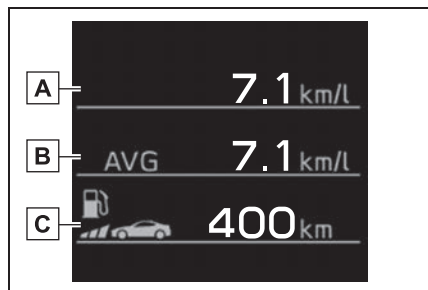
電圧計は実際のバッテリー電圧とは異なります。

B 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。

■ ドライブインフォメーション 2

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

○を長押しすると、平均燃費はリセットされます。

C 航続可能距離

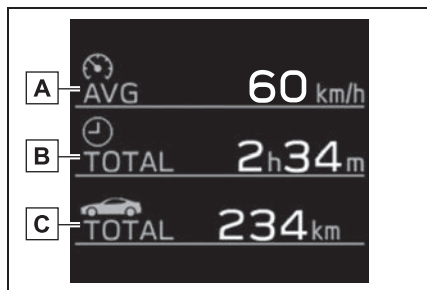
現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ ドライブインフォメーション 3

表示される数値は参考として利用してください。



A 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

B 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

C 走行距離

リセットしてからの走行距離を表示します。

○を長押しすると、平均車速・走行時間・走行距離はリセットされ、0に戻ります。

■ ドライブインフォメーション 4 (タイヤ空気圧警報システム装着車)

タイヤの空気圧を表示します。
(→P.265)

スポーツインフォメーション

■ 表示項目

メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択し、▲ または ▼ を押すことで次の項目を表示することができます。

● G モニター

車両にかかる G の動きを確認するのに適しています。

● G モニター（ピークホールド表示）

車両にかかった最大 G の大きさや方向を確認するのに適しています。

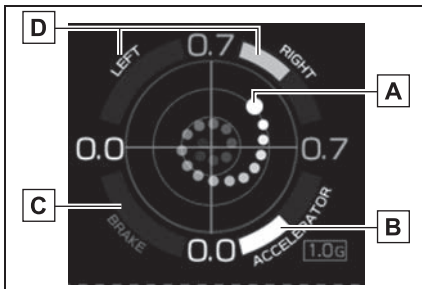
● パワー・トルクカーブ

● ストップウォッチ

■ G モニター

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



A 現在の G 値（前後左右に分解した値）

B アクセル開度量

C ブレーキ液圧

D ステアリング操作量

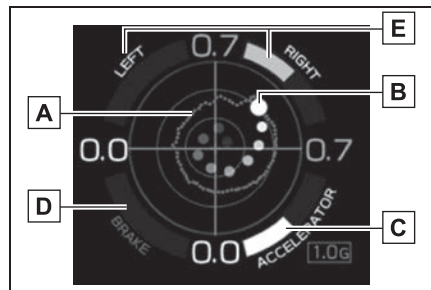
○を長押しすると、G の表示範囲を切りかえることができます。

■ G モニター（ピークホールド表示）

車両にかかる前後左右の G（加速

度）を表示します。また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



A 最大 G の軌跡

○を長押しすると、軌跡をリセットすることができます。

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

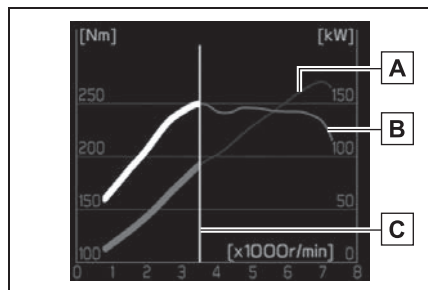
C アクセル開度量

D ブレーキ液圧

E ステアリング操作量

■ パワー・トルクカーブ

表示される曲線図は実際に発生するトルク・出力をあらわすものではありません。表示画面は参考として利用してください。



A 出力曲線

B トルク曲線

C 現在のエンジン回転数

実際のエンジン回転数に応じて、左右にスライドします。

■ ストップウォッチ

ラップタイムを計測することができます。

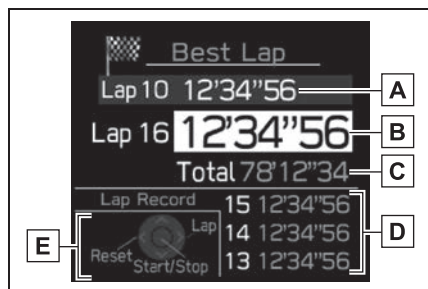
▶ トップ画面



A 最速ラップタイム

計測タイムをリセットすると、表示が「--' --'' --」に戻ります。

▶ 計測画面



A 最速ラップタイム

B 現在のラップタイム

C 計測開始からの合計タイム

D 過去のラップタイム

最大 50 ラップまで記録します。

E メーター操作スイッチの操作ガイド

● 表示画面の切りかえ方

トップ画面から計測画面への切りかえ

: を押してください。

計測画面からトップ画面への切りかえ

: を押してください。

● 計測画面の操作方法

: 計測開始／停止

: ラップ

: 計測タイムのリセット

: 過去のラップタイムのページ送り

● 計測タイムのリセット

計測停止後、 を押してください。

● 他のコンテンツへの切りかえ方

を押してトップ画面に戻ること、他のコンテンツへ切りかえることができ

るようになります。

他のコンテンツを表示しているときでも、タイムの計測は継続されます。ただし、計測開始／停止やラップなどの計測操作を行うことができなくなります。

知識

■ G モニターの表示について

- 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。
- バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

■ ストップウォッチのタイム計測について

タイム計測中にエンジンを停止すると、タイム計測は停止し、計測停止時点までのタイムが記憶されます。

運転支援機能情報

クルーズコントロールの作動状況を表示します。(→P.151, 166, 182)

運転支援機能設定

■ 変更できる項目

- LDW (車線逸脱警報)
- PCB (プリクラッシュブレーキ)
- BSD/RCTA (後側方警戒支援システム) ★
- RAB(自動[被害軽減]ブレーキ) ★

● PWS (クリアランスソナー)

● SRH (ステアリング連動ヘッドランプ) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定

■ 変更できる項目 (メーター表示)

● 時刻表示

→P.60

● 言語

表示される言語を変更することができます。

● 初期演出

エンジンスイッチを ON にしたときのオープニング演出の表示・非表示を変更することができます。

● GSI (シフトポジション表示) ★

シフトポジションとシフトアップインジケータの表示・非表示を変更することができます。

● REV インジケーター

・ REV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。

・ ブザーの作動・非作動を変更することができます。

・ REV インジケーター (橙色) が表示されるエンジン回転数を変更することができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.333



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

3-1. キー

キー 70

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 73

トランク 75

スマートエントリー&スタートシステム 79

3-3. シートの調整

フロントシート 87

リヤシート 89

ヘッドレスト 91

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 93

インナーミラー 94

ドアミラー 95

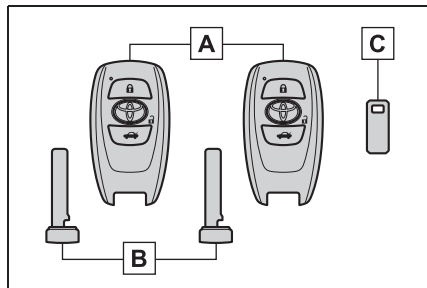
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ 97

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.79)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.71)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。

(→P.80)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.272)
- ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。
- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器
- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■ 電池が切れたとき

→P.272

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

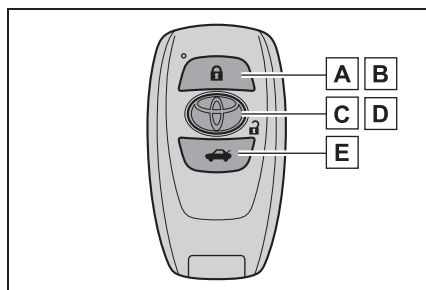
→P.318

■ 電子キーを紛失したとき

→P.317

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアを施錠する (→P.73)

B ドアガラスを閉める ※
(→P.73)

C ドアを解錠する (→P.73)

D ドアガラスを開く ※ (→P.73)

E トランクを開ける (→P.78)

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

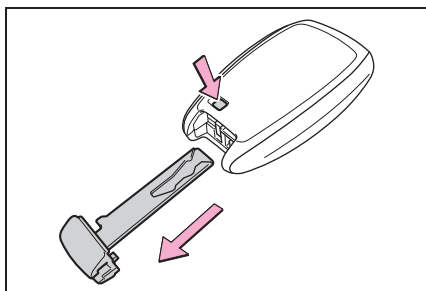
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかって挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&ス

タートシステムが正常に作動しないとき、
メカニカルキーが必要になります。
(→P.318)



 知識

■メカニカルキーを紛失したとき

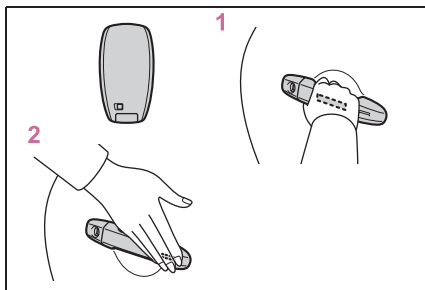
→P.317

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



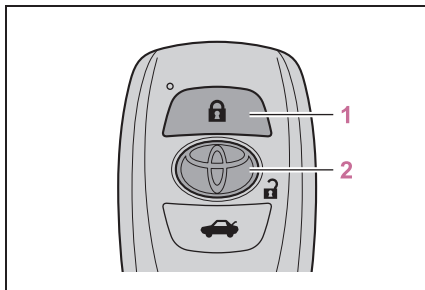
1 ドアハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

知識

■ ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアを開閉しやすくするために、ドアガラス全閉時はドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

ただし、バッテリーがあがったり、はずれているときは開閉しません。

(→P.323)

■ 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

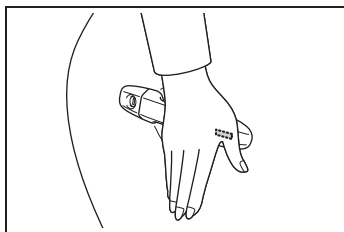
■ 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.50)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.80

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.318)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.272)

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.318)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中はすべてのドアを確実に閉め、施錠してください。

ドアが確実に閉まっていないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ドア連動ドアガラス開閉機能

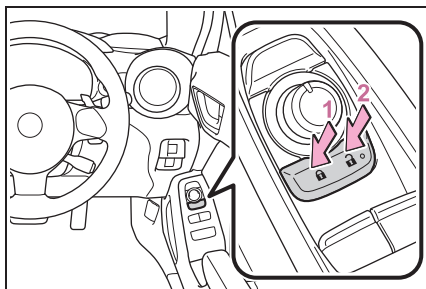
ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

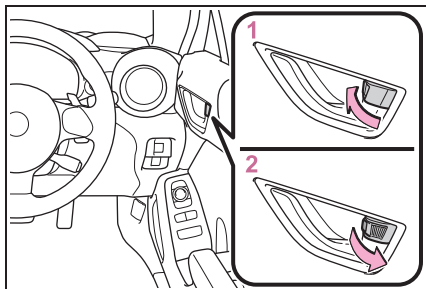
■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する



■ キーを使わずに外側から施錠するときは

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ キー閉じこみ防止機能

車内に電子キーが放置されているとき、ドアが施錠されないようにします。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

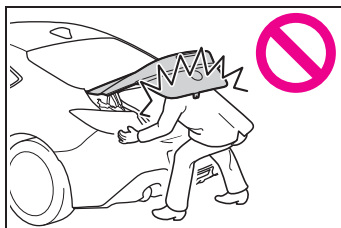
⚠ 警告

■ トランクの使用にあたって

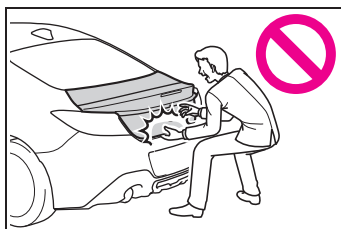
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは排気ガスに触れないようにしてください。エンジンをかけたままのときは、排気ガスの熱でやけどをするおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



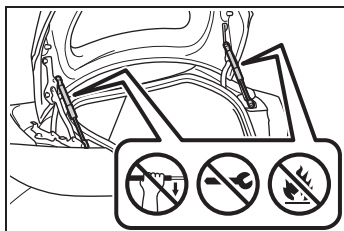
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ トランクダンパーステーについて

- ステーに手をかけない
- ステーを分解しない

⚠ 警告

- ステーを火の中に入れない



- トランクダンパーステーを持ってトランクを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、トランクダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ トランクの使用にあたって**

トランクを閉めるときにはトランクを上から強く押しつけないでください。トランクがへこむことがあります。

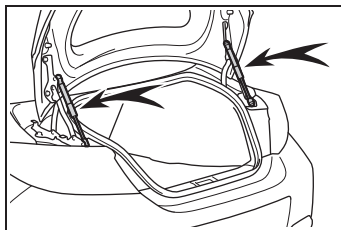
■ トランクダンパーステーについて

トランクにはトランクリッドを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。

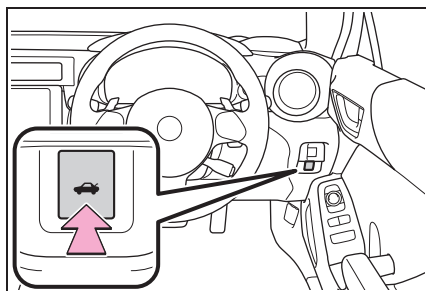
ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない

- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

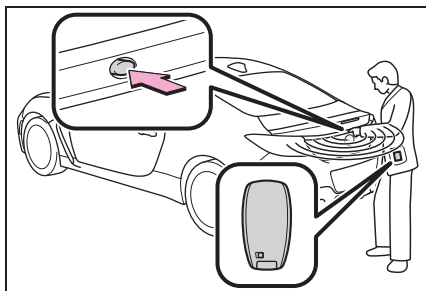
**トランクを開閉するには****■ トランクオープナースイッチを使用して開く**

トランクオープナースイッチを長押しする

**■ スマートエントリー&スタートシステムを使用して開く**

電子キーを携帯し、トランクオープンスイッチを押す

すべてのドアが解錠されている場合は、電子キーを携帯していなくてもトランクを開くことができます。ただし、走行中（車速が5 km/h 以上）はロック状態となるため、次にドアを開くまではトランクを開けることはできません。



■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



知識

■ トランクランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクオープンスイッチで開けることができます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべ

ての電子キーを携帯してください。

- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープンスイッチでトランクを開けてください。

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.272)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

スマートエントリー&スタートシステム

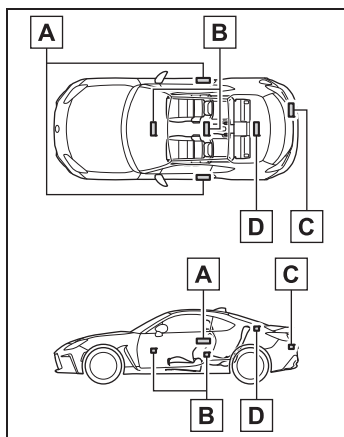
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する
(→P.73)
- トランクを施錠・解錠する
(→P.77)
- エンジンを始動する
(→P.109)



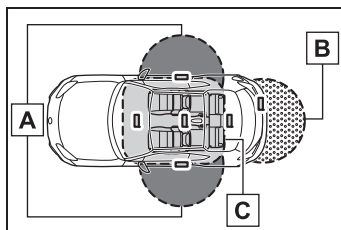
知識

■ アンテナの位置



- A** 車外アンテナ
- B** 車室内アンテナ
- C** トランク外アンテナ
- D** トランク内アンテナ

■ 作動範囲 (電子キーの検知エリア)



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 40—80cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアのみ作動します)

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 40—80cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P.299)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
どちらかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車外から警告音が“ピー”と2秒鳴るとき

状況	対処方法
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、

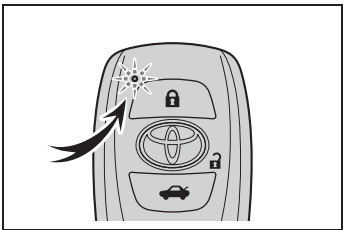
運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
- 純正用品以外の部品を取りつけたとき
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.318）

また、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.319 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなるこ

とがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)

- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で3回まで有効で、4回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)
 - ・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P.80)
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のカブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から

2m以上離しておいてください。

- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.83)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.80)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が動かないこともあります。)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P.318
- エンジンの始動：→P.319

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

■スマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.73, 318)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切り替え：→P.319
- エンジンの停止：→P.111

⚠ 警告**■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.79）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。（→P.83）

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするには

次の場合、スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の機器を装着されている方がお車に乗車するとき
- 長期間お車を使用しないとき、またはスマートエントリー&ス

タートシステムを使用しないとき

- やむを得ず電子キーを車室内やお車の周辺に保管したいとき

スマートエントリー&スタートシステム非作動中は、ワイヤレスリモコンで施錠・解錠してください。

エンジンを始動するときは、電子キーをエンジンスイッチにふれる必要があります。（→P.319）

■ スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止させるとき

スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止するには、ドア開閉による方法とワイヤレスリモコンによる方法があります。

▶ ドア開閉による方法

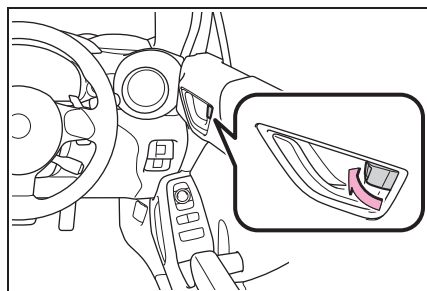
- 1 運転席に座りドアを閉める
- 2 ドアロックスイッチの  を押す
- 3 手順 2 の操作後、5 秒以内に運転席ドアを開ける
- 4 手順 3 の操作後、5 秒以内にドアを開けたままドアロックスイッチの  を 2 回押す
- 5 手順 4 の操作後、10 秒以内に運転席ドアの開閉操作を 2 回行う
- 6 手順 5 の操作後、10 秒以内にドアを開けたままドアロックスイッチの  を 2 回押す
- 7 手順 6 の操作後、10 秒以内に運転席ドアの開閉操作を 1 回行う

8 手順 7 の操作後、5 秒以内に ドアを閉める

ブザーが約 2 秒間鳴り、スマートエントリー&スタートシステムが非作動になります。

▶ ワイヤレスリモコンによる方法

1 運転席のドアを開け、ロックレバーを前側に押す



2 ワイヤレスリモコンの および を同時に 5 秒以上押す

ブザーが約 2 秒間鳴り、スマートエントリー&スタートシステムが非作動になります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの作動を復帰させるとき

選択した手順をもう一度行くと、スマートエントリー&スタートシステムの作動を復帰させることができます。

このときブザーが鳴ります。



知識

■ ドア開閉による方法について

手順 4 および手順 6 では、ドアロックスイッチを確実に押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しないときがあります。

■ ワイヤレスリモコンによる方法について

ワイヤレスリモコンによる方法は暗証コード式スマートエントリーの暗証番号を登録すると使用できます。(→P.84)

■ スマートエントリー&スタートシステムの作動を復帰させるときは

どちらの作動停止方法を行ったか分からなくなった場合、エンジンスイッチを押してください。

● ワイヤレスリモコンによる方法でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にした場合、室内ブザーが鳴ります。

● ドア開閉による方法の場合、ブザーは鳴りません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)



注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止させるとき

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の機器を装着されている方は、必ずドア開閉による方法で機能停止または復帰させてください。

ワイヤレスリモコンによる方法は誤操作により機能が復帰する可能性があります。

暗証コード式スマートエントリーで解錠する

5 ケタの暗証番号を登録しておくと、トランクオープンスwitchを押すことにより電子キーを使わずにすべてのドアと給油扉を解錠することができます。

■ 暗証番号の登録方法

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 全てのドア（トランク含む）を閉める
- 3 ワイヤレスリモコンの  を押し続ける

このとき全てのドアと給油扉が施錠されます。

- 4 手順 3 の状態のまま 5 秒以内にトランクオープンスイッチを押し続ける

5 秒以上経つとブザーが鳴ります。

- 5 ワイヤレスリモコンの  とトランクオープンスイッチから手を離す

- 6 ブザーが鳴ってから 30 秒以内にワイヤレスリモコンの  を押す

ブザーが止まります。

- 7 暗証番号を登録します。トランクオープンスイッチを 1 ケタ目に設定したい数字の回数分押す

例：32468 の場合、3 回押します。

- 8 ブザーが 1 回鳴るのを待ち、次の数字の回数分押す

例：32468 の場合、2 回押します。

- 9 手順 8 を繰り返し、5 ケタの数字を入力する

- 10 ブザーが断続的に鳴ってから約 30 秒以内に再度番号確認のため、手順 7 から手順 9 までの操作を行う

登録が完了すると、全てのドアと給油扉が施錠から解錠になります。

■ 解錠方法

手順 7 から手順 9 と同じ手順でトランクオープンスイッチを押してください。



■ 暗証番号の登録について

- 盗難防止のため、5 ケタとも同じ数字や 12345 の登録はできません。また、お車の登録番号や簡単なものは避けてください。
- 0 を登録するときは 10 回トランクオープンスイッチを押してください。
- 登録操作を間違えた場合は、一度ドアまたはトランクをワイヤレスリモコンで解錠し、登録をキャンセルしてください。
その後手順 1 から登録操作を始めてください。ただし、手順 10 で押し間違えた場合は、再度ブザーが鳴ってから、手順 10 をもう一度やり直すことができます。
- 暗証番号を消去するときは、同じ手順で 22222 を登録します。
- 新しい暗証番号を登録したら必ず解錠することを確認してください。
- ワイヤレスリモコンによる方法でスマートエントリー&スタートシステムを停止している場合、暗証コード式スマートエントリーの暗証番号は消去できません。（→P.83）
- 次の場合は、同じ手順で暗証番号を登録しなおしてください。
 - ・ 暗証番号を忘れてしまった
 - ・ 暗証番号を変更したい
- 暗証番号は定期的に変更してください。
- 他人にお車を貸したときは、暗証番号が変更または消去されていないか確認してください。変更または消去されているときは、新しい暗証番号を登録し

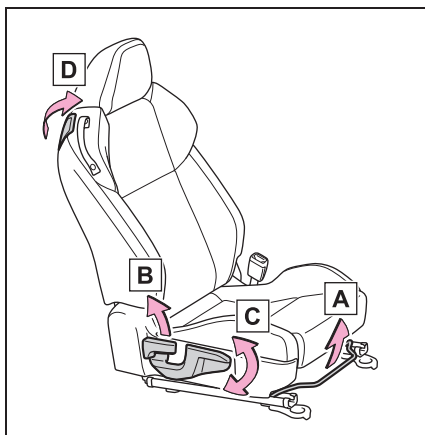
なおしてください。

■解錠方法について

- 電子キーが作動エリア内にあるときはスマートエントリーの動作が優先されます。
- 解錠中に操作を間違えた場合は、5 秒以上待って最初からやり直してください。
- 連続5回操作ミスをする则ブザーが約2秒間鳴り、5 分間操作を受け付けません。

フロントシート

調整のしかた



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** シート全体の上下調整（運転席のみ）
- D** シートバックの前倒し

リヤシートへの乗り降り

リヤシートへ乗り降りするには、ウォークインレバーかリクライニング調整レバーを操作します。

■ 乗り降りする前に

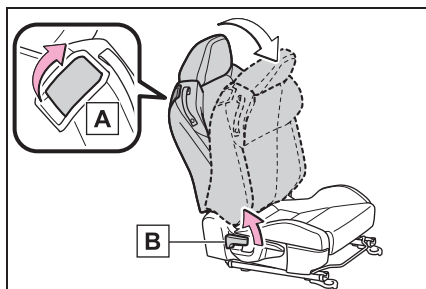
シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。
（→P.25）

■ 乗り降りするとき

▶ 運転席側

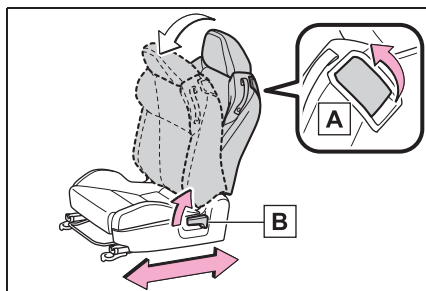
ウォークインレバー**A**または、リクライニングレバー**B**を引く
背もたれが前倒しされます。

リヤシートへ乗り降りしにくい場合は、シートを前に移動させてください。



▶ 助手席側

ウォークインレバー**A**または、リクライニングレバー**B**を引く
背もたれが前倒しされます。
シートを前後に移動させることができます。



■ 乗り降りしたあとは

背もたれを起こし、シートを固定させてください。

助手席のみ：背もたれを起こした位置でシートの前後位置が固定されます。

知識

■ シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

 警告**■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
とくにシートをうしろに下げるときは、リヤシートの乗員の足を挟んだりしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ 走行中は

- 絶対に前後位置調整やウォークインレバーまたはリクライニング調整レバーを操作しないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートへの乗り降りについて

- リヤシートへ乗り降りするときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

- リヤシートへ乗り降りするときは、シートレールにつまづいて転倒しないよう注意してください。

- リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。

■ リヤシートからのフロントシート操作について

フロントシートに乗員がいるときは操作をしないでください。

 注意**■ シートを調整するときは**

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

■ フロントシートへの乗り降りについて

乗り降りするときに身体が座面のサイドサポート部にあたり、シートに擦り傷がつくことがあります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

1 フロントシートを前方に移動する (→P.87)

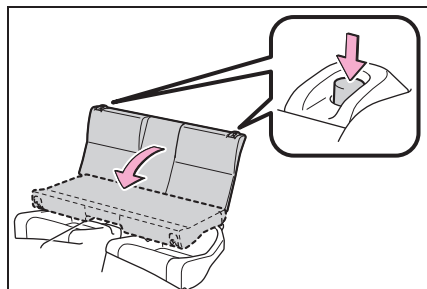
2 背もたれを倒す

▶ ロック解除ボタン

ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

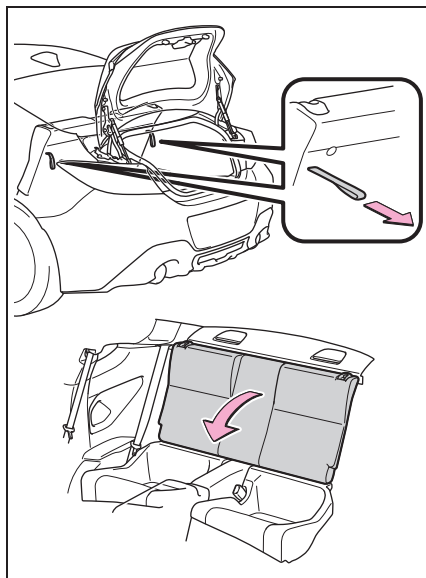
もどすときは、背もたれを起こして固定します。



▶ ロック解除ストラップ

トランク内のストラップを引き、背もたれを前方に倒す

もどすときは、背もたれを起こして固定します。



知識

■ シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

警告

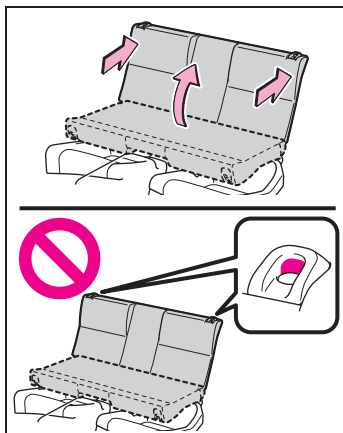
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれを前倒しするときは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車ではP、マニュアル車ではNにする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

警告**■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

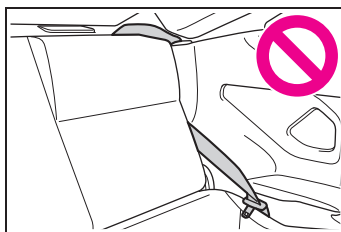
- シートを押して固定し、前後に軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する。
シートが確実に固定されていないときは、ボタンの奥に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

■ リヤシートベルトを使用する前には

シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



ヘッドレスト

ヘッドレストはフロントシートに装備されています。

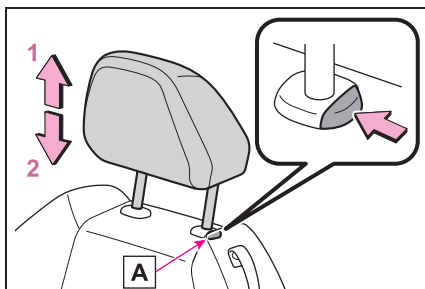
⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには



1 上げる

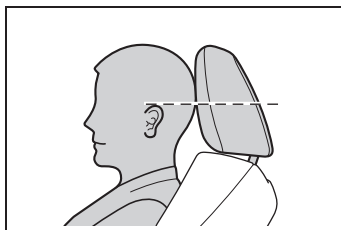
2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて

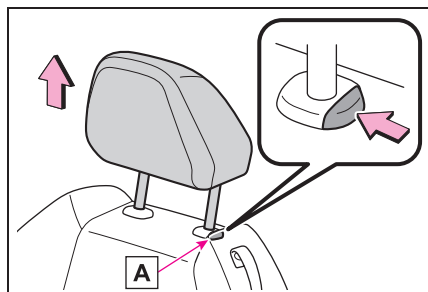
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げる

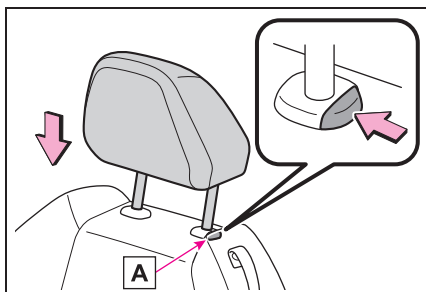
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。



ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

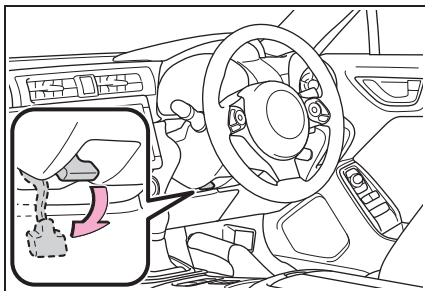
さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。



ハンドル

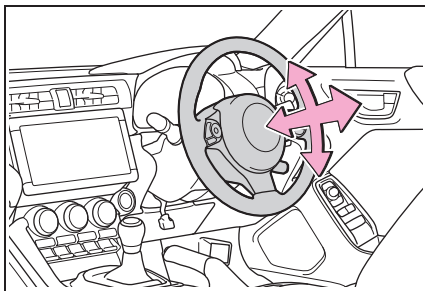
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

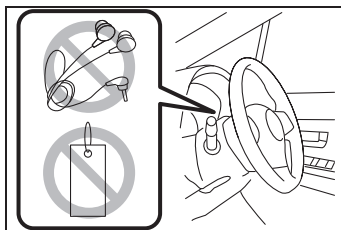
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

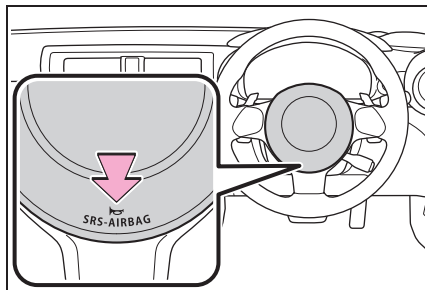
■ 走行前の確認

ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っかけたりしないで下さい。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRS エアバッグシステムが正常に動作しなくなるおそれがあります。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



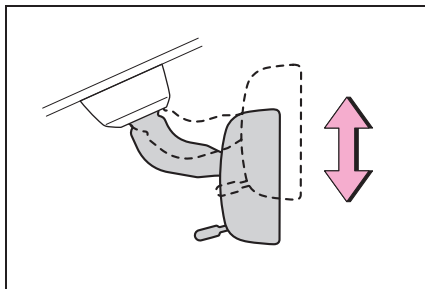
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

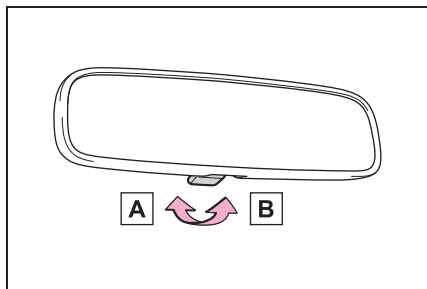
■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

B 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ 走行中の留意事項

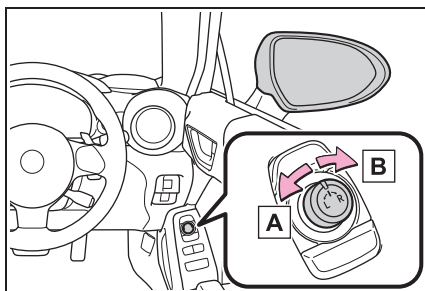
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

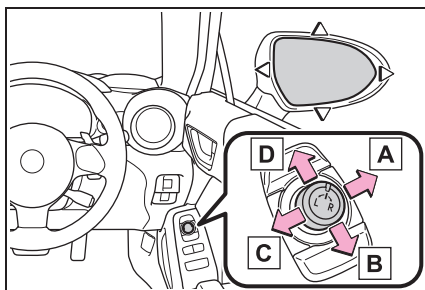
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 右

B 下

C 左

D 上

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。(→P.236)

⚠ 警告

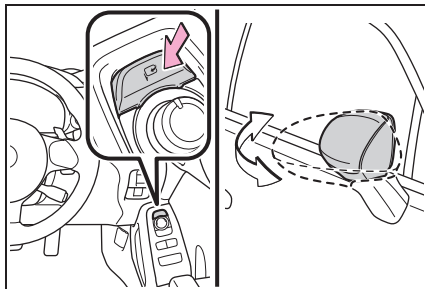
■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには

スイッチを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置に戻ります。



⚠ 警告

■ミラーが動いているとき

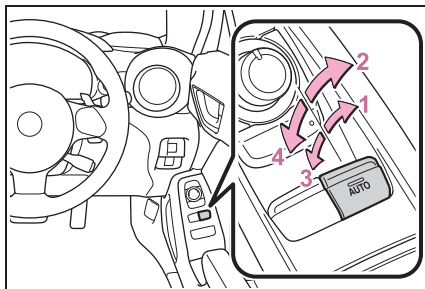
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 40 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだにドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、ドアガラスに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 1 すべてのドアが閉まっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒間押し続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で引き続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.73)

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

警告

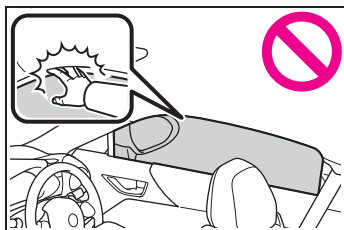
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.98)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたすらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

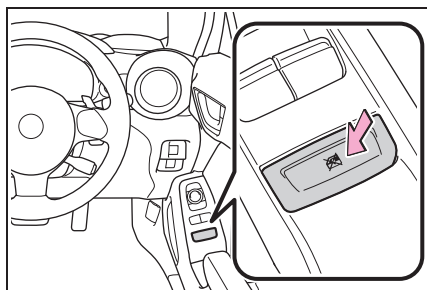
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには (ウィンドウロックスイッチ)

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。



4-1. 運転にあたって

運転にあたって	100
荷物を積むときの注意	107

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	109
オートマチックトランスミッション	113
マニュアルトランスミッション	117
方向指示レバー	119
パーキングブレーキ	120
アクティブサウンドコントロール	121

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	122
ハイビームアシスト	125
リヤフォグランプスイッチ	128
ワイパー&ウォッシャー	129

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	131
---------------	-----

4-5. EyeSight

EyeSight	134
ブリクラッシュブレーキ	142
全車速追従機能付クルーズコントロール	151
追従機能付クルーズコントロール	166
定速クルーズコントロール	182
AT 誤発進抑制制御	190
AT 誤後進抑制制御	194
車線逸脱警報	197
ふらつき警報	199

先行車発進お知らせ	201
RAB（後退時ブレーキアシスト）	202
クリアランスソナー	206
EyeSight システムの作動音	210
EyeSight システムの故障および一時停止	212

4-6. その他の運転支援機能

BSD / RCTA（後側方警戒支援システム）	215
ドライブモードセレクトスイッチ	220
ヒルスタートアシストコントロール	221
運転を補助する装置	224

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	229
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをつける

→P.109

■ 発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→P.113)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→P.120)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする (→P.117)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→P.120)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→P.113)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。(→P.117)

■ 駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.120)、シフトレバーを P にする (→P.113)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける (→P.120)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 シフトレバーを N にする (→P.117)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R に

し、輪止め※を使用してください。

- 4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

▶ オートマチック車

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを 1 速にする
- 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

□ 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.221)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりや

すいため、慎重に走行してください。

- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について (オートマチック車)

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離れたとき
- カーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを強めに踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

■ エンジン始動後の音について

エンジン始動後しばらくは、環境性能を確保するため、吸排気音が大きくなり、振動が増す場合がありますが、異常ではありません。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッド（スポーツブレーキパッド）装着車について

- 車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。
- ブレーキダストが出やすく、ブレーキパッドの寿命が短い場合があります。
- ブレーキパッドの貼り付きがすることがあります。
- 低温、雪、水などの影響でブレーキの効きが低下することがあります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

- マニュアル車では、クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路わきに停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.284を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。

（→P.113, 117）

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

- 渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

- オートマチック車では、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトレバー周辺にものを置かないでください。誤操作の原因になります。

- 掃除等により、シフトブーツを引き出した際は、もとに戻してください。
シフトブーツが引き出されたままだと、シフトレバーが操作しにくくなるおそれがあります。

 警告**■ 継続的にブレーキ付近から金属的な摩擦音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。摩擦音が発生した状態で走行を続けていると、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩擦していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。
- フロントウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 運転する前は

エンジンルーム内や車両の下に、小動物（猫やねずみなど）がいないことを確認してください。エンジン始動時に、小動物が巻き込まれてファンやベルトが損傷するおそれがあります。

 注意

■運転しているとき（オートマチック車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転しているとき（マニュアル車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。その場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する
- ・1 速以外での発進は避ける
- ・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままでは走行しない
- ・クラッチペダルで車速を調整しない

- ・シフトレバーを N 以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する

- 車両が完全に停止してから R に入れてください。
クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

■駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
- オートマチック車では 5 秒以上空ぶかしをしないでください。
ブレーキペダルを踏んでいるまたは輪止めをしている状態で、シフトレバーが P または N 以外にあると、トランスミッションフルードの温度が上昇し、オーバーヒートするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.300, 309を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンスト
- 電装品のショート
- 水を吸い込んでのエンジン破損
- グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・クラッチ・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・クラッチフォーク・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアル車）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

 警告

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル車）をしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  および  とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

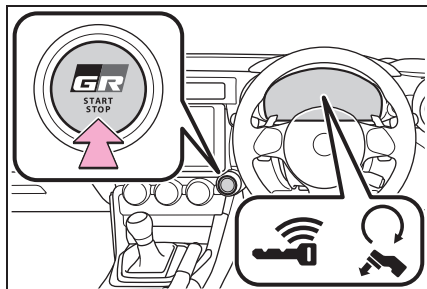
エンジンが始動するまで最大 10 秒間スターターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



知識

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P.49）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.320 を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.70

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.80

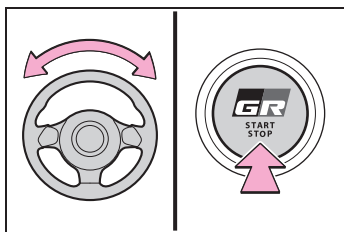
■ ご留意いただきたいこと

→P.81

■ ステアリングロック機能

- エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイにと“ハンドルのロックが解除されていません ハンドルを左右に回しエンジンスイッチ ON”が表示されます。シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■電子キーの電池交換

→P.272

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■スマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.318 を参照してください。

■バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は

エンジンが始動しないことがあります。その場合はエンジンスイッチを ON にし、10 秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドルリングが不安定になることがあります、異常ではありません。

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- オートマチック車：エンジン始動操作時はシフトレバーを操作しないでください。

**注意****■ エンジンスイッチの操作について**

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジン停止するには**▶ オートマチック車**

- 1** 車両を完全に停止させる
- 2** パーキングブレーキをかけて（→P.120）、シフトレバーをPの位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 4** ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

▶ マニュアル車

- 1** 車両を完全に停止させる
- 2** パーキングブレーキをかける（→P.120）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3** シフトレバーをNにする（→P.117）

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 5** ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”

や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

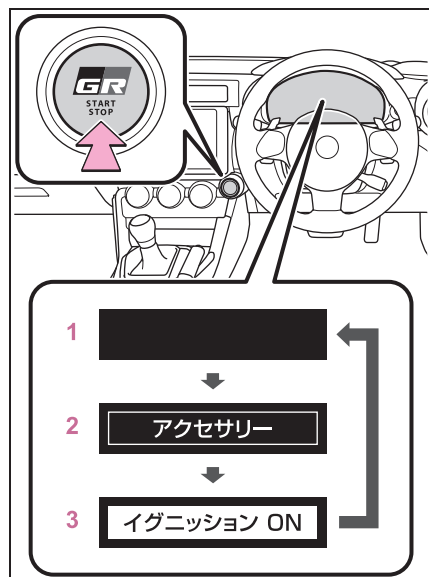
**警告****■ 緊急時のエンジン停止方法**

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.284）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- オートマチック車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。
- マニュアル車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、クラッチペダルを踏み、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわり

ます)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリ”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに“イグニッション ON”が表示されます。

※ オートマチック車：シフトレバーが P 以外のときは ACC になり、OFF になりません。



知識

■自動電源 OFF 機能

オートマチック車：シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か 30 分以上 ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20 分以上 ACC か 30 分以上 ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、メーターの“アクセサリ”または“イグニッション ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする

- 3 メーターに“アクセサリー”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
- 4 メーターの“アクセサリー”または“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**
シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがACCとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランスミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
	一時的なマニュアルモード走行 (→P.115)
M	マニュアルモード走行 ※2 (→P.116)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※2 マニュアルモードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 全車速追従機能付クルーズコントロールを使って走行しているとき

定速走行中であってもダウンシフトすることができます。ダウンシフト後も設定した速度を保持します。(→P.115, 116)

■停車したときのギヤ段について

暖機中のアイドリング回転数が高いとき、かつ路面がすべりやすい状態のときは、自動的に2速での停止・2速からの発進となる場合があります。

■AI-SHIFT

- AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（パドルシフトスイッチを操作したりシフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

- G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切なギヤ段に切りかえます。
G AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

■バッテリーを脱着したとき

→P.321

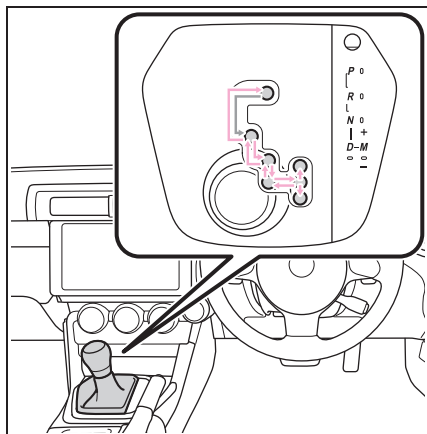


警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



←： エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

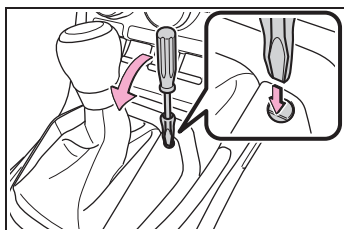
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

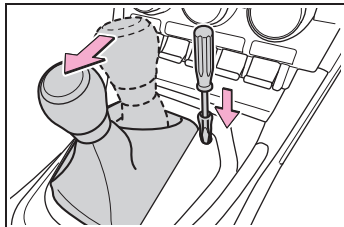
シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

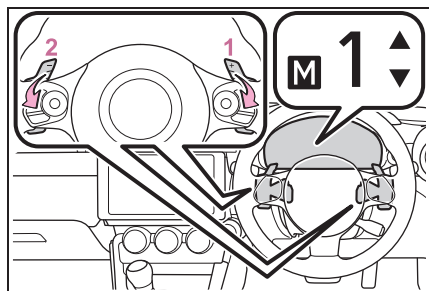
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.220

一時的なマニュアルモード走行について

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意のギヤ段を選択することができます。この場合、メーターに M とギヤ段が表示されます。(エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したときは、自動的にシフトアップします。)



1 シフトアップ

2 シフトダウン

M1 から M6 レンジのあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。

知識

■D ポジションでの一時的なマニュアルモード走行の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでの一時的なマニュアルモード走行が解除されます。

- 車速が低いとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- アクセルペダルを大きく踏みこんだとき

- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上押し続けたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジン回転数がレッドゾーンに入る場合）でシフトダウン操作をした場合、ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。

⚠ 警告

■ 誤操作を防ぐために

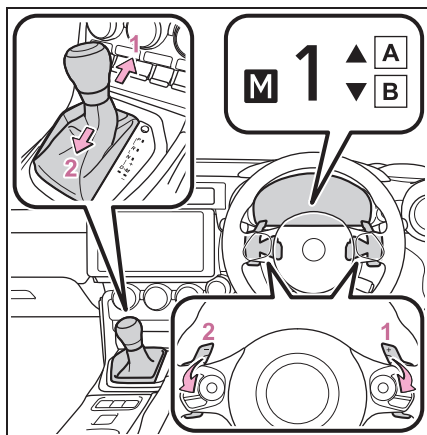
パドルシフトスイッチにアクセサリなどをかけないでください。
パドルシフトスイッチが不意に動くおそれがあります。

■ マニュアルモード走行

シフトレバーを M ポジションにすると、マニュアルモードに切りかわります。

シフトアップ／ダウン可能表示灯が点灯しているあいだ、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

低すぎる車速でシフトアップ操作を行った場合は変速しません。



A シフトアップ可能表示灯

B シフトダウン可能表示灯

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することにより 1 速ずつ変速します。

M1 から M6 の中で選択したギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジンオイルが高温で、エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇した場合

□ 知識

■ シフトダウン制限警告ブザー

シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジン回転数がレッドゾーンに入る場合）でシフトダウン操作をした場合、ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。

警告

■ 誤操作を防ぐために

パドルシフトスイッチにアクセサリなどをかけないでください。

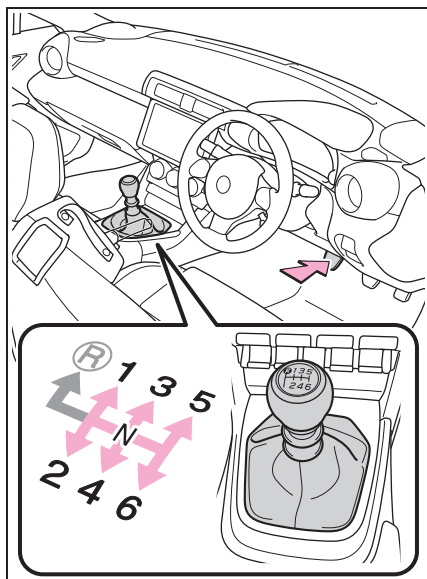
パドルシフトスイッチが不意に動くおそれがあります。

マニュアルトランスミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

■ シフト操作のしかた



- 1 クラッチペダルをしっかりと踏む
- 2 シフトレバーを希望のシフト位置に入れる

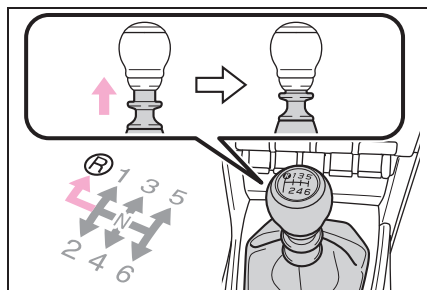
シフト操作は一段ずつ行ってください。

- 3 クラッチペダルから徐々に足を離す

シフトレバーが R に入りにくいときは、シフトレバーを N に入れ、クラッチペダルを踏み直してから、再度シフト操作してください。

■ R へのシフト操作

プルカラーを引き上げながら、R に入れます。



知識

■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)
1	46
2	76
3	108
4	138
5	167

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

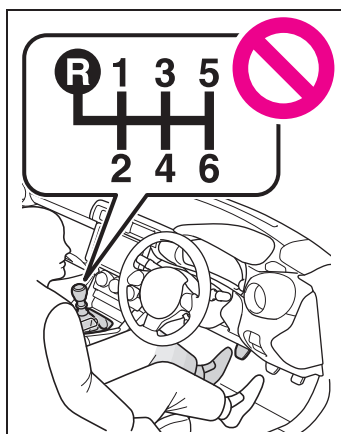
⚠ 注意

■損傷を防ぐために

シフト操作時は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。

- クラッチペダルを踏まずにシフトレバーを操作しないでください。

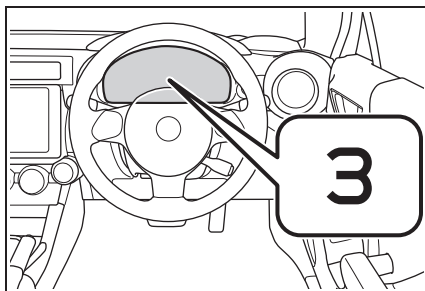


- Rへシフトするとき以外は、ブルカラーを上へ引かないでください。
- Rへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。
- シフト操作時以外は、シフトレバーから手を離してください。
- エンジンを過回転させないように、シフト操作は一段ずつ行ってください。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

シフトポジション表示

選択したシフトポジションをメーター内に表示します。

表示／非表示を切りかえることができます。(→P.333)



知識

■シフトポジション表示について

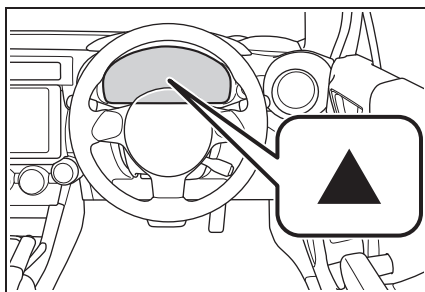
次の場合、メーター内に表示されません

- シフトレバーがNの位置にあるとき
- 車速が約10km/h以下のとき（シフトレバーがRの位置以外）
- クラッチペダルを踏んだとき

シフトアップインジケーター

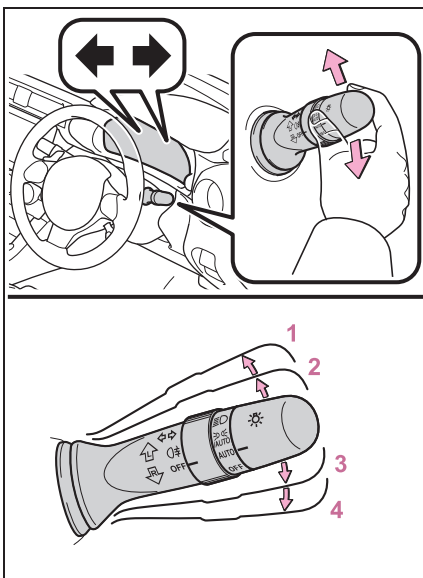
燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップインジケーターが点灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。

表示／非表示を切りかえることができます。（→P.333）



方向指示レバー

操作のしかた



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持※)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持※)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

- 4 右折

※2または3の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が3回点滅するように設定できます。
(→P.333)

- 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを元の位置へ戻してください

い。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

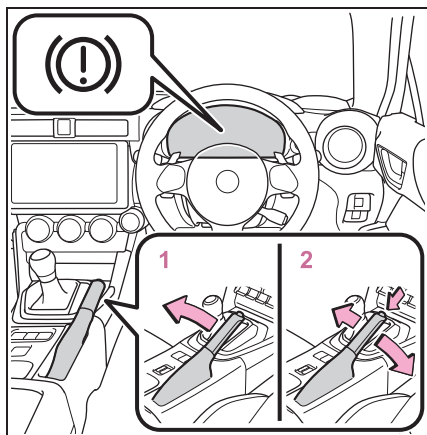
ウインカーの LED が切れると方向指示灯の点滅が速くなります。点滅が速くなったときは、お近くのトヨタ販売店で LED を交換してください。(→P.276)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

パーキングブレーキ

操作のしかた



- 1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- 2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■ 駐車するとき

→P.100

■ ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.293

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.229

**注意****■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは N（マニュアル車）にし、車が動かないことを確認してください。（→P.100）

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

アクティブサウンドコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクティブサウンドコントロールは、ダイナミックなエンジンサウンドを実現します。特にスポーツモード★（→P.220）で走行するときは、よりエンジンサウンドが大きくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**知識****■ 走行モードを切りかえたとき（オートマチック車）**

走行モードを切りかえたときに約 1 秒間、アクティブサウンドコントロールの音が止まりますが故障ではありません。

■ カスタマイズ機能

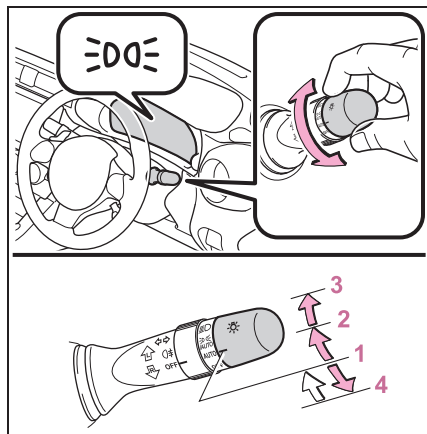
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.333）

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



1  **AUTO** ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・デイトタイムランニングランプ★・番号灯・インストルメントパネルランプを自動点灯・消灯（エンジンスイッチがONのとき）

2  **AUTO** ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯 ※¹

3  上記ランプを点灯

4 **OFF** 消灯（停車していると） ※²

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹ 周囲の明るさにかかわらず車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプが点灯し、周囲の明るさに応じて、走行中はヘッドランプが点灯します。

※² スイッチを **AUTO** の位置から **OFF** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **AUTO** の位置へ戻ります。
もう一度同じ操作をしたときまたは車を発進すると、**AUTO** の位置で点灯するランプが自動的に点灯します。

知識

■デイトタイムランニングランプ★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを **AUTO** にすると、デイトタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

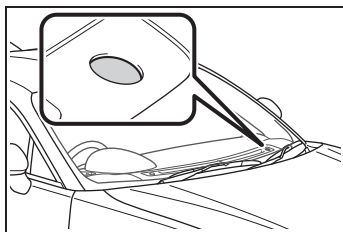
■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

次の場合、自動点灯・消灯機能が正常に働かないおそれがあります。

- センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼り付けた場合
- 周囲の明かりが自然光以外の場合



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にするか OFF の位置にしてお

ら  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

周囲の明るさによっては、ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能が作動しないことがあります。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。ドアを開閉した

とき、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

■ ウェルカムランプ（乗車時）

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、電子キーを携帯して車両に近づく、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。車幅灯は約 30 秒後に自動で消灯します。

■ カスタマイズ機能

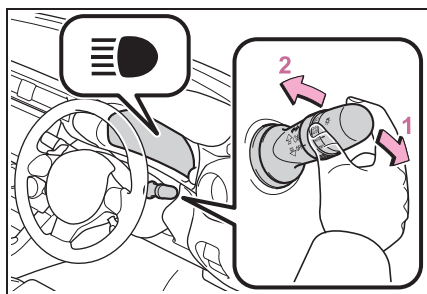
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.333）



注意

■ バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

ランプスイッチが AUTO でレバーを前に押し離すとハイビームアシストが ON になります。ハイビームアシスト作動中は、状況に合わせて自動でロービーム／ハイビームを切りかえます。再度レバーを前に押し離すとハイビームアシストが OFF になり、ハイビームになります。（→P.125）

手動で切りかえたいときは③Dの位置で、レバーを前に押し離すとハイビームになり、レバーは元の位置に戻ります。手前に引いて離すとロービームになります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

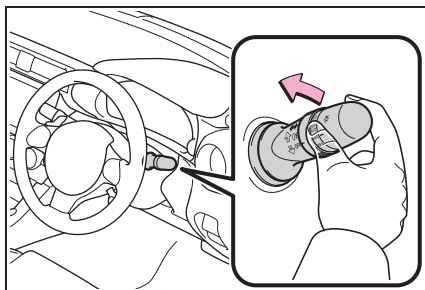
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

ウェルカムランプ (降車時)

エンジンスイッチを OFF にしてから車幅灯を約 3 分間点灯させることができます。

エンジンスイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチが AUTO の位置で、レバーを手前に引いて離します。



以下の操作で車幅灯が消灯します。

- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき

- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき
- ドアを施錠した後、再度スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠したとき
- 運転席ドアを開けて閉じてから約 30 秒経過したとき



知識

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

SRH (ステアリング連動ヘッドランプ) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

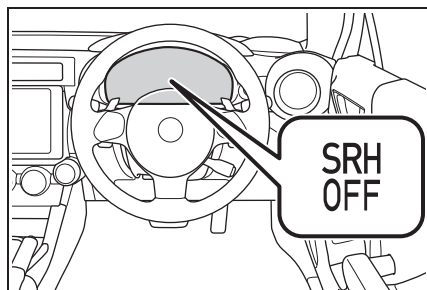
SRH (ステアリング連動ヘッドランプ) は、車両の前進時にハンドルの操作や車速に合わせてヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして視認性を高める機能です。

車速が 8km/h 以上のときに作動します。

■ SRH を OFF にするとき

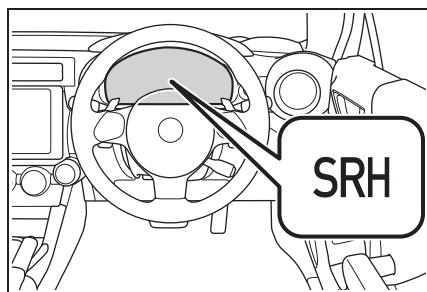
メーターで SRH を OFF に設定できます。(→P.333)

SRH を OFF にすると、SRH OFF 表示灯が点灯します。



■ SRH 警告灯について

SRH に異常があるときは点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示します。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。(→P.299)



知識

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

ハイビームアシスト

ハイビームアシストは、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

ハイビームアシストを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ ハイビームアシストの誤作動を防ぐために

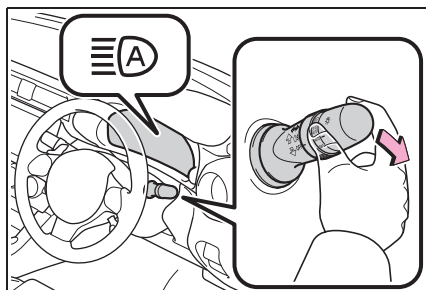
荷物を積み過ぎないでください。

ハイビームアシストを使うには

ランプスイッチを AUTO にし、レバーを前方へ押す

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

ハイビームアシストが作動すると、ハイビームアシスト表示灯が点灯します。



 知識**■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

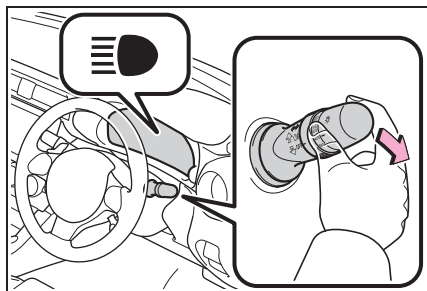
- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 20km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ステレオカメラの検知について

- EyeSight が故障または一時停止しているときは、ハイビームアシストは作動せずにロービームとなります。ハイビームにするときは手動で操作してください。
- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
 - ・ ステレオカメラ認識範囲の制約による反応遅れ
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ ステレオカメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ ステレオカメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき

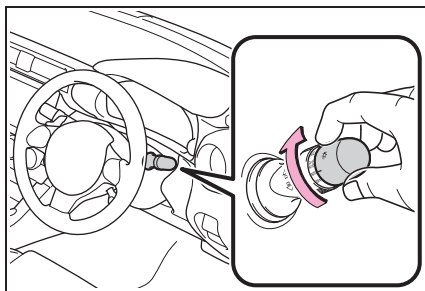
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ エンジン始動直後
- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき



手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

ランプスイッチを  の位置にする
 ハイビームアシスト表示灯が消灯します。
 ハイビームアシストにもどすには、ランプスイッチを **AUTO** の位置にします。



■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す
 ハイビームアシスト表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。
 ハイビームアシストにもどすには、再度レバーを前方に押します。

リヤフォグランプスイッチ



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

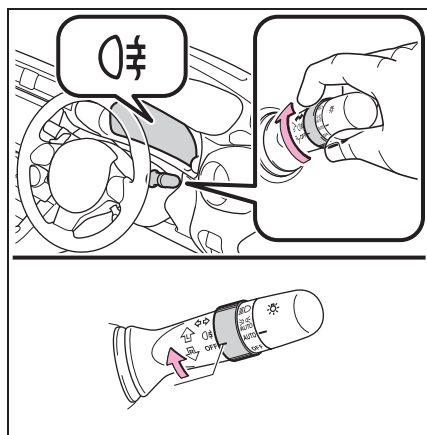
雨や霧などの悪天候下で後続車
両に自車の存在を知らせること
ができます。

操作のしかた

0≡ リヤフォグランプを点灯する

手を離すと OFF の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



知識

■使用条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯している
ときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているとき
は、メーター内の表示灯が橙色に点灯
します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車

に自分の車の存在を知らせるために使
用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車
の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

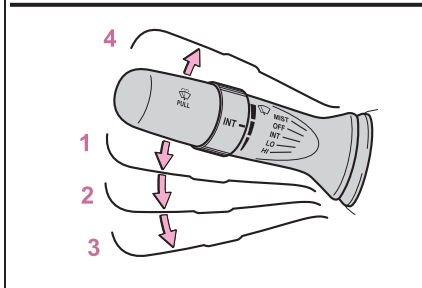
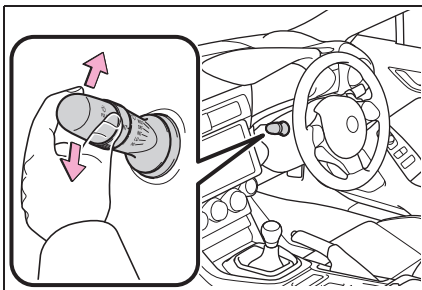
⚠ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。INT を選択したときは、車速に応じてワイパーが自動で作動します。



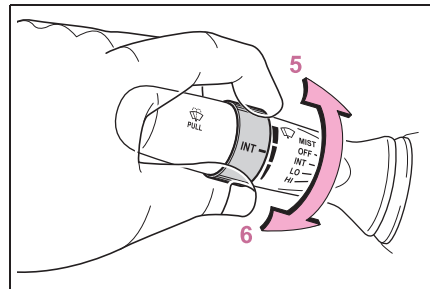
1 INT 間欠作動

2 LO 低速作動

3 HI 高速作動

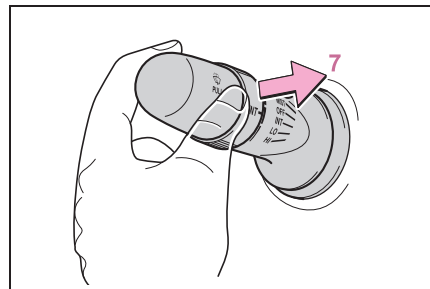
4 MIST 一時作動

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度（減）

6 間欠ワイパーの作動頻度（増）



7  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告**■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

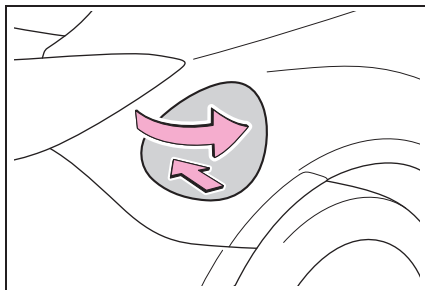
- 燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。
- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。
 - ・ エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
 - ・ エンジンの出力が低下する

⚠ 注意

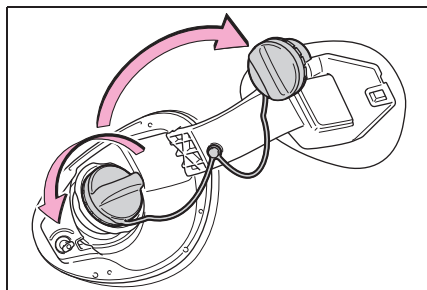
- その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。
- ・ エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ・ エンジンの出力が低下する
- ・ エンジンの始動性が悪くなる
- ・ 排気制御システムが正常に機能しない
- ・ 燃料系部品が損傷する

給油口を開けるには

- 1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す
“カチッ”と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



□ 知識

■ 給油扉を開くとき

ロックレバーでドアを解錠しても給油扉を開くことができません。

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンまたはドアロックスイッチでドアを解錠してください。
(→P.73, 74)

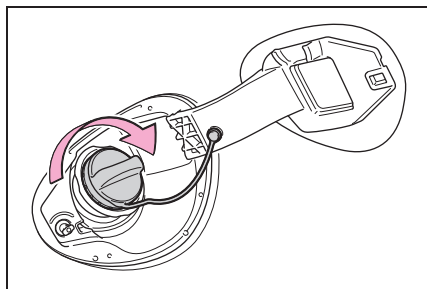
■ 給油扉が開かないとき

→P.318

給油口の閉め方

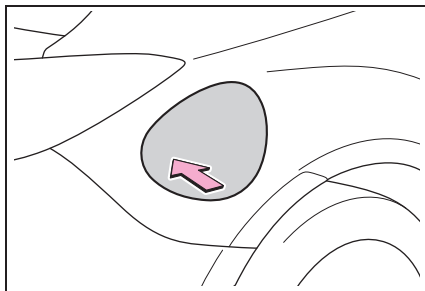
- 1 キャップを“カチッ”と音がるまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■ 給油扉を閉めるとき

給油扉を閉める前にドアを施錠すると、給油扉を閉めることができません。ドアを解錠してから給油扉を閉めてください。

警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

EyeSight※

※ EyeSight は、株式会社 SUBARU の登録商標です。

EyeSight はさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSight は 2 台のカメラ（ステレオカメラ）を用いた画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。また、ソナーセンサーにより車両後方の障害物を認識します。

知識

EyeSight は、プリクラッシュブレーキが作動したときに次のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。

- ステレオカメラの画像情報
- 先行車との車間距離
- 車速
- ハンドルの操舵角
- 進行方向に対しての横方向の動き
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- クラッチペダルの操作状況（マニュアル車）
- シフトレバーの位置
- オドメーターの値
- ABS、VSC、TRC の制御に関する情報

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三

者へ開示・提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSight の各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

● EyeSight に頼った運転は絶対に行わない。

- ・ EyeSight の認識性能・制御性能には限界があります。
- ・ わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSight は、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

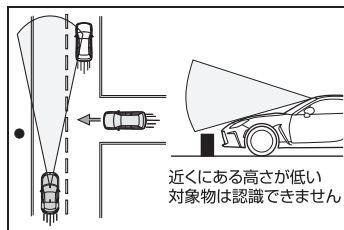
EyeSight の認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

右ハンドル車の EyeSight は、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が十分に発揮できません。

⚠ 注意

- 運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- EyeSight 前方の物体認識はステレオカメラの視野範囲に限られます。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかります。



- 次の状況では先行車や前方の二輪車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSight システムが一時停止状態になる場合があります。状況が改善され、しばらく走行すれば、再び機能は動作します。
- ・ 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントウインドウガラスに油膜が付着したり、EyeSight 用ガラスコーティング剤以外を使用したり、性能が悪化したワイパーをお使いになった場合、一時停止しやすくなります）

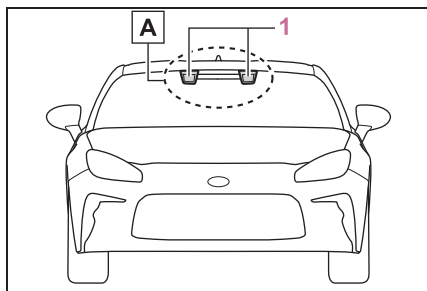
- ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- ・ ウォッシャーを使用しているとき
- ・ フロントウインドウガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
- ・ フロントウインドウガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- ・ 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃などが舞い、視界が十分でないとき
- ・ トンネルの出入り口を通過するとき
- ・ 前方の車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ・ 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
- ・ 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- ・ 夜間またはトンネル内で、先行車の尾灯が点灯していないとき
- ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
- ・ 急な上り坂、急な下り坂のとき
- ・ ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ・ 真暗で周囲に物がいないとき
- ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）

⚠ 注意

- ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- 次の状況では、EyeSight システムが一時停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は動作します。
 - ・炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
 - ・エンジンの始動直後
- 次の状況では先行車や前方の二輪車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSight システムが一時停止状態になる場合があります。EyeSight システムが一時停止状態になることが何回も発生する場合はトヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。
 - ・ステレオカメラのレンズ部に指紋などの汚れが付着したとき
 - ・ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき
- EyeSight システムの動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ、車線逸脱警報機能および RAB（後退時ブレーキアシスト）を OFF にし、クルーズコントロールを使用せずトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P.150, 198, 205）
- スリップ表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ機能を OFF にし、クルーズコントロールを使用しないでください。システムが正しく作動しない場合があります。

ステレオカメラの取り扱いについて

ステレオカメラは、天井のインテリアランプ部分に装着されています。



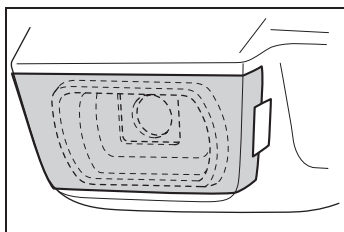
1 ステレオカメラ

⚠ 注意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではありません。状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れ（曇りや油膜なども含みます）を判定できない場合があります。また、フロントウインドウガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。そのため、フロントウインドウガラス（イラストのステレオカメラ前方 **A** の部分）はいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールおよび RAB（後退時ブレーキアシスト）を除くすべての EyeSight システムの機能が作動しません。

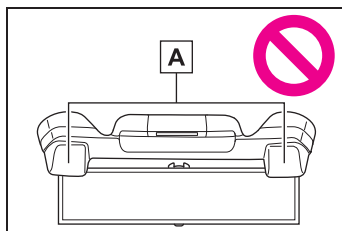
注意

- ステレオカメラは精密部品です。特にレンズ部の取り扱いについては、次の注意事項を守ってください。
- ・ ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ・ フロントウインドウガラスを清掃するときは、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないよう、レンズ部をコピー用紙のように埃の出ない紙で覆い、テープで固定してください。このとき、テープの接着面がフロントウインドウガラスおよびレンズ部に付かないようにしてください。清掃後は紙を忘れずに取り外してください。



- ・ ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
- ・ ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
- ・ ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。

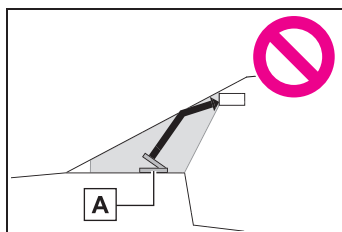
- トヨタ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しない。
- ・ ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。



ステレオカメラ

- 下図の禁止エリア（グレー部）にトヨタが指定したアクセサリ用品以外の取り付けまたは設置をしない。
- ・ 禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やフロントウインドウガラスへの映り込みなどにより EyeSight システムの動作に異常があるときは移動させてください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

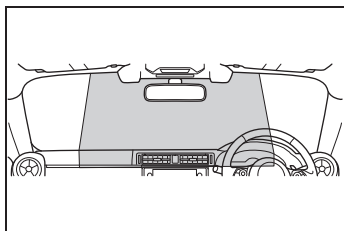
▶ 側面



外付けモニターなど

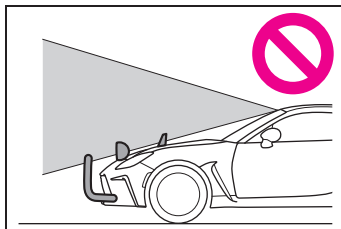
注意

▶ 正面



- インストルメントパネル上に物を置かない。
- ・ フロントウインドウガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせない。
- ・ フロントウインドウガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- トヨタ純正品以外のワイパーブレードを装着しない。
- ・ ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- ワイパーブレードは早めに交換する。
- ・ 拭き残しによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。

- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリ類を取り付けない。
- ・ ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。



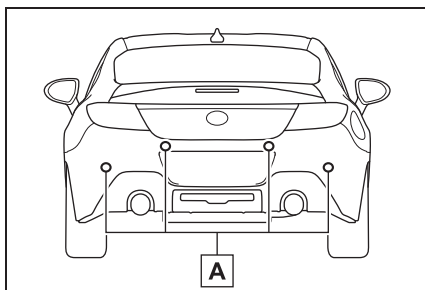
- フロントウインドウガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保つ。
- ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、油膜などがあるとステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- 中央のエアコン吹き出し口に芳香剤などを取り付けない。
- ・ カメラ周辺のフロントウインドウガラスが冷えて曇る場合があります。
- フロントウインドウガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリを取り付けない。
- ・ やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、カメラの前面に重ならないようにしてください。
- ・ ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスに EyeSight 用ガラスコーティング剤以外は使用しないでください。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない。

⚠ 注意

- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスを交換・修理する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ・ トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスを使用するとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

RAB ソナーセンサーの取り扱いについて

リヤバンパーに、4 個のソナーセンサーが取り付けられています。



A ソナーセンサー

⚠ 注意

- RAB の正しい作動のため、次のことをお守りください。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
 - ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
 - ・ 詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを改造しない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを塗装しない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーへの強い衝撃を与えない。
- ・ 検知範囲に入った障害物を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ソナーセンサーを分解しない。
- ソナーセンサーの修理、交換、またはリヤバンパーの修理、塗装、交換が必要になった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 高圧洗車機などを使用するときは、ソナーセンサーに直接水をかけないでください。

EyeSight の機能について

EyeSight には、次の機能があります。

■ ブリクラッシュブレーキ

前方の車両、歩行者や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ衝突被害を軽減、または衝突を回避します。(→P.142)

■ 全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車) / 追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車)

運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。同一車線内

にいる先行車を認識した場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。(→P.151, 166)

■ 定速クルーズコントロール

先行車の有無にかかわらず、運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。追従走行は行いません。EyeSight システムが一時停止状態でも使用可能な場合があります(この機能は全車速追従機能付クルーズコントロール/追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します)。(→P.182)

■ AT 誤発進抑制制御 (オートマチック車)

シフトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。(→P.190)

■ AT 誤後進抑制制御 (オートマチック車)

後退時、アクセルペダルの急な踏み込みなどによる急な後退を抑制する後退飛び出し抑制制御と、後退時の車速を制限する後退速度リミッターの2つの機能があります。(→P.194)

■ 車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。(→P.197)

■ ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。(→P.199)

■ 先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。

(→P.201)

■ RAB (後退時ブレーキアシスト) (オートマチック車)

後退時に車両後方の壁などの障害物に衝突するおそれがあるときに、表示と警報音で知らせ、必要に応じてシステムがブレーキを作動させることで衝突を回避、または衝突の被害を軽減します。(→P.202)

■ クリアランスソナー

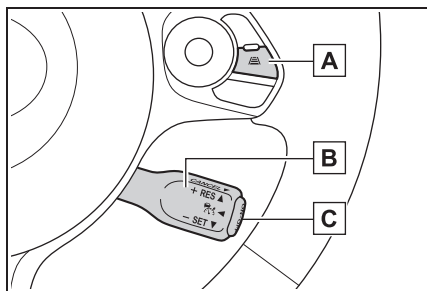
後退時に車両後方の壁などの障害物に衝突するおそれがあるときに、表示と警報音で知らせます。(→P.206)

□ 知識

EyeSight はエンジンがかかっていないときは作動しません。

スイッチ構成

■ ステアリングスイッチ



A  (車間設定) スイッチ

B クルーズコントロールスイッチ

C ON-OFF スイッチ

▶ クルーズコントロールスイッチ

● ON-OFF スイッチ

クルーズコントロール※のON、OFFができます。

クルーズコントロールがONのとき、メーター内にまたはが点灯します。(→P.156, 171, 183)

※全車速追従機能付クルーズコントロール、追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

● — SET (下に下げる)

- ・クルーズコントロール※のセットができます。(→P.156, 171, 183)
- ・セット車速を下げるができます。(クルーズコントロール※がセット中のとき)(→P.160, 175, 186)

※全車速追従機能付クルーズコントロール、追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

● + RES (上に上げる)

- ・クルーズコントロール※のセットができます。(→P.156, 171, 183)
- ・クルーズコントロール※のセット状態を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。(→P.163, 179, 188)
- ・セット車速を上げることができます。(クルーズコントロール※がセット中のとき)(→P.159, 174, 185)

※全車速追従機能付クルーズコントロール、追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

● CANCEL (手前に引く)

クルーズコントロール※を解除できます。(→P.161, 177, 187)

※全車速追従機能付クルーズコントロール、追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

● (車間設定) スイッチ

- ・車間距離の設定を4段階に切り替えることができます。(→P.161, 176)
- ・クルーズコントロールがONのとき、 (車間設定) スイッチ※を押すと全車速追従機能付クルーズコントロール(オートマチック車)または追従機能付クルーズコントロール(マニュアル車)と定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

※定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。

プリクラッシュブレーキ

主に前方の車両や歩行者に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、運転者の衝突回避操作があった場合はプリクラッシュブレーキアシストにより衝突回避をアシストします。

● オートマチック車：シフトレバーが D、M または N のとき作動します。

● マニュアル車：シフトポジション表示が R 以外のとき作動します。

また、発進時などに誤ってアクセルペダルを踏み、前方の障害物に衝突する可能性がある場合、システムがブレーキをかけ、衝突を軽減または回避します。
(オートマチック車)

知識

システムによるブレーキ中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり、異常ではありません。

警告

- プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のために利用することは絶対にしない。
- プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- EyeSightのプリクラッシュブレーキは、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的としている。また、車両以外にも二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としているが、条件※によっては認識できない場合がある。横向きの車両や、対向車両、後退してくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなる。
- プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定しているので、その効果は様々な条件※により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。

⚠ 警告

- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作してもプリクラッシュブレーキを継続する。プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。

— アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがある。(オートマチック車)

- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるブレーキが作動しない場合がある。

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除される。

- 前方の車両との速度差が約 50 km/h (歩行者の場合は約 35km/h) より大きい場合、EyeSight の性能限界から衝突を回避することはできない。また、速度差が約 50 km/h 以下 (歩行者の場合は約 35 km/h 以下) であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件※の違いにより作動しないことがある。

※ 条件

- ・ 前方の車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- ・ 車両の状態（積載量、乗員など）
- ・ 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- ・ 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- ・ 対象物が車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者以外の場合

— 動物など

— ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など

- ・ 対象物が二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- ・ 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- ・ 車両などをけん引しているとき
- ・ 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ・ 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ・ 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ・ ステレオカメラの認識状態

特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。

- ・ 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき

警告

- ・ 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- ・ 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- ・ 夜間またはトンネル内で先行車の尾灯が点灯していないとき
- ・ 夜間の二輪車、自転車、歩行者に接近したとき
- ・ 夕方、朝方の薄暗いとき
- ・ ヘッドランプ照射範囲外に車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
- ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- ・ フロントウインドウガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
- ・ ウォッシャーの使用または使用後で、フロントウインドウガラスが十分に拭き取れていないとき
- ・ 雨滴やウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき

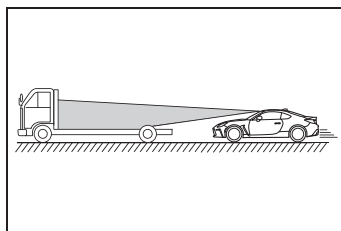
- ・ 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）

— 荷台にあおりが無い空荷のトラックなど

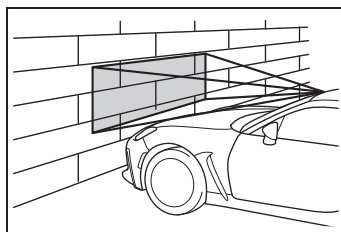
— 後端から積荷が飛び出している車両など

— 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）

— 車高の低い車両など



- ・ 停車している車両の前に壁などがあるとき
- ・ 車両の近くに別の物体があるとき
- ・ 横向きの車両など
- ・ 対向車両や後退してくる車両など
- ・ 対象物の大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいまたは低いとき（小動物、幼児、しゃがんでいる人、横たわっている人など）
- ・ 対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき



- ・ 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき

⚠ 警告

- ・ 先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・ 車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出てきたとき
- ・ 自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
- ・ 自車バンパーの近い位置に車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
- ・ 速度差が約 5 km/h 以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ・ 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ・ 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- ・ トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- お客様で自身でプリクラッシュブレーキの作動テストを絶対に行わない。
- ・ 止まりきれないことや作動しないことがあります。
- 次の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキを OFF にしてください。
- ・ タイヤの空気圧が適正でないとき ※¹
- ・ 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき ※¹
- ・ 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき ※¹

- ・ パンク修理キットで応急修理をしたとき
- ・ サスペンションを改造したとき（トヨタ純正品を含む）
- ・ ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- ・ タイヤチェーンを装着しているとき
- ・ ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに冰雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ・ ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ・ ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- ・ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ・ ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき ※²
- ・ 重い荷物を積んでいるとき
- ・ 定員を超えているとき
- ・ メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なる（例：シフトポジション表示が実際と異なっている）など、メーターに何らかの異常があるとき ※³

※¹ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
(→P.332)

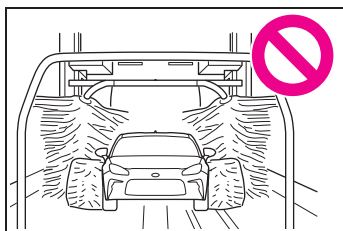
※² ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。(→P.293)

※³ メーターの機能、動作 (→P.57)

注意

次のような場合は、プリクラッシュブレーキが予期しない作動をすることがありますので、必ずプリクラッシュブレーキを OFF にしてください。

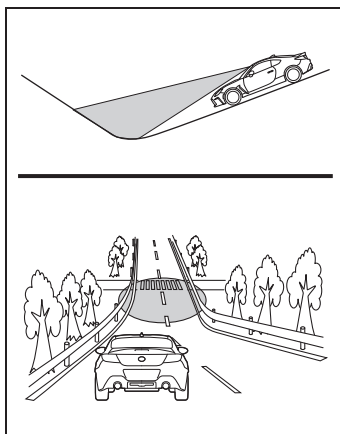
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき



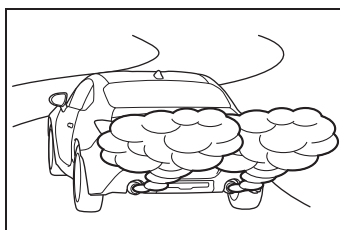
次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。

- ETC ゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
- 前車に接近して走行するとき

- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

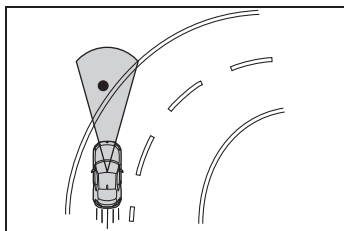


- 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

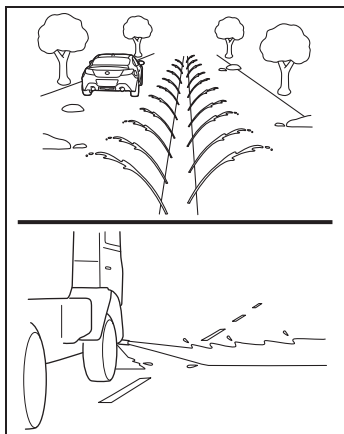


⚠ 注意

- カーブや交差点に障害物があるとき



- 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき
- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込んでください。

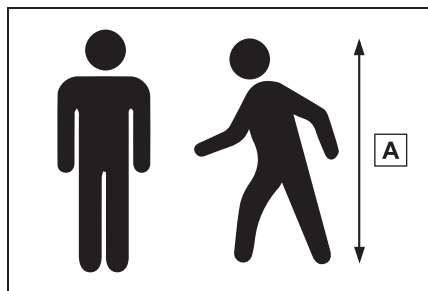
- アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがあります。この場合、アクセルペダルを踏み続けるか、再度踏み込んでください。（オートマチック車）

装着した用品などがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがあります。

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

歩行者認識について

EyeSight は歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



A 約 1 ～ 2m

⚠ 警告

EyeSight のプリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが制御対象を認識できない場合があります。特に、次の状況では、歩行者を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 集団で歩いているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 傘などをさしているとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき

 警告

- 大きな荷物を持っているとき
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっているとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき

プリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、次の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中は制動灯が点灯します。

1 車間距離警報：

衝突の可能性があると判断した場合に、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促します。ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

2 1次ブレーキおよび警報：

走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

3 2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、ブザー（ピーー…）に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。

停止すると“ピッ、ピッ、ピッ、ピピーン”というブザーが鳴り、その後システムによるブレーキが解除されます。車両が動き出すおそれがありますので、車両停車後は必ずブレーキペダルを踏んでください。

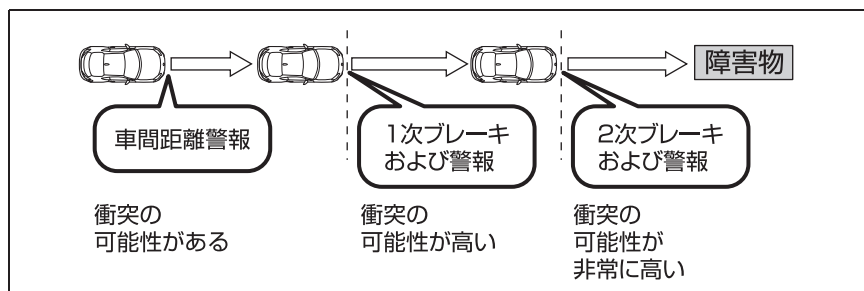
 知識

- 次の場合、プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
 - ・ VSC が作動しているとき
 - ・ オートマチック車：自車速が約 1 km/h 以下（シフトレバーが N のときは約 4 km/h 以下）または約 160 km/h 以上のとき
 - ・ マニュアル車：自車速が約 1 km/h 以下（シフトレバーが N のとき、シフトレバーやクラッチペダルを操作しているときは約 8 km/h 以下）または約 160 km/h 以上

のとき

- 先行車の制動灯の点灯を認識した場合は、認識しない場合と比べて若干早めに減速を開始します。
- 前方障害物との速度差が大きい場合など、1次ブレーキの継続時間が長いときは、警報効果を高めるため、ブレーキを強めたり弱めたりする場合があります。

プリクラッシュブレーキが作動すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを一定時間表示します。



	システムによるブレーキの強さ	マルチインフォメーションディスプレイ	警報音
車間距離警報	微弱		ピピピ...
1次ブレーキおよび警報	弱い		ピピピ...
2次ブレーキおよび警報	強い		ピ——…

プリクラッシュブレーキアシストの作動

プリクラッシュブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペ

ダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。



プリクラッシュブレーキアシストは、自

車速が約 10 km/h 以下または約 160 km/h 以上のときは作動しません。
(→P.224)

⚠ 注意

車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。運転者による通常の制動力で減速します。

プリクラッシュブレーキを OFF にするとき

メーターの設定項目でプリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）を OFF にすることができます。

“運転支援機能” の“PCB（プリクラッシュブレーキ）”の項目で“OFF”を選択することでプリクラッシュブレーキが OFF になります。(→P.333)

プリクラッシュブレーキを OFF にすると、メーター内のプリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯します。

📖 知識

- オートマチック車：プリクラッシュブレーキの ON / OFF 設定は、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御と連動します。
- プリクラッシュブレーキを OFF にしていても、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキは ON になります。

■ プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯

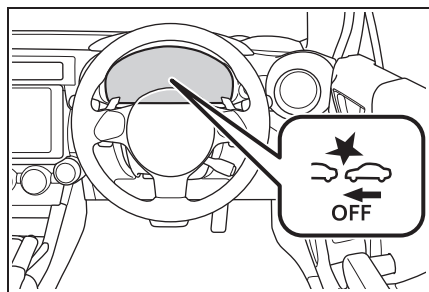
エンジンスイッチを ON にすると

点灯し、エンジン始動後約 7 秒後に消灯します。

- オートマチック車：プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御が OFF のときに点灯します。
- マニュアル車：プリクラッシュブレーキが OFF のときに点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRC と VSC を停止したとき (→P.225)
- EyeSight システムが故障したとき (→P.212)
- EyeSight システムが一時停止したとき (→P.213)



📖 知識

- オートマチック車：プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御は作動しません。
- マニュアル車：プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）は作動しません。

全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。

全車速追従機能付クルーズコントロールは、自車速が 0 km/h～約 120 km/h のときに使用できます。

運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

警告

全車速追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。

- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。

- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。（→P.20）

次の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が適正でないとき ※1
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき ※1
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき ※1
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど） ※1
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき ※1
- パンク修理キットで応急修理をしたとき
- サスペンションを改造したとき（トヨタ純正品を含む）
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに冰雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき

警告

- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※²
- 重い荷物を積んでいるとき
- 定員を超えているとき
- 車両などをけん引しているとき
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※³

※¹ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。（→P.332）

※² ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。（→P.293）

※³ メーターの機能、動作（→P.57）

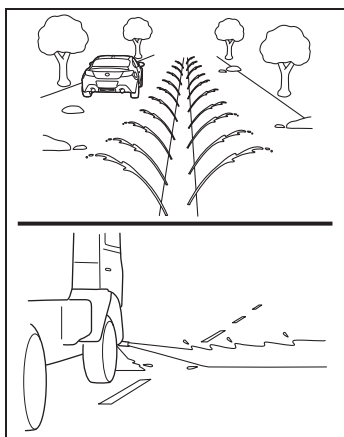
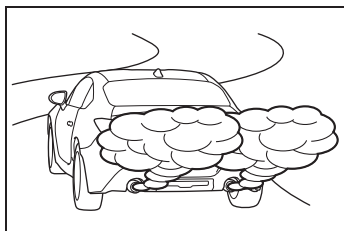
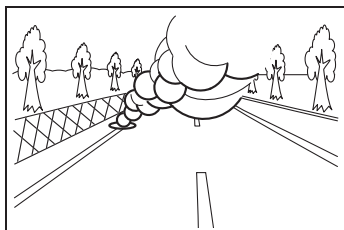
全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- 一般道（自動車専用道路以外）
 - ・ 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
- 急カーブがある道

- 凍結路や積雪路など滑り易い路面
 - ・ タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - ・ 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂
 - ・ セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
 - ・ ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
 - ・ 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
 - ・ 先行車を認識できない場合があります。
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき

警告

- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
- ・ 先行車を認識できなかつたり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。



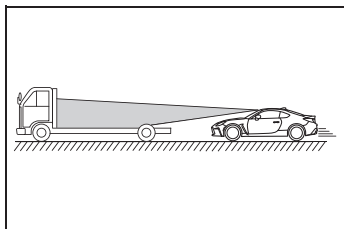
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき

- フロントウインドウガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついているとき
- ・ 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
- フロントウインドウガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
- ・ 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

- 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
- 割り込み車両
- 二輪車、自転車、歩行者、動物など
- 夕方、朝方の薄暗いとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車の尾灯が点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）
- ・ 荷台にあおりが無い空荷のトラックなど
- ・ 後端から積荷が飛び出している車両など
- ・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
- ・ 車高の低い車両など

！警告



- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず ON-OFF スイッチで全車速追従機能付クルーズコントロールを OFF にしてください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロールを ON のままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

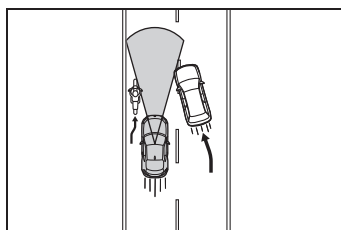
全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

- 車外からの操作は絶対にしない。

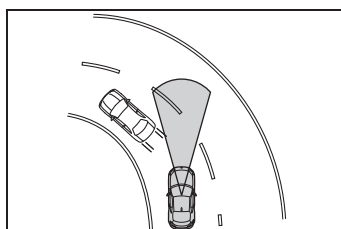
次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。(→P.156)

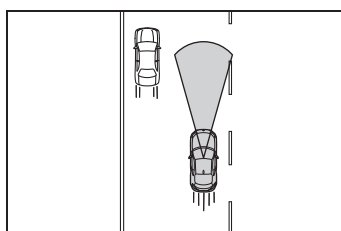
- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき



- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき
- ・ 認識エリアから外れて認識できない場合があります。

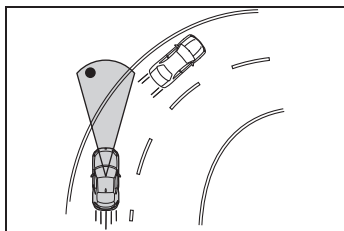


- 先行車との位置が横にずれているとき



警告

- 道路のすぐ脇にものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき（→P.164）

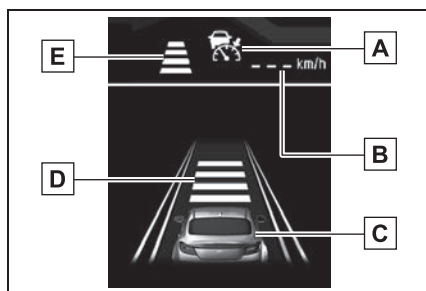
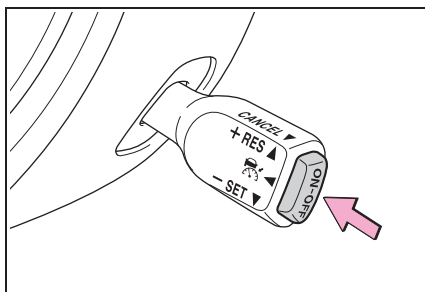
注意

- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 車両の状態（積載量、乗員など）
 - ・ 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - ・ 工場出荷時と異なるブレーキパッドを装着しているとき
 - ・ 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - ・ エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
 - ・ 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - ・ 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用法

- 1 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

ON-OFF スイッチを押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールが ON になり、メーター内に  (白色)と車間設定表示灯が点灯します。
また、--- km/h を表示します。

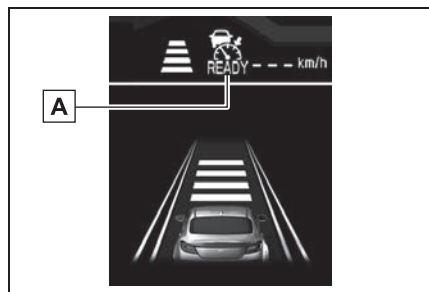


- A** 全車速追従機能付クルーズ表示灯（白色）
- B** セット車速表示
- C** 自車表示灯
- D** 車間設定表示灯
- E** 車間設定表示灯（アイコン表示）

全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター

内に READY 表示灯が点灯します。

- ・ 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- ・ 運転席シートベルトを着用している
- ・ シフトレバーが D または M に入っている
- ・ ブレーキペダルを踏んでいない
- ・ EyeSight システムが一時停止していない（ が点灯していない）（→P.213）
- ・ 急な坂道でない
- ・ ハンドルを大きく切っていない
- ・ 自車速が 0 km/h ～約 120 km/h のとき
- ・ パーキングブレーキがかかっていない
- ・ 走行モードがノーマルモードまたはスポーツモードのとき（→P.220）
- ・ TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしていない（→P.150, 225）
- ・ TRC と VSC を停止していない（→P.225）



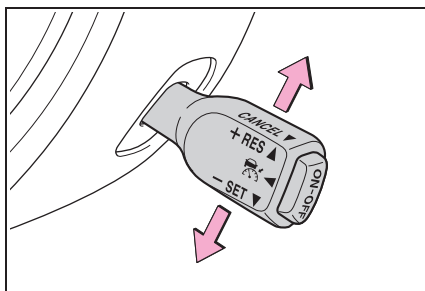
- A** READY 表示灯

知識

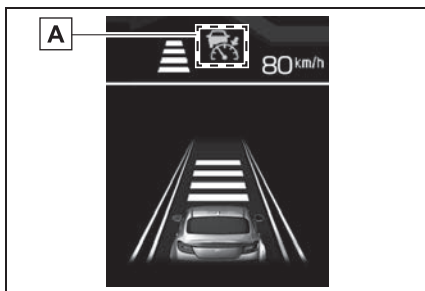
マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテ

ンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。(→P.62)

2 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。クルーズコントロールスイッチを－ SET 側または＋ RES 側に操作します。スイッチを操作したときの車速をセット車速として、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



セット車速が表示され、 が白色から緑色に変わります。また、メーター内の READY 表示灯が消灯します。先行車を認識していないときは定速走行します。



A 緑色

 知識

●オートマチック車：自車速が約 30

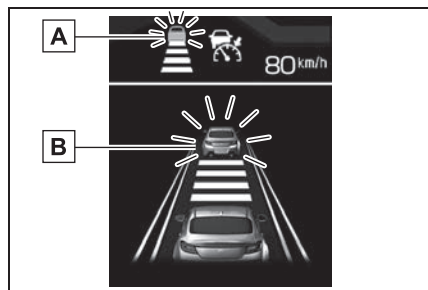
km/h 以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に 30 km/h に設定されます。

- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- ON-OFF スイッチを押しても、メーター内の  が点灯しない場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- ON-OFF スイッチを押してもメーター内の  が点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。

⚠ 警告

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識しなくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、 は白色に変わります。加速が終了すると  は緑色に戻ります。



A 先行車表示灯（アイコン表示）

B 先行車表示灯

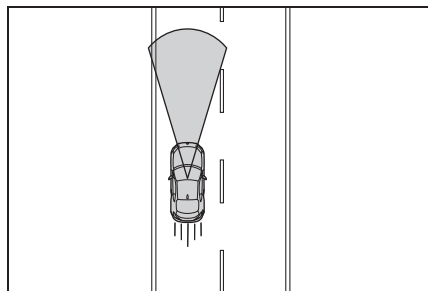
知識

- マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内のアイコン表示になります。（→P.62）
- 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）を OFF に設定できます。（→P.333）

■ 全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

▶ 先行車を認識していないとき

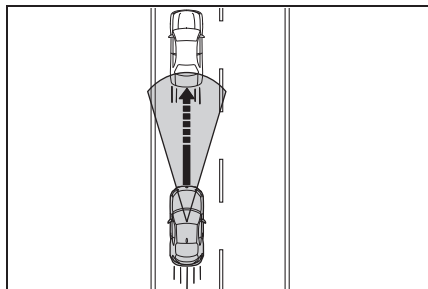
セット車速に応じた速度で定速走行します。



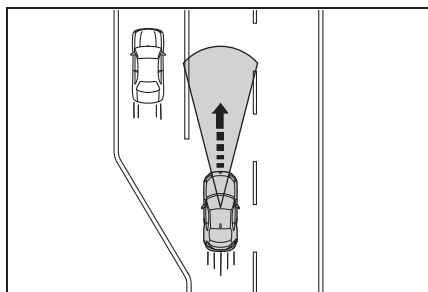
▶ 先行車を認識したとき

セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。

す。



- ▶ 先行車を認識しなくなったとき
- セット車速まで加速し、定速走行を行います。
- セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



知識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行

車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。

- 追従走行には、次の特性があります。
 - ・ 先行車の制動灯の点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
 - ・ 車速約 60 km/h 以上で追い越し車線側に車線変更する場合、方向指示器と連動してセット車速までの加速を早めに開始します。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。(→P.333)

⚠ 注意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります。異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

■ セット車速を上げるとき

▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

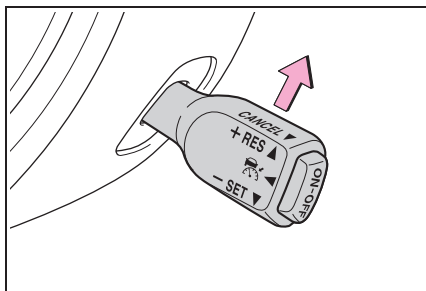
● + RES 側に操作します

操作するごとにセット車速が 1 km/h ずつ上がります。

● + RES 側に操作して保持します

保持している間、セット車速が 5 km/h ずつ上がります。

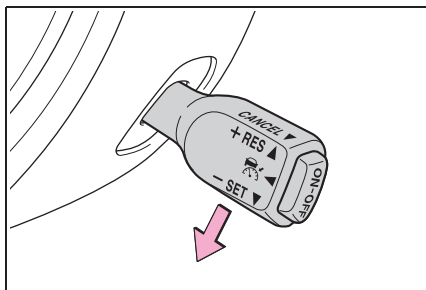
スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



▶ アクセルペダルによる方法

- 1 アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
- 2 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチを－SET 側に操作します。

操作したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、クルーズコントロールスイッチを＋RES 側に操作して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
- ・ ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識なくなるとその設定した車速まで加速します。
- ・ セット車速はメーター内を確認しながら変更してください。

⚠ 注意

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中にアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行いません。

・ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

■ セット車速を下げるとき

- ▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

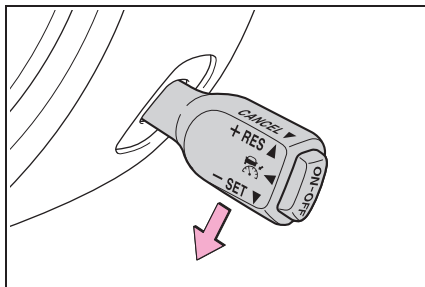
- - SET 側に操作します

操作することによりセット車速が 1 km/h ずつ下がります。

- - SET 側に操作して保持します

保持している間、セット車速が 5 km/h ずつ下がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



▶ ブレーキペダルによる方法

- 1 ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

全車速追従機能付クルーズコントロールが解除され、 が緑色から白色に戻ります。

- 2 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを - SET 側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

■ 一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

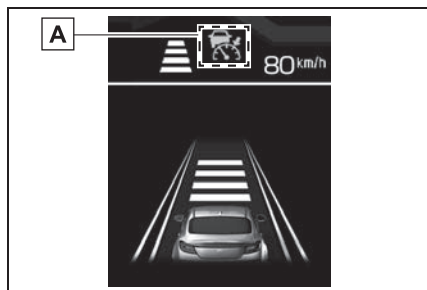
全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、

 は白色に変わります。加速が終了すると  は緑色に戻ります。

■ 一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。メーター内にセット車速を表示したまま、

 が緑色から白色に戻ります。



A 白色

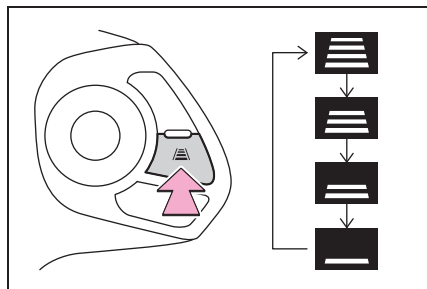
セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを + RES 側に操作します。

⚠ 注意

通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

■ 車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を 4 段階で設定できます。 (車間設定) スイッチを押すごとに先行車との車間距離が切り替わります。



📖 知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

車間距離の目安

車間距離	自車の走行車速	
	約 40km/h	約 100km/h
	約 30m	約 60m
	約 25m	約 50m
	約 20m	約 40m
	約 15m	約 30m

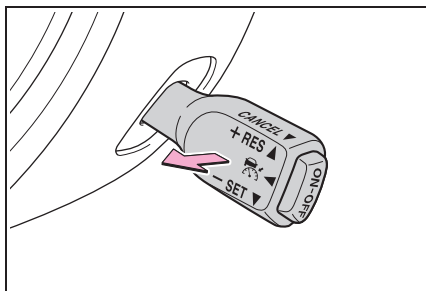
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを OFF にし、再度 ON にした場合は、OFF にする前に設定した車間距離の状態を保っています。

全車速追従機能付クルーズコントロールの解除方法

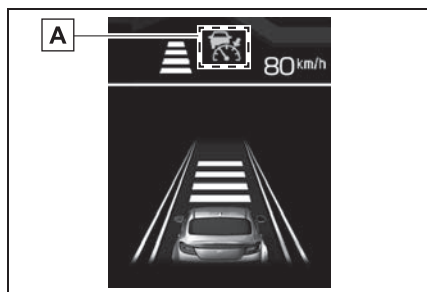
■ 運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
- クルーズコントロールスイッチを CANCEL 側に操作する。



メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



A 白色

■ システムによる自動解除

先行車の停止に伴い自車も停止した場合、“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ”というブザーが鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。

注意

停止してからゆっくりとシステムによるブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

次の場合、ブザー（ピッーン）が鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、が緑色から白色に戻り、割り込み画面を表示します。

- 道路の勾配が急なとき
- VSCまたはTRCが作動したとき
- セット中に自車速が約 145 km/h を超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- シフトレバーをDまたはM以外にしたとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSight システムが故障したとき（メーター内に（黄色）が点灯している）（→P.212）
- EyeSight システムが一時停止状態のとき（メーター内に（白色）が点灯している）（→P.213）
- ブリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき
- 走行モードをスノーモードにしたとき（→P.220）
- TRACK モード中、ブリクラッシュブレーキを OFF にしているとき（→P.150, 225）
- TRC と VSC を停止したとき（→P.225）
- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき



❏ 知識

- EyeSight システムが一時停止した場合は、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、 (白色) が点灯し、割り込み画面を表示します。(→P.213)
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight システムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

滑りやすい路面では全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

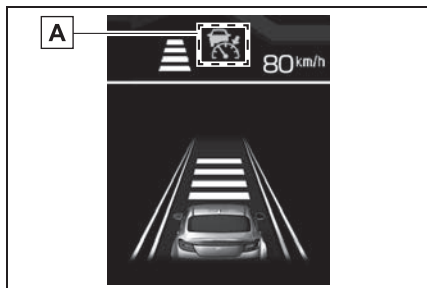
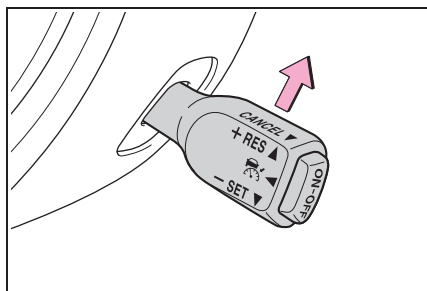
⚠ 注意

- 緊急時以外はシフトレバーを N にしないでください。
- ・ シフトレバーを N にすると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジブラーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- EyeSight システムが故障した場合は、 (黄色) が点灯し、割り込み画面を表示します。また、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。(→P.212)

■ 解除の復帰 (セット车速の再セット)

前回のセット车速がメモリーされているとき、その车速に再度セットする場合はクルーズコントロールスイッチを + RES 側に操作します。(メーター内が再度セット状態の表示になります)

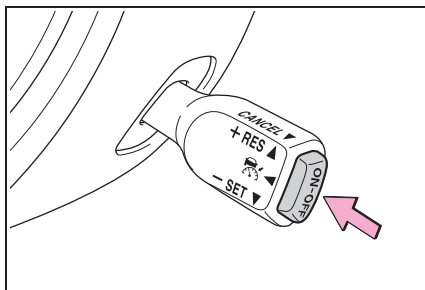


A 緑色 知識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
 - ・ ON-OFF スイッチを押してクルーズメイン OFF したとき
 - ・ VSC または TRC が作動したとき
 - ・ 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- メモリー車速（前回のセット車速）がない場合、クルーズコントロールスイッチを+ RES 側に操作すると、現在の自車速がセットされます。（→P.156）

全車速追従機能付クルーズコントロールを OFF にするとき

ON-OFF スイッチを押すとが消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールが OFF になります。

**その他の機能****■ ブレーキ踏み増し要求警報**

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十

分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。この機能が作動すると、ブザー（ピピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

 知識

前方約 110 m 以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

⚠ 警告

ブザー（ピーーンやピピピピ…など）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

- アクセルペダルを踏んでいるとき
 - ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき

⚠ 警告

- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
 - 他車が至近距離に割り込んできたとき
 - 先行車が急減速したとき
 - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
 - 自車速より極端に車速が遅い車両

■ 信号認識機能

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しているときに赤信号を検知すると、ブザー（ピッ）が鳴り、赤信号を認識したことを割り込み画面でお知らせするとともに加速を緩やかにします。

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、次の条件をすべて満たすと割り込み画面を表示します。

- ・ 先行車を認識していない
- ・ 赤信号を検知
- ・ 矢印信号を検知していない



さらに、次の条件を満たすと、加

速を緩やかにします。

- ・ 自車速がセット車速を下回っている

ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

□ 知識

赤信号を認識して減速する機能はありません。

⚠ 警告

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 自動車専用道路以外では使用しない。
 - ・ 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
 - ・ 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。

- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき

⚠ 警告

- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき

追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）

追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。

追従機能付クルーズコントロールは、自車速が約 30 km/h ～ 約 120 km/h のときに使用できます。

運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

⚠ 警告

追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
 - ・ 追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
- 運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。

⚠ 警告

● 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。

● 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。(→P.20)

次の状況では、システムが正しく動作しません。追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

● タイヤの空気圧が適正でないとき ※¹

● 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき ※¹

● 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき ※¹

● ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど） ※¹

● ホイールアライメントが規定値から外れているとき ※¹

● バンク修理キットで応急修理をしたとき

● サスペンションを改造したとき（トヨタ純正品を含む）

● ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき

● タイヤチェーンを装着しているとき

● ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）

● ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）

● ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき

● 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

● ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき ※²

● 重い荷物を積んでいるとき

● 定員を超えているとき

● 車両などをけん引しているとき

● メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき ※³

※¹ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
(→P.332)

※² ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。(→P.293)

※³ メーターの機能、動作 (→P.57)

追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

● 一般道（自動車専用道路以外）

・ 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。

● 急カーブがある道

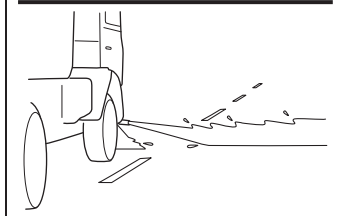
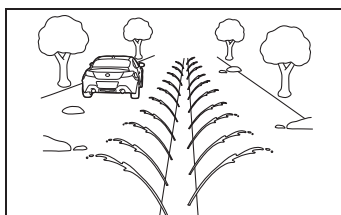
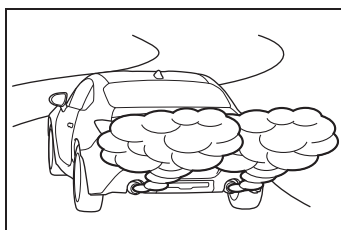
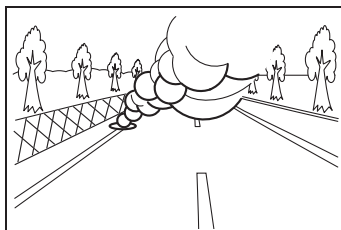
● 凍結路や積雪路など滑り易い路面

・ タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

警告

- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - ・ 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂
 - ・ セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
 - ・ ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
 - ・ 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
 - ・ 先行車を認識できない場合があります。
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき

- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
 - ・ 先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。



- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき

警告

● フロントウインドウガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついているとき

・ 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

● フロントウインドウガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき

・ 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

● 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）

● 割り込み車両

● 二輪車、自転車、歩行者、動物など

● 夕方、朝方の薄暗いとき

● 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

● 夜間またはトンネル内で先行車の尾灯が点灯していないとき

● 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

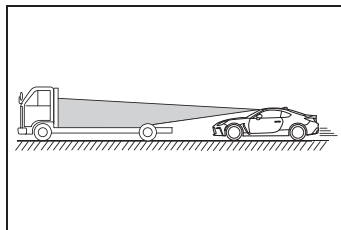
● 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）

・ 荷台にあおりがない空荷のトラックなど

・ 後端から積荷が飛び出している車両など

・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）

・ 車高の低い車両など



● 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず ON-OFF スイッチで追従機能付クルーズコントロールを OFF にしてください。

● 追従機能付クルーズコントロールを ON のままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

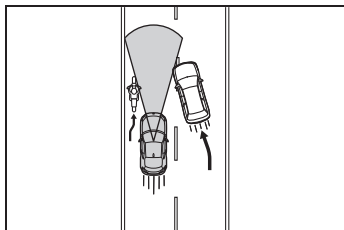
● 車外からの操作は絶対にしない。

次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

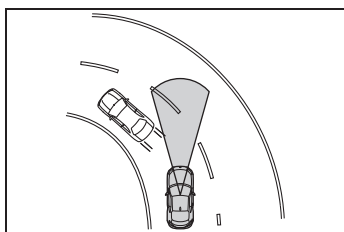
ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。（→P.171）

警告

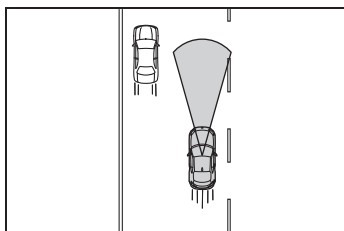
- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき



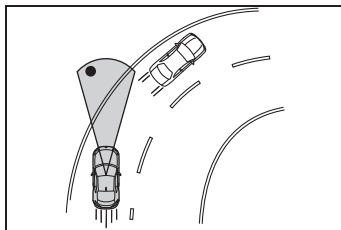
- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき
- ・ 認識エリアから外れて認識できない場合があります。



- 先行車との位置が横にずれているとき



- 道路のすぐ脇にもものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

⚠ 警告

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるときの（→P.180）

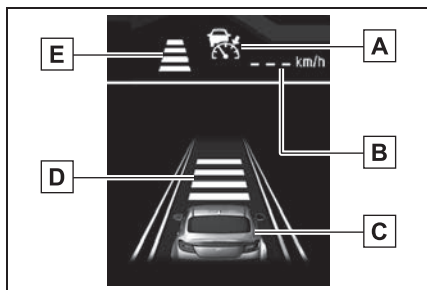
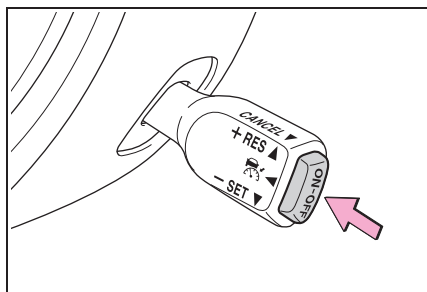
⚠ 注意

- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 車両の状態（積載量、乗員など）
 - ・ 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - ・ 工場出荷時と異なるブレーキパッドを装着しているとき
 - ・ 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - ・ エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
 - ・ 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - ・ 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

追従機能付クルーズコントロールの使用法

1 追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

ON-OFF スイッチを押します。
追従機能付クルーズコントロールが ON になり、メーター内に （白色）と車間設定表示灯が点灯します。
また、--- km/h を表示します。

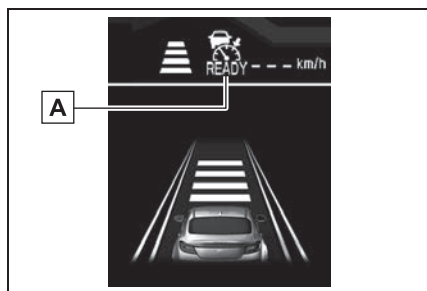


- A** 追従機能付クルーズ表示灯（白色）
- B** セット車速表示
- C** 自車表示灯
- D** 車間設定表示灯
- E** 車間設定表示灯（アイコン表示）

追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内に

READY 表示灯が点灯します。

- ・ 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- ・ 運転席シートベルトを着用している
- ・ シフトレバーが2～6速に入っている
- ・ ブレーキペダルを踏んでいない
- ・ クラッチペダルを踏んでいない
- ・ EyeSight システムが一時停止していない (EyeSight が点灯していない) (→P.213)
- ・ 急な坂道でない
- ・ ハンドルを大きく切っていない
- ・ 自車速が約 30 km/h～約 120 km/h のとき
- ・ パーキングブレーキがかかっていない
- ・ TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしていない (→P.150, 225)
- ・ TRC と VSC を停止していない (→P.225)

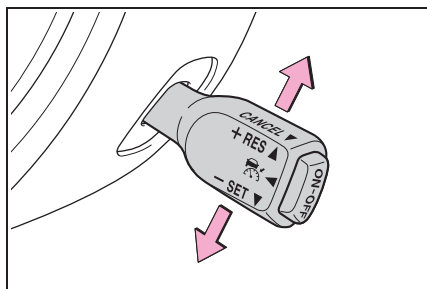


A READY 表示灯

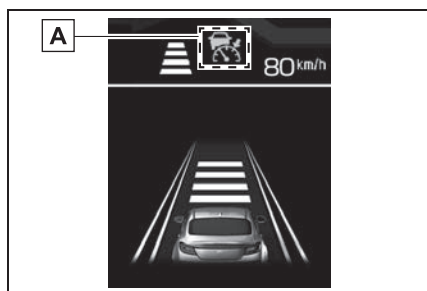
知識

マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。(→P.62)

- 2 追従機能付クルーズコントロールをセットします。クルーズコントロールスイッチを－ SET 側または＋ RES 側に操作します。スイッチを操作したときの車速をセット車速として、追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



セット車速が表示され、 が白色から緑色に変わります。また、メーター内の READY 表示灯が消灯します。先行車を認識していないときは定速走行します。



A 緑色

知識

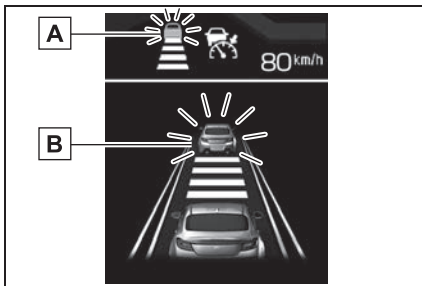
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。

- ON-OFF スイッチを押しても、メーター内の  が点灯しない場合は、追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- ON-OFF スイッチを押してもメーター内の  が点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店に連絡し、点検を受けてください。

警告

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識しなくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、 は白色に変わります。加速が終了すると  は緑色に戻ります。



A 先行車表示灯（アイコン表示）

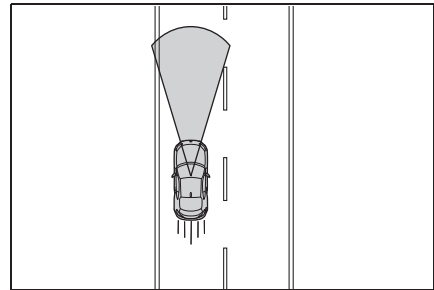
B 先行車表示灯

知識

- マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内のアイコン表示になります。（→P.62）
- 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）を OFF に設定できます。（→P.333）

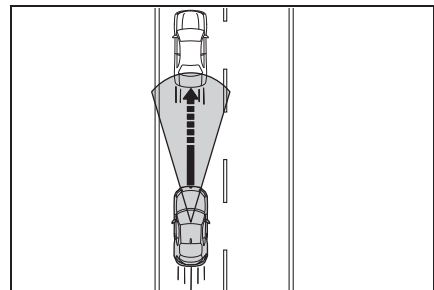
■ 追従機能付クルーズコントロールの作動

- ▶ 先行車を認識していないとき
セット車速に応じた速度で定速走行します。



- ▶ 先行車を認識したとき

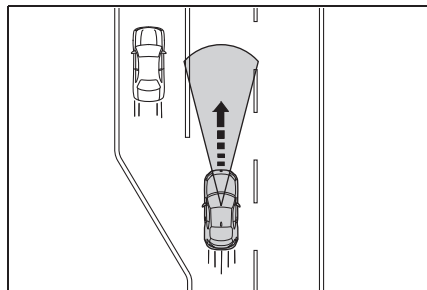
セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。



▶ 先行車を認識しなくなったとき

セット車速まで加速し、定速走行を行います。

セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



知識

- 追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 追従走行には、次の特性があります。
 - ・ 先行車の制動灯の点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
 - ・ 車速約 60 km/h 以上で追い越し車線側に車線変更する場合、方向指示器と連動してセット車速までの加速を早め

に開始します。

- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。(→P.333)

注意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

■ セット車速を上げるとき

▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

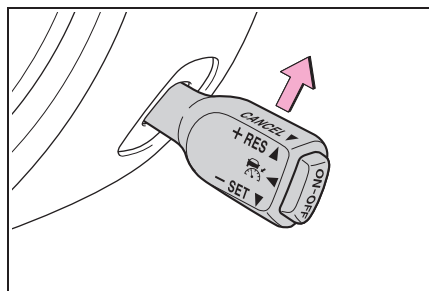
● + RES 側に操作します

操作することによりセット車速が 1 km/h ずつ上がります。

● + RES 側に操作して保持します

保持している間、セット車速が 5 km/h ずつ上がります。

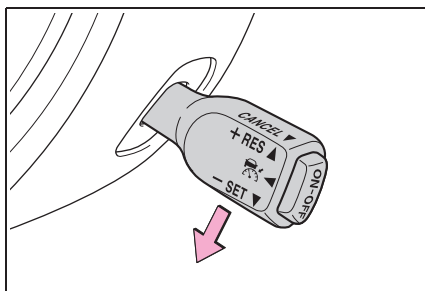
スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



▶ アクセルペダルによる方法

- 1 アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
- 2 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチを－SET 側に操作します。

操作したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、クルーズコントロールスイッチを＋RES 側に操作して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
- ・ ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。
- ・ セット車速はメーター内を確認しながら変更してください。

- 追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中にアクセルペダルを踏んでいるときは、追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行いません。

・ ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

■ セット車速を下げるとき

▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

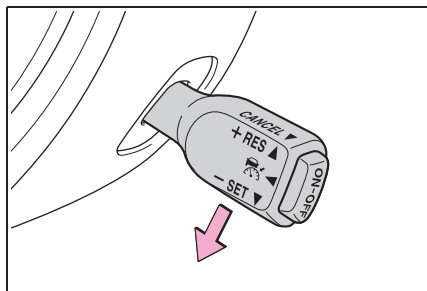
- － SET 側に操作します

操作することによりセット車速が 1 km/h ずつ下がります。

- － SET 側に操作して保持します

保持している間、セット車速が 5 km/h ずつ下がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



▶ ブレーキペダルによる方法

- 1 ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

追従機能付クルーズコントロールが解除

され、が緑色から白色に戻ります。

- 2** 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを－SET 側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

■ 一時的に加速したいとき

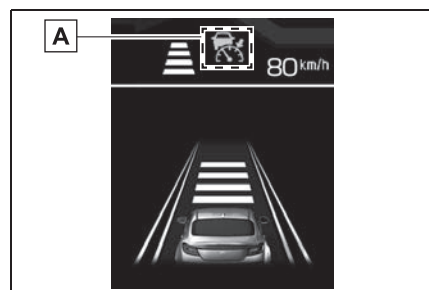
一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、は白色に変わります。加速が終了するとは緑色に戻ります。

■ 一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、追従機能付クルーズコントロールは解除されます。メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



A 白色

セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、

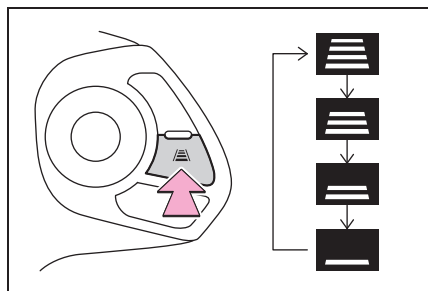
クルーズコントロールスイッチを＋RES 側に操作します。

⚠ 注意

通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

■ 車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を 4 段階で設定できます。 (車間設定) スイッチを押すごとに先行車との車間距離が切り替わります。



□ 知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

車間距離の目安

車間距離	自車の走行車速	
	約 40km/h	約 100km/h
	約 30m	約 60m
	約 25m	約 50m
	約 20m	約 40m
	約 15m	約 30m

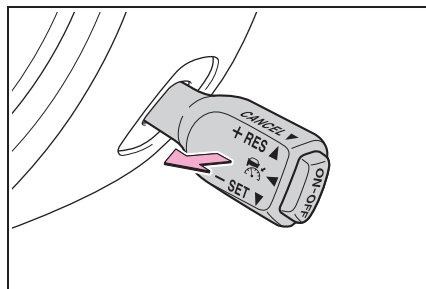
- 追従機能付クルーズコントロールを OFF にし、再度 ON にした場合は、OFF にする前に設定した車間距離の状態を保っています。

追従機能付クルーズコントロールの解除方法

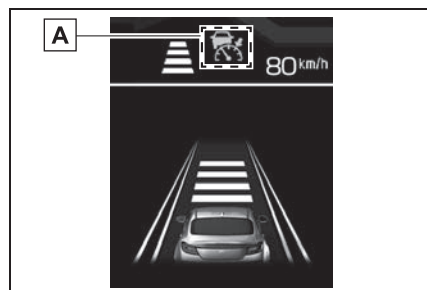
■ 運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
- クルーズコントロールスイッチを CANCEL 側に操作する。



メーター内は、セット車速を表示したまま、 が緑色から白色に戻ります。



A 白色

■ システムによる自動解除

⚠ 警告

追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続けます。先行車の減速に伴い自車速が約 25 km/h を下回ると、追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、 が緑色から白色に戻り、割り込み画面を表示します。

- 道路の勾配が急なとき
- VSCまたはTRCが作動したとき

- セット中に自車速が約 145 km/h を超えたとき
- セット中に自車速が約 25 km/h を下回ったとき
- ハンドルを大きく回したとき
- シフトレバーを 1、R にしたとき、または N にしたまま 5 秒以上経過したとき
- クラッチペダルを踏んだまま 5 秒以上経過したとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSight システムが故障したとき（メーター内に （黄色）が点灯している）（→P.212）
- EyeSight システムが一時停止状態のとき（メーター内に （白色）が点灯している）（→P.213）
- プリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき
- TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしているとき（→P.150, 225）
- TRC と VSC を停止したとき（→P.225）
- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき



知識

- EyeSight システムが一時停止した場合は、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、（白色）が点灯し、割り込み画面を表示します。（→P.213）
- 追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight システムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

滑りやすい路面では追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

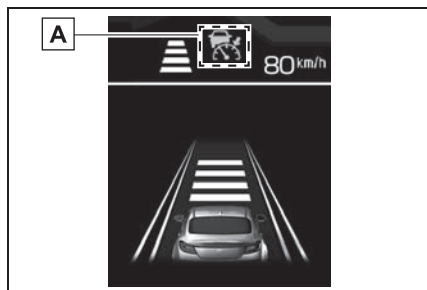
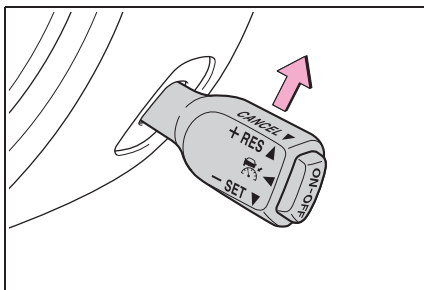
- シフトレバーを N にしたままにしないでください。
- ・ シフトレバーを N にしたまま約 5 秒以上経過すると追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- EyeSight システムが故障した場合は、**EyeSight** (黄色) が点灯し、割り込み画面を表示します。また、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車してから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。(→P.212)

■ 解除の復帰 (セット车速の再セット)

前回のセット车速がメモリーされているとき、その车速に再度セットする場合はクルーズコントロールスイッチを+ RES 側に操作します。(メーター内が再度セット状態の表示になります)



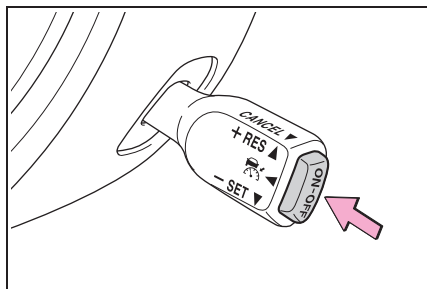
A 緑色

□ 知識

- 次の場合はメモリーされているセット车速が消去されます。
 - ・ ON-OFF スイッチを押してクルーズメイン OFF したとき
 - ・ VSC または TRC が作動したとき
 - ・ 追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- メモリー车速 (前回のセット车速) がいない場合、クルーズコントロールスイッチを+ RES 側に操作すると、現在の自车速がセットされます。(→P.171)

追従機能付クルーズコントロールを OFF にするとき

ON-OFF スイッチを押すと  が消灯し、追従機能付クルーズコントロールが OFF になります。



その他の機能

■ ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。この機能が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



□ 知識

前方約 110 m 以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

⚠ 警告

ブザー（ピーンやピピピ…など）の音が頻繁に鳴るような状況では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

- アクセルペダルを踏んでいるとき

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき
- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
- 自車速より極端に車速が遅い車両

■ 信号認識機能

追従機能付クルーズコントロールを使用しているときに赤信号を検知すると、ブザー（ピッ）が鳴り、赤信号を認識したことを割り込み画面でお知らせするとともに加速を緩やかにします。

追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、次の条件をすべて満たすと割り込み画面を表示します。

- ・ 先行車を認識していない
- ・ 赤信号を検知
- ・ 矢印信号を検知していない



さらに、次の条件を満たすと、加速を緩やかにします。

- ・ 自車速がセット車速を下回っている

ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

知識

赤信号を認識して減速する機能はありません。

- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき

警告

追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 自動車専用道路以外では使用しない。
 - ・ 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
 - ・ 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っているための運転支援システムです。運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

知識

- クルーズメイン OFF の状態から ON-OFF スイッチを押すと、全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールが ON になります。
 - クルーズメイン ON のとき、 (車間設定) スイッチ ※ を押すと、全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。
- ※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約 2 秒以上押し続けてください。
- EyeSight システムが一時停止中でも、定速クルーズコントロールが使用できる場合があります。

警告

定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。

先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次の状況では、システムが正しく動作しません。定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※
 - ホイールアライメントが規定値から外れているとき ※
- ※ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
(→P.332)

次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- 交通量の多い道や急カーブのある道を走行しているとき
 - ・ 道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
 - ・ タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂の道を走行しているとき
 - ・ セット車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
 - ・ ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 車両などをけん引しているとき
 - ・ セット車速を維持できなくなる場合があります。

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

⚠ 注意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをメーター内で必ず確認してください。

● 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロール … 

● 定速クルーズコントロール … 

定速クルーズコントロールの使用方法

■ 定速クルーズコントロールをセットするとき

- 1 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

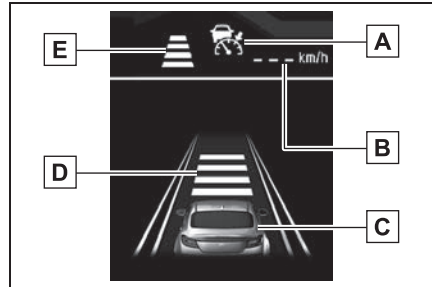
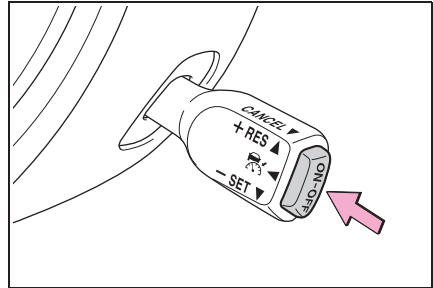
ON-OFF スイッチを押します。全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールが ON になり、メーター内に

（白色）と車間設定表示灯が点灯します。

また、--- km/h を表示します。

ON-OFF スイッチを押したときは常に全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコ

ントロールとして起動します。



A 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズ表示灯（白色）

B セット車速表示

C 自車表示灯

D 車間設定表示灯

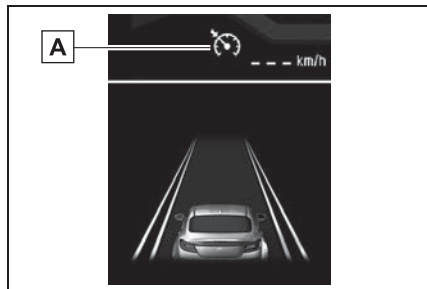
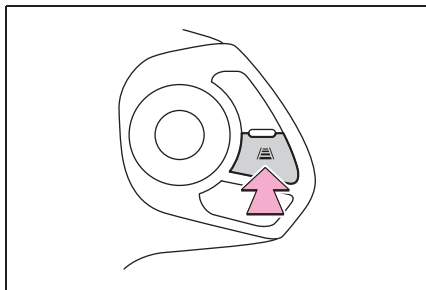
E 車間設定表示灯（アイコン表示）

- 2 定速クルーズコントロールに切り替えます。

（車間設定）スイッチを約 2 秒以上押し続けると、全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替わり、ブザー（ピッ）が鳴ります。

このときメーター内の車間設定表示灯が

消灯し、 (白色) に切り替わります。

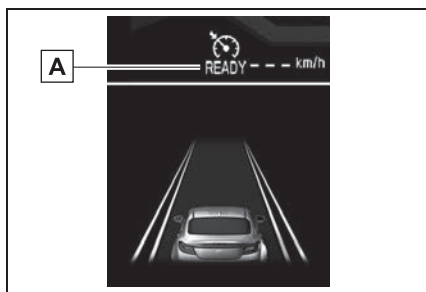


A 定速クルーズ表示灯 (白色)

定速クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内に READY 表示灯が点灯します。

- ・ 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- ・ 運転席シートベルトを着用している
- ・ オートマチック車：シフトレバーが D または M に入っている
- ・ マニュアル車：シフトレバーが 2～6 速に入っている
- ・ ブレーキペダルを踏んでいない
- ・ マニュアル車：クラッチペダルを踏んでいない
- ・ 急な坂道でない
- ・ ハンドルを大きく切っていない
- ・ 自車速が 30 km/h ～約 120 km/h のとき

- ・ パーキングブレーキがかかっていない
- ・ オートマチック車：走行モードがノーマルモードまたはスポーツモードのとき (→P.220)
- ・ TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしていない (→P.150, 225)
- ・ TRC と VSC を停止していない (→P.225)

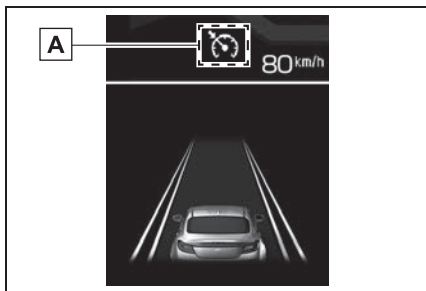
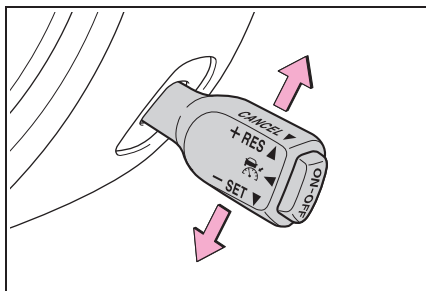


A READY 表示灯

- 3** アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
- 4** 希望する速度になったら、クルーズコントロールスイッチを - SET 側または + RES 側に操作します。スイッチを操作したときの車速がセット車速となり、定速走行します。

メーター内にセット車速が表示され、

 が白色から緑色に変わります。また、メーター内の READY 表示灯が消灯します。



A 緑色

知識

- 下り坂などでは、セット車速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、 (車間設定) スイッチを押します。切り替わるとブザー（ピッ）が鳴ります。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。（→P.333）

⚠ 警告

- 定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

⚠ 注意

定速クルーズコントロールでは、必要に応じて運転者がアクセル、ブレーキ操作をしてください。システムによる先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御は行いません。

■ セット車速を上げるとき

▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

定速クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

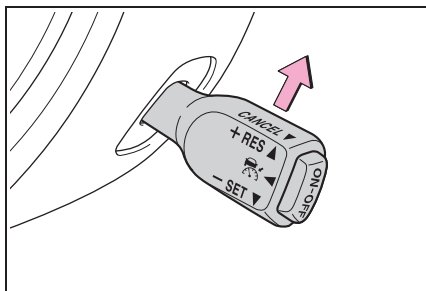
● + RES 側に操作します

操作することによりセット車速が 1 km/h ずつ上がります。

● + RES 側に操作して保持します

保持している間、セット車速が 5 km/h ずつ上がります。

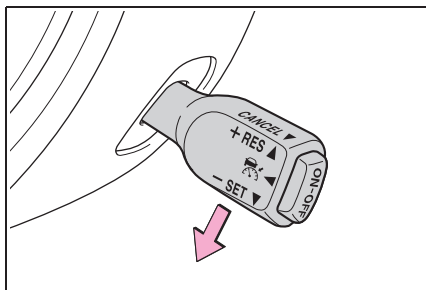
スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



▶ アクセルペダルによる方法

- 1 アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
- 2 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチを－SET 側に操作します。

操作したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



■ セット車速を下げるとき

▶ クルーズコントロールスイッチによる方法

定速クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

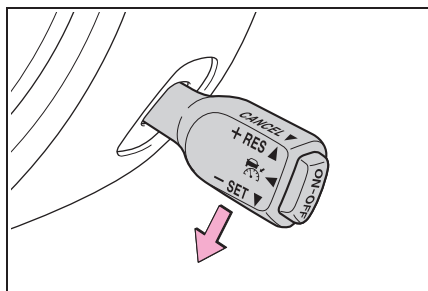
● － SET 側に操作します

操作することによりセット車速が 1 km/h ずつ下がります。

● － SET 側に操作して保持します
保持している間、セット車速が 5 km/h

ずつ下がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



▶ ブレーキペダルによる方法

- 1 ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

定速クルーズコントロールが解除され、

 が緑色から白色に戻ります。

- 2 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを－SET 側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

■ 一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。

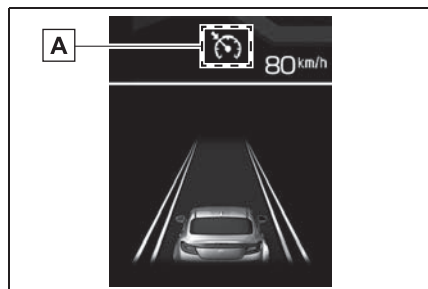
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

■ 一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。メーター内にセット車速を表示したまま、 が緑色から白色に戻ります。

セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、

クルーズコントロールスイッチを
+ RES 側に操作します。



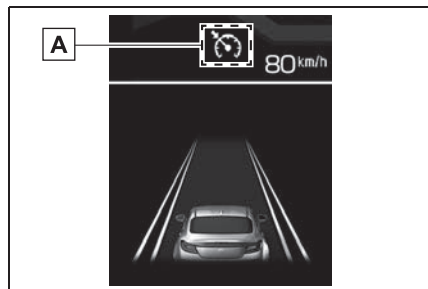
A 白色

定速クルーズコントロールの解除方法

■ 運転者の操作による解除

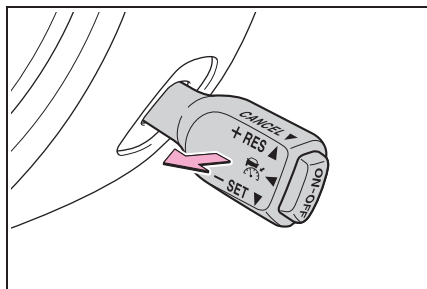
次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。

メーター内は、セット車速を表示したまま、 が緑色から白色に戻ります。



A 白色

- ブレーキペダルを踏む。
- クルーズコントロールスイッチを CANCEL 側に操作する。

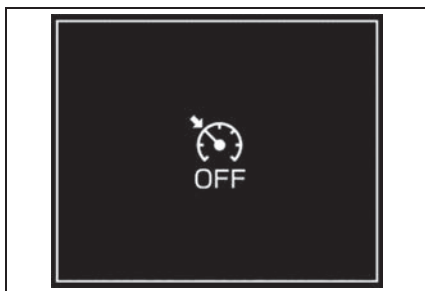


■ システムによる自動解除

次の場合、ブザー（ピーピン）が鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除され、割り込み画面が表示されます。

- オートマチック車：シフトレバーを D または M 以外にしたとき
- マニュアル車：シフトレバーを 1、R にしたとき、または N にしたまま 5 秒以上経過したとき
- マニュアル車：クラッチペダルを踏んだまま 5 秒以上経過したとき
- 自車速が約 25 km/h 以下になったとき（急な上り坂など）
- 自車速が約 145 km/h 以上になったとき
- VSC または TRC が作動したとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSight システムが故障したとき（（黄色）が点灯しているとき）（→P.212）
- ハンドルを大きく回したとき

- 道路の勾配が急なとき
- プリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき
- オートマチック車：走行モードをスノーモードにしたとき (→P.220)
- TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしているとき (→P.150, 225)
- TRC と VSC を停止したとき (→P.225)
- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき



知識

- EyeSight システムが故障した場合は  (黄色) が点灯し、割り込み画面を表示します。またプリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障は

ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。(→P.212)

- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight システムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

滑りやすい路面では、定速クルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

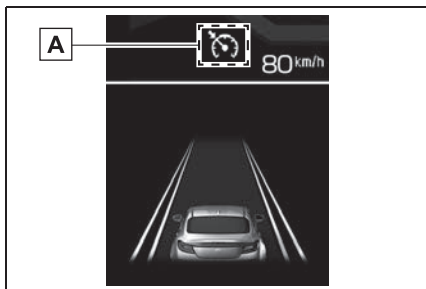
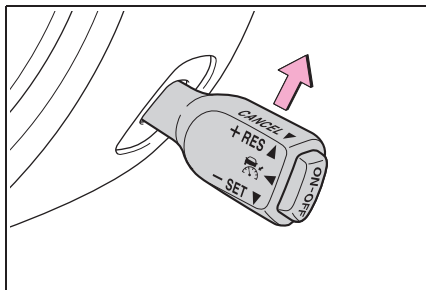
注意

- オートマチック車：緊急時以外はシフトレバーを N にしないでください。
- ・ シフトレバーを N にすると定速クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- マニュアル車：シフトレバーを N にしたままにしないでください。
- ・ シフトレバーを N にしたまま約 5 秒以上経過すると定速クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はクルーズコントロールスイッチを + RES 側に操作し

ます。(メーター内が再びセット状態の表示になります)。前回のセット车速がメモリーされている場合、自車速約 30 km/h 以上のときにセットできます。



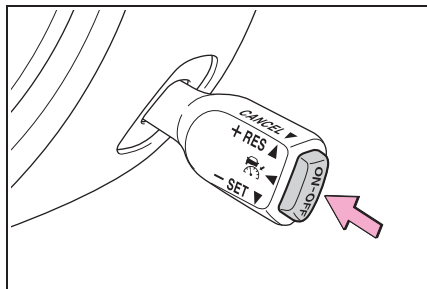
A 緑色

 知識

- 次の場合はメモリーされているセット车速が消去されます。
 - ・ ON-OFF スイッチを押してクルーズメイン OFF したとき
 - ・ VSC または TRC が作動したとき
 - ・ 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールに切り替えたとき
- セット车速に応じた车速で定速走行します。
- メモリー车速（前回のセット车速）がない場合、クルーズコントロールスイッチを + RES 側に操作すると、現在の自車速がセットされます。
(→P.183)

定速クルーズコントロールを OFF にするとき

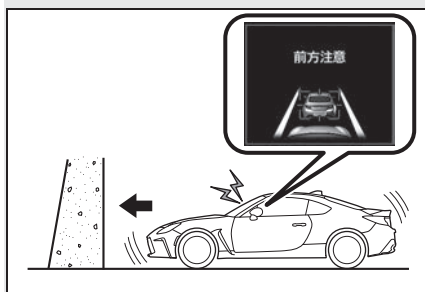
ON-OFF スイッチを押すと  が消灯し、定速クルーズコントロールが OFF になります。



AT 誤発進抑制制御（オートマチック車）

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進を緩やかにします。

AT 誤発進抑制制御が作動するとブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。この機能はシフトレバーがDまたはMのとき作動します。



知識

- アクセルペダルを踏み続けたとき（約3秒以上）は、徐々に制御を解除します。
- ブリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、AT 誤発進抑制制御は作動しません。（→P.193）

警告

- AT 誤発進抑制制御を過信しない。
 - ・ AT 誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT 誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- AT 誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まない。
 - ・ アクセルの調節を AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 遮断機を押しつけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT 誤発進抑制制御を OFF にする。
- ・ 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT 誤発進抑制制御が作動することがあります。（→P.193）

次の条件の違いにより作動しないことがあります。

- 対象物との距離、速度差、横方向のずれ（オフセット量）

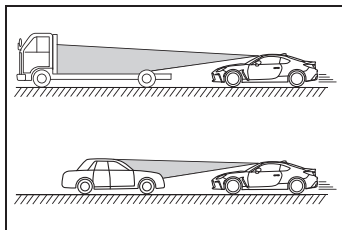
⚠ 警告

●ステレオカメラの認識状態

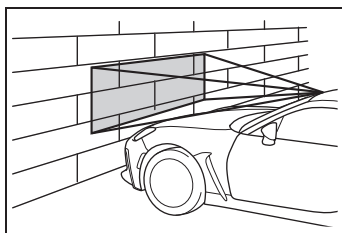
特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。

- ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
- ・砂や煙が舞い、視界が十分でないとき
- ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
- ・屋内の駐車場など暗い場所に対象物に接近するとき
- ・ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
- ・前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- ・フロントウインドウガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついているとき
- ・ウォッシャーの使用または使用後で、フロントウインドウガラスが十分に拭き取れていないとき
- ・雨滴やウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ・対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
- ・対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき（小動物、乳児、しゃがんでいる人、横たわっている人など）

- ・対象物や前方の車両（トレーラーや対向車両など）の自転車から一番近い面および最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（自転車から一番近いところではない部分を認識して、作動し効果が十分でないこともあります）



- ・対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき



- ・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- ・車両（二輪車、自転車含む）、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ・発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき
- ・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
- 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

警告

- 安全のため、お客様ご自身で AT 誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

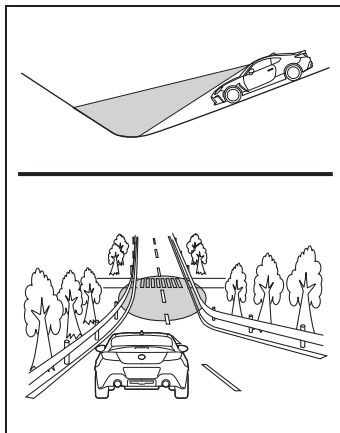
次のような場合は、必ず AT 誤発進抑制制御を OFF にしてください。AT 誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。

- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき

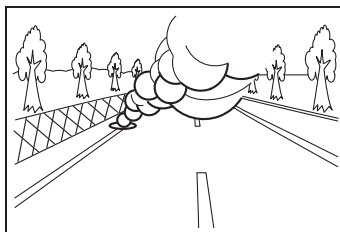
次のような場合は、AT 誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。

- 前車に接近して走行するとき
- ETC ゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき

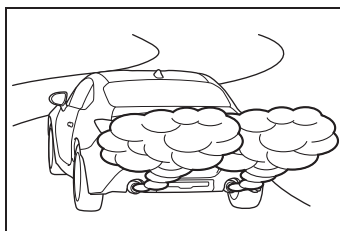
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき



- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき

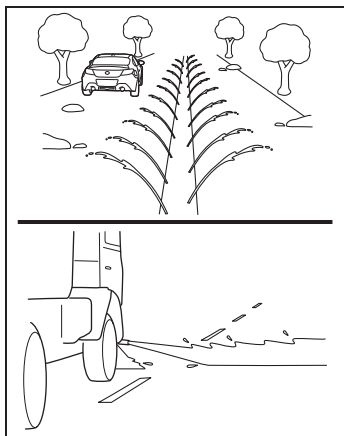


- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

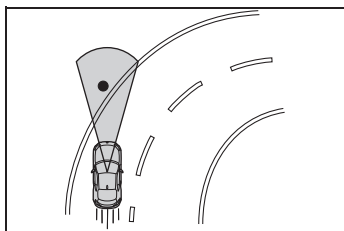


⚠ 注意

- 消雪パイプや散水車などの散水を通
過するとき



- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行
するとき
- カーブや交差点に障害物があるとき



- 車両や障害物の横すれすれを通過
するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車する
とき

AT 誤発進抑制制御を OFF にす るとき

メーターの設定項目で AT 誤発進抑制制御を OFF することができます。

「運転支援機能」の「PCB（プリクラッシュブレーキ）」の項目で

「OFF」を選択することで AT 誤発進抑制制御が OFF になります。
(→P.333)

AT 誤発進抑制制御を OFF にすると、メーター内のプリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯します。

□ 知識

- AT 誤発進抑制制御の ON / OFF 設定は、プリクラッシュブレーキおよび AT 誤後進抑制制御と連動します。
- AT 誤発進抑制制御を OFF にしても、エンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動すると AT 誤発進抑制制御は ON になります。

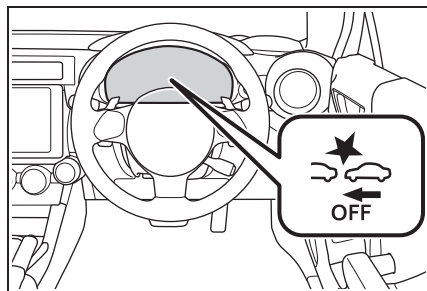
■ プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯

エンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 7 秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御を OFF にすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRC と VSC を停止したとき
(→P.225)
- EyeSight システムが故障したとき
(→P.212)
- EyeSight システムが一時停止したとき
(→P.213)



□ 知識

プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御は作動しません。

AT 誤後進抑制制御（オートマチック車）

AT 誤後進抑制制御には、後退時の急な飛び出しを防ぐ後退飛び出し抑制と、後退時の速度を一定に保つ後退速度リミッターの機能があります。

これらの機能はシフトレバーが R でブレーキペダルを踏んでいないとき作動します。

AT 誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

□ 知識

プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、AT 誤後進抑制制御は作動しません。（→P.196）

⚠ 警告

- AT 誤後進抑制制御を過信しない。
- ・ AT 誤後進抑制制御は衝突を回避するものではありません。後進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT 誤後進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT 誤後進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤後進抑制制御はあらゆる状況で、後退時の速度を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。

警告

- 安全のため、お客様ご自身で AT 誤後進抑制制御の作動テストを行わない。
- ・ 作動せず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏んでいる最中は制御が作動しません。そのため、下り坂などでは設定された速度を超過する場合があります。お客様自身でブレーキペダルを踏み増すなど速度調整をしてください。
- 万一、退避を要するような危険な状況に遭遇して、後進によって退避を行う必要がある場合なども、AT 誤後進抑制制御は作動します。慌てずにアクセルペダルを深く踏み続けるか、AT 誤後進抑制制御を OFF にしてください。(→P.196)

注意

次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

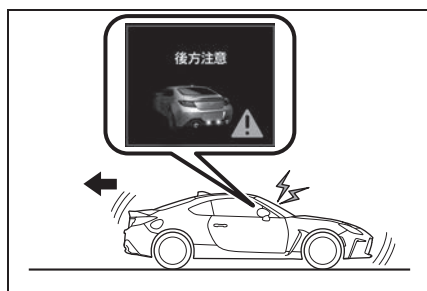
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

- 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

後退飛び出し抑制

後退時、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し急な後退を抑制します。

後退飛び出し抑制が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。



知識

- アクセルペダルを深く踏み続けたとき（約 3 秒以上）は割り込み画面が消え、徐々に制御を解除します。
- AT 誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

後退速度リミッター

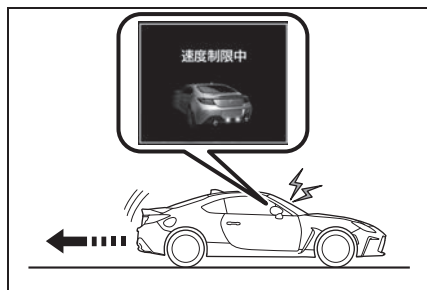
後退時、必要以上に加速しないよう車速を制限します。制限速度は運転者が設定できます。

- 1 シフトレバーを R にすると制限速度の設定値を表示します。



- 2 制限速度を超過しようになると、後退速度リミッターが作動します。

作動中はシフトレバーを R にしたときよりも早い間隔でブザー（ポーンポーン…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。



知識

- 後退速度リミッターは機能の設定（高速／中速／低速／OFF）ができます。（→P.333）

設定	速度
高速	約 20 km/h
中速	約 15 km/h
低速	約 10 km/h
OFF	—

- アクセルペダルを深く踏み込むと制御を解除することができます（“速度制

限中”の割り込み画面が消えます）。

- ・ アクセルペダルから足を離すと、再度後退速度リミッターが作動します。
- ・ 滑りやすい路面などでタイヤが空転したときは、後退速度リミッターが作動することがあります。
- ・ システムがアクセルの急踏みと判断した場合、後退飛び出し抑制が作動します。

AT 誤後進抑制制御を OFF にするとき

メーターの設定項目で AT 誤後進抑制制御を OFF することができます。

「運転支援機能」の「PCB（プリクラッシュブレーキ）」の項目で「OFF」を選択することで AT 誤後進抑制制御が OFF になります。（→P.333）

AT 誤後進抑制制御を OFF にすると、メーター内のプリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯します。

知識

- AT 誤後進抑制制御の ON／OFF 設定は、プリクラッシュブレーキおよび AT 誤後進抑制制御と連動します。
- AT 誤後進抑制制御を OFF にしても、エンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動すると AT 誤後進抑制制御は ON になります。

■ プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯

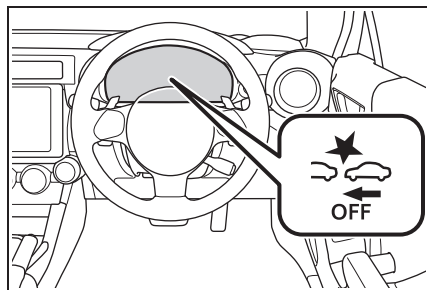
エンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 7 秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、AT 誤発

進抑制制御および AT 誤後進抑制制御を OFF にすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- ・ TRC と VSC を停止したとき (→P.225)
- ・ EyeSight システムが故障したとき (→P.212)
- ・ EyeSight システムが一時停止したとき (→P.213)



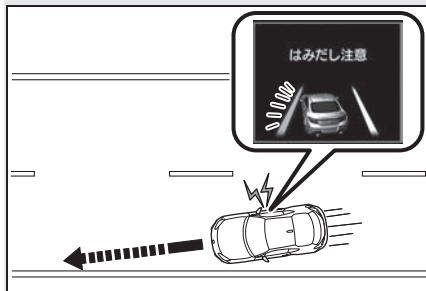
知識

プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御は作動しません。

車線逸脱警報

自車速が約 40 km/h 以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。

車線逸脱警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。



知識

- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
 - ・ めれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・ 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡などがあるとき
 - ・ ガードレールの影などがあるとき
 - ・ 区画線が二重に描かれているとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。(→P.198)

⚠ 警告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。

車線逸脱警報は区画線を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではありません。

⚠ 注意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。

- 自車速が約 40 km/h 未満のとき
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 半径 300 m 以下のカーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約 4 秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
 - ・ 区画線がない、または消えかかっている
 - ・ 区画線が黄色で描かれている
 - ・ 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
 - ・ 区画線の幅が細いなど

車線逸脱警報を ON / OFF にするとき

メーターの設定項目で車線逸脱警報を ON / OFF することができます。

「運転支援機能」の「LDW（車線逸脱警報）」の項目で「ON」を選択することで車線逸脱警報が ON になります。また「OFF」を選択することで車線逸脱警報が OFF になります。（→P.333）

車線逸脱警報を OFF にすると、メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

車線逸脱警報を ON にすると、車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯します。

□ 知識

- 車線逸脱警報を OFF にすると、ふらつき警報も OFF になります。
- エンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

■ 車線逸脱警報 OFF 表示灯

エンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 7 秒後、エンジンスイッチを OFF にする前の状態に応じて消灯または点灯します。

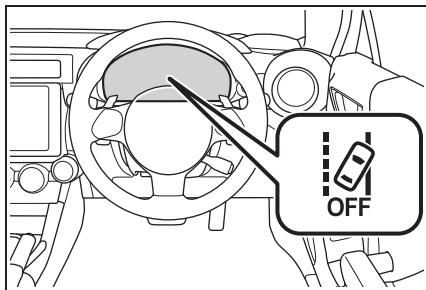
車線逸脱警報およびふらつき警報を OFF にすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしているとき（→P.150, 225）
- TRC と VSC を停止したとき

(→P.225)

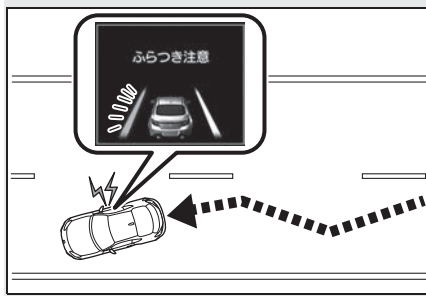
- EyeSight システムが故障したとき (→P.212)
- EyeSight システムが一時停止したとき (→P.213)



ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。

車速が約 60 km/h を超えると作動可能になります。車速が約 40km/h を下回ると作動を停止します。その後車速が約 60 km/h を超えると、再び作動可能になります。



知識

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきがおさまった後もしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報は運転者に注意を促す機能です。疲れたときやよそ見など、運転への集中力が落ちた際は、必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しているときは、ふらつき警報は作動しません。(→P.200)

⚠ 警告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次の状況では、作動しない場合があります。

- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
 - ・ 区画線がない、または消えかかっている
 - ・ 区画線が黄色で描かれている
 - ・ 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
 - ・ 区画線の幅が細いなど

ふらつき警報を ON / OFF にするとき

メーターの設定項目でふらつき警報を ON / OFF することができます。

「運転支援機能」の「LDW（車線逸脱警報）」の項目で「ON」を選択することでふらつき警報が ON になります。また「OFF」を選択することでふらつき警報が OFF になります。（→P.333）

ふらつき警報を OFF にすると、

メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

ふらつき警報を ON にすると、車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯します。

📖 知識

- ふらつき警報を OFF にすると、車線逸脱警報も OFF になります。
- エンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

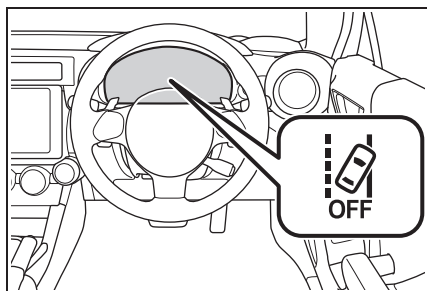
■ 車線逸脱警報 OFF 表示灯

エンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 7 秒後、エンジンスイッチを OFF にする前の状態に応じて消灯または点灯します。

車線逸脱警報およびふらつき警報を OFF にすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- ・ TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしているとき（→P.150, 225）
- ・ TRC と VSC を停止したとき（→P.225）
- ・ EyeSight システムが故障したとき（→P.212）
- ・ EyeSight システムが一時停止したとき（→P.213）

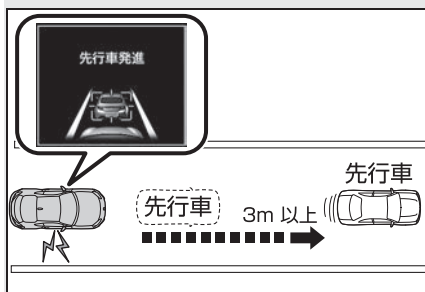


先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約 10 m 以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約 3 m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。この機能はシフトレバーが D、M または N のとき作動します。

- オートマチック車：この機能はシフトレバーが D、M または N のとき作動します。
- マニュアル車：この機能はブレーキペダルを踏んでいるときのみ作動します。パーキングブレーキのみによって停車している場合や、シフトレバーが R の場合は作動しません。

この機能が作動するとブザー（ポピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。



知識

- 先行車発進お知らせの ON / OFF の設定を変更できます。（→P.333）

- 次のような状況では、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
 - ・ 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
 - ・ 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
 - ・ ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき
- マニュアル車：先行車発進お知らせはエンストした場合にも作動しますが、エンジンを再始動したときにバッテリー電圧の異常などが発生した場合、作動しないことがあります。
- 次の場合、先行車発進お知らせは作動しません。
 - ・ TRACK モード中、プリクラッシュブレーキを OFF にしているとき（→P.150, 225）
 - ・ TRC と VSC を停止したとき（→P.225）
 - ・ EyeSight システムが故障したとき（→P.212）
 - ・ EyeSight システムが一時停止したとき（→P.213）

警告

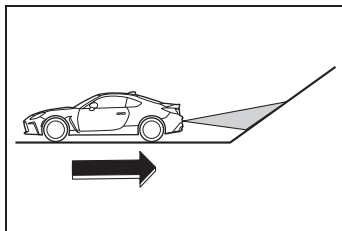
ブザーと表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。先行車発進お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）

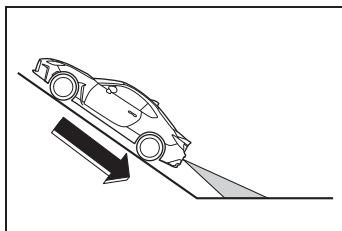
RAB は、後退時に自車の真後ろの静止車両や壁などの障害物を検知して表示と警報音でお知らせします。衝突の可能性があると判断した場合はブレーキを作動させることで衝突を回避、または被害を軽減します。

知識

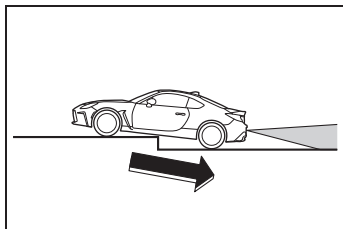
- RAB は、システムによるブレーキが作動したときに、次のデータを記録します。個人情報（例：氏名・性別・年齢・作動場所）や、会話その他の音声データは記録しません。
 - ・ 対象物からの距離
 - ・ 車速
 - ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
 - ・ シフトレバーの位置
 - ・ 外気温
 - ・ ソナーセンサーの感度設定
- シフトレバーを R にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるものは認識しないことがあります。
- ソナーセンサーの取り扱いをお守りください。（→P.139）
- 次のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
 - ・ ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
 - ・ 大雨などでソナーセンサーまたはソナーセンサー付近に大量の水がかかったとき
 - ・ 霧や雪、強風、砂嵐など悪天候のとき
 - ・ 他の車両のホーン、エンジン音、エアブレーキ音などの高周波音が近くで鳴っているとき
- RAB のソナーに近い周波数の音が近くで鳴っているとき
- 車両を改造したり、リヤバンパーに次のような部品を取り付けたりすると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。部品の取り付けなどが必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ フォグランプ、フェンダーポール、ラジオアンテナなどの部品
 - ・ ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
 - ・ 字光式ナンバープレートなど
- 次のような状態のときは、システムが地面や壁などを障害物として検知することがあります。
 - ・ 積載などにより、車高が極端に変わっているとき
 - ・ 後退方向に極端な上り坂があるとき



- ・ 後退方向に縁石があるとき
- ・ 草や砂利が多い道路や穴やわだちがある地面を後退しているとき
- ・ 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
- ・ 極端な上り坂または下り坂を後退しているとき



- ・ 段差を後退しているとき



- 次のような状態のときは、システムが正常に作動してもブレーキが効きにくく、衝突を回避できないことがあります。
 - ・ タイヤを正しく装着していないとき
 - ・ 路面が滑りやすいとき
 - ・ 急な坂道を走行しているとき
 - ・ マンホールのフタの上などを走行しているとき
 - ・ パンク修理キットで応急修理をしたとき
 - ・ タイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 車両やブレーキに異常があるとき

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にある。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認する。
- ・ RAB の検知性能・制御性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音やブレーキ制御の作動が遅れたり、作動しなかったり、衝突が回避できない場合があります。
- ・ RAB は、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。

- RAB だけに頼った後退は、絶対にしない。

- ・ システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。
- 車両などをけん引するときは、必ず RAB を OFF にする。
- ・ RAB が予期しない作動をし、事故につながるおそれがあります。
- 踏切から緊急に脱出するときなど、RAB を解除する必要があるときは、落ち着いてアクセルペダルを踏み続けるか、RAB を OFF にする。
- ・ システムが遮断機を障害物として検知し、ブレーキが作動することがあります。(→P.205)
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ず RAB を OFF にする。
- ・ RAB が予期しない作動をするおそれがあります。
- 車両後部にアタッチメントパーツ(サイクルキャリア、バンパーガード)を取り付けた場合は、必ず RAB を OFF にする。
- ・ システムの誤作動を引き起こし、思わぬ事故や破損を起こす可能性があります。

⚠ 注意

- 次のようなものは、障害物として認識しないことがあります。
 - ・ 歩行者
 - ・ 動いているもの
 - ・ 枝や遮断機、柵、フェンス、自転車など尖ったものや細いもの
 - ・ 布や雪など音波を吸収するもの

⚠ 注意

- ・ 表面の角度が斜めになっているもの
- ・ 車両より小さいもの
- ・ 車両よりも高い位置や、地面近くの低い位置にあるもの
- ・ 自車の中心から左右に外れた位置にあるもの
- ・ 地面に対して垂直でないもの
- ・ トタンや垣根などの凹凸なもの、波打っているものなど尖ったものや細かいもの
- RAB は次のような場合に作動しないことがあります。
- ・ 障害物に対して斜めに接近するとき
- ・ ハンドルを大きくきっているとき

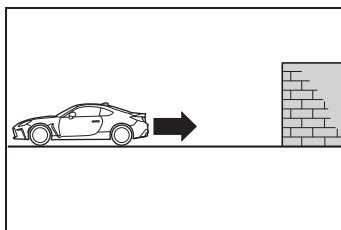
RAB の作動

シフトレバーを R に（メータのシフトポジション表示が R に変化）し車速約 1.5 km/h ～ 15 km/h で後退を続けたとき、衝突の危険があると判断されると、衝突を回避するために自動的にエンジン出力を抑制し、強いブレーキが作動します。

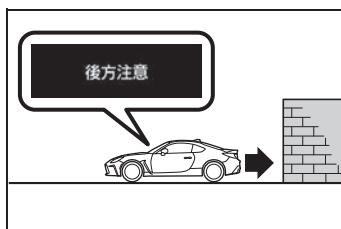
警報音に加え、割り込み画面を表示します。

RAB による停車後はブザーが鳴ります。その後ゆっくりとシステムによるブレーキが解除され、クリープ走行を開始するため、車両停車後は必ずブレーキペダルを踏んでください。このとき、RAB が一時停止します。シフトレバーを R 以外にすると復帰します。

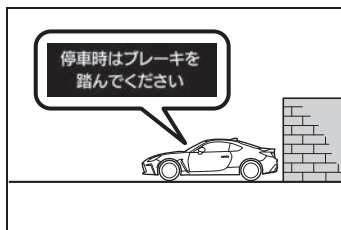
▶ 後退中



▶ 加速抑制＋ブレーキ



▶ ブレーキにより停車



📖 知識

- クリアランスソナーが鳴っていても、RAB は作動しないことがあります。
- 加速抑制中にアクセルペダルを踏み続けると、RAB をキャンセルすることができます。
- RAB による停車中にアクセルペダルを踏んだとき、RAB は作動しません。
- 次の場合は、RAB が解除されます。
 - ・ 車両が停車してから 3 秒が経過したとき
 - ・ いずれかのドアを開けたとき
 - ・ RAB ・ クリアランスソナー警告灯が点灯したとき
 - ・ RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯が

点灯したとき

- 障害物を検知できなくなったときは、RAB がキャンセルされます。

⚠ 警告

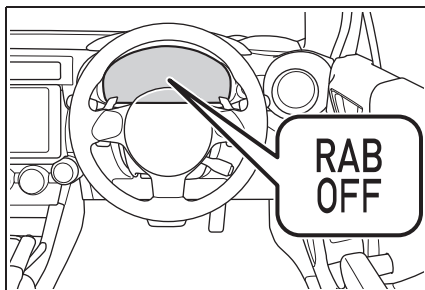
システムによるブレーキで停車した後
はすぐにブレーキペダルを踏んでくだ
さい。お車が動き出すおそれがありま
す。

RAB の一時停止

RAB の作動後、シフトレバーを R
以外にするまで、および次のよう
なときには、RAB が一時停止しま
す。

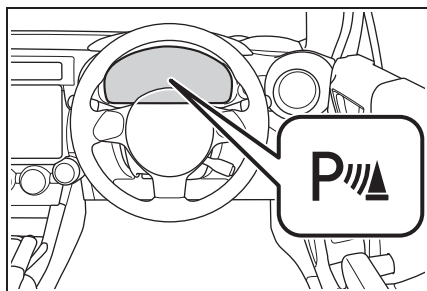
- ソナーセンサーに氷や雪、泥な
どが付着したとき
- リヤバンパーのすぐ近くに物が
ある状態でシフトレバーを R に
したとき
- RAB のソナーに近い周波数の音
を検知したとき
- TRC と VSC を停止したとき
- TRACK モード中、プリクラッ
シュブレーキを OFF にしてい
るとき (→P.150, 225)

このとき、RAB OFF 表示灯／一
時停止表示灯が点灯します。



RAB・クリアランスソナー警告 灯

システムに異常があると点灯しま
す。トヨタ販売店にご連絡くださ
い。



RAB を ON / OFF にするとき

マルチインフォメーションディス
プレイで RAB の ON / OFF を切
り替えることができます。
(→P.333)

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、後退時に自車の真後ろの静止車両や壁などの障害物を検知して表示と警報音でお知らせします。

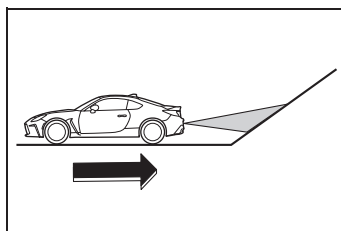
知識

- 次のようなものは、障害物として認識しないことがあります。
 - ・ 歩行者
 - ・ 動いているもの
 - ・ 枝や遮断機など尖ったものや細いもの
 - ・ 布や雪など音波を吸収するもの
 - ・ 表面の角度が斜めになっているもの
 - ・ 車両より小さいもの
 - ・ 車両よりも高い位置や、地面近くの低い位置にあるもの
 - ・ 自車の中心から左右に外れた位置にあるもの
 - ・ 地面に対して垂直でないもの
 - ・ 車両進行方向に対して直角でないもの
 - ・ 凹凸なもの、波打っているもの
- シフトレバーを R にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるものは認識しないことがあります。
- ソナーセンサーの取り扱いをお守りください。(→P.139)
- 次のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
 - ・ ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
 - ・ 大雨などでソナーセンサーまたはソナーセンサー付近に大量の水がかかったとき
 - ・ 霧や雪、強風、砂嵐など悪天候のとき
 - ・ 他の車両のホーン、エンジン音、エアブレーキ音などの高周波音が近くで鳴っているとき
 - ・ クリアランスソナーのソナーに近い周波数の音が近くで鳴っているとき

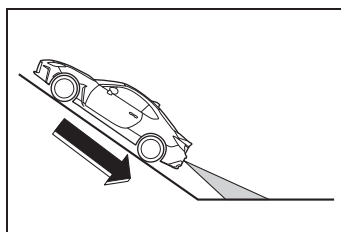
- 車両を改造したり、リヤバンパーに次のような部品を取り付けたりすると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。部品の取り付けなどが必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ・ サイクルキャリア、バンパーガードなどのアタッチメントパーツ
- ・ フォグランプ、フェンダーボール、ラジオアンテナなどの部品
- ・ ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
- ・ 字光式ナンバープレートなど

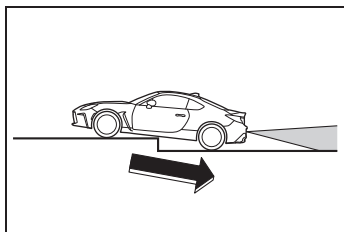
- 次のような状態のときは、システムが地面や壁などを障害物として検知することがあります。
 - ・ 積載などにより、車高が極端に変わっているとき
 - ・ 後退方向に極端な上り坂があるとき



- ・ 後退方向に縁石があるとき
- ・ 草や砂利が多い道路や穴やわだちがある地面を後退しているとき
- ・ 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
- ・ 極端な上り坂または下り坂を後退しているとき



- ・ 段差を後退しているとき



⚠ 警告

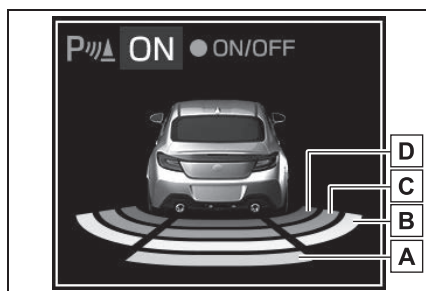
- 安全運転を行う責任は運転者にある。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認する。
- ・ クリアランスソナーの検知性能・制御性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音が遅れたり、作動しなかったりする場合があります。

- ・ クリアランスソナーは、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。
- クリアランスソナーだけに頼った後退は、絶対にしない。
- ・ システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。

クリアランスソナーの作動

シフトレバーを R に（メータのシフトポジション表示が R に変化）し障害物を検知すると、障害物との距離の範囲がメーターに表示され、警報音が鳴ります。

警報音は障害物との距離によって 3 段階に変化し、近づくほど間隔が短くなります。



	警報パターン	障害物との距離の範囲	障害物との距離の表示
A	遠距離警報	110 cm ～ 150 cm	緑
B	中距離警報	70 cm ～ 110 cm	黄 + 緑
C	接近警報	50 cm ～ 70 cm	橙 + 黄 + 緑
D	最接近警報	50 cm 以下	赤 + 橙 + 黄 + 緑

知識

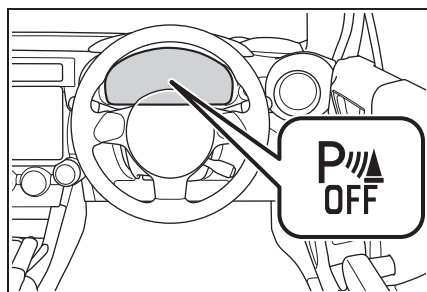
クリアランスソナーの音量を設定することができます。(→P.333)

クリアランスソナーの一時停止

次のようなときには、クリアランスソナーが一時停止します。

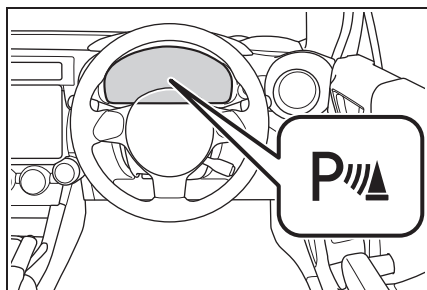
- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- クリアランスソナーのソナーに近い周波数の音を検知したとき

このとき、クリアランスソナー OFF 表示灯／一時停止表示灯が点灯します。



RAB・クリアランスソナー警告灯

システムに異常があると点灯します。トヨタ販売店にご連絡ください。

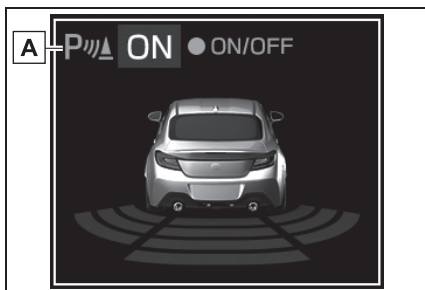


クリアランスソナーを ON / OFF にするとき

マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーの ON / OFF を切り替えることができます。(→P.333)

クリアランスソナーは、割り込み画面で、メーター操作スイッチの  を押して切り替えることもできます。

クリアランスソナーを OFF にすると、割り込み画面のアイコンの「ON」が「OFF」に変わります。



A クリアランスソナーの ON / OFF

 知識

エンジンを始動すると、クリアランスソナーは自動的に ON になります。

EyeSight システムの作動音

システム作動音一覧

ブザー（音）	状態	参照先
ピーー ...	ブリクラッシュブレーキ：2 次ブレーキ および警報が作動したとき	P.148
	RAB：ブレーキが作動したとき ※1	P.204
ピーーン	全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズ コントロール、定速クルーズコントロール が自動解除されたとき	P.162, 177, 187
ピピピ ...	ブリクラッシュブレーキ：1 次ブレーキ および警報が作動したとき	P.148
	ブリクラッシュブレーキ：車間距離警報 が作動したとき	
	全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズ コントロールによるブレーキ踏み増し要 求警報が作動したとき	P.164, 180
	AT 誤発進抑制制御が作動したとき ※1	P.190
	AT 誤後進抑制制御の後退飛び出し抑制が 作動したとき ※1	P.195
	RAB：加速抑制が作動したとき ※1	P.204
ピピピッ	車線逸脱警報が作動したとき	P.197
	ふらつき警報が作動したとき	P.199
ピッ、ピッ、ピッ、 ピーーン	ブリクラッシュブレーキによる自車の停 止後、ブレーキ制御が解除される直前	P.148
	全車速追従機能付クルーズコントロール を使用時に、先行車の停止に伴う自車の 停止後、ブレーキ制御が解除される直前 ※1	P.162
	RAB による自車の停止後、ブレーキ制御 が解除される直前 ※1	P.204

ブザー（音）	状態	参照先
ピッ	全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールをセット中に ・ 先行車を認識したとき ※2 ・ 先行車を認識しなくなったとき ※2 ・ 赤信号を認識したとき	P.156, 165, 171, 180
	全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えたとき	P.183
	EyeSight システムが故障したとき	P.212
	EyeSight システムが一時停止したとき	P.213
	RAB/ クリアランスソナーが故障したとき	P.205, 206
	RAB/ クリアランスソナーが一時停止したとき	P.205, 206
ポピッ	先行車発進お知らせが作動したとき ※2	P.201
ポーンポーン …	後退速度リミッターが作動しているとき ※1	P.195
ポッポッポッポッ ポッ …	クリアランスソナー：中距離警報	P.204, 206
ポポポポポ …	クリアランスソナー：接近警報	
ポーーーー	クリアランスソナー：最接近警報	

※1 作動音の有無はグレード、オプションにより異なります。

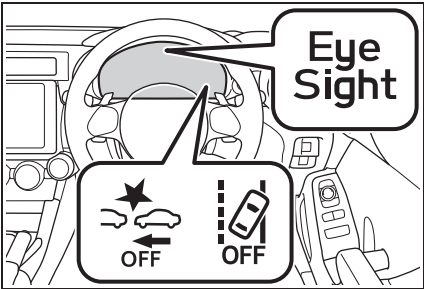
※2 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）および 先行車発進お知らせの ON / OFF の設定を変更できます。
（→P.333）

EyeSight システムの故障および一時停止

EyeSight システム（RAB、クリアランスソナーを含む）の異常を検知すると、メーター内の表示灯でお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

ブザー（ピッ）が鳴り、（黄色）が点灯または点滅します。同時に、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、割り込み画面を表示します。



マルチインフォメーションディスプレイ	原因	処置
 販売店で点検を受けてください	EyeSight システムの故障またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。	点検、調整などが必要です。トヨタ 販売店にご相談ください。

知識

- （黄色）が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動しても （黄色）が点灯または点滅し続けるときは、EyeSight システムの異常が考えられます。この場合、EyeSight システム

のすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- オートマチック車：（黄色）が点灯、または点滅しているときは、RAB（後退時ブレーキアシスト）は機能しません。

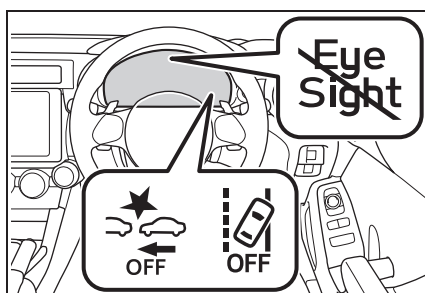
⚠ 注意

走行中に^{EyeSight}（黄色）とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSight システムは使用できません。

一時停止

ブザー（ピッ）が鳴り、^{EyeSight}（白色）が点灯します。同時に、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、割り込み画面を表示します。

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的に EyeSight が復帰します。



マルチインフォメーション ディスプレイ	原因	処置
 一時停止 カメラ視界不良	ステレオカメラが前方を認識しにくい ・ フロントウインドウガラスの汚れ、曇り ・ 悪天候時 ・ 前方からの強い光	● フロントウインドウガラスをきれいにしてください。 ● 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。状況が解消して時間がたっても復帰しない場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 一時停止 カメラ温度範囲外	低温または高温時	EyeSight が使用可能な温度になると復帰します。室内が常温でも復帰しない場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 一時停止	・ EyeSight 起動中のとき ・ 車両が極端に傾いていると判断したとき ・ エンジン始動後、プリクラッシュ 2 次ブレーキが 3 回作動したとき ・ エンジンが停止したとき（オートマチック車）	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。

□ 知識

（白色）が点灯しているときは、次のような現象が発生します。

- 定速クルーズコントロールが使用できない場合があります。それ以外の EyeSight システムの機能は使用できません。
- オートマチック車：RAB（後退時ブレーキアシスト）が停止する場合があります。

BSD / RCTA (後側方警戒支援システム) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

BSD / RCTA は、隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時や後退時の後側方確認をアシストするシステムです。

！ 警告

BSD / RCTA について次のことをお守りください。守らないと思わぬけがや重大な事故につながるおそれがあります。

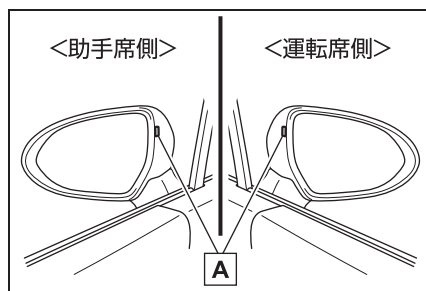
- 車線変更や後退時には必ず目視で周辺状況を確認する。
- ・ 道路、天候、交通状況などにより、隣接車線に車両が存在する場合や、左右から接近する車両が存在する場合でも、BSD / RCTA が作動しなかったり、作動が遅れたりする場合があります。
- システムを過信しない。
 - ・ 安全な車線変更や後退の可否を判断したり、車両や障害物との接触を自動的に防ぐ機能ではありません。
 - ・ システムを過信すると最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

！ 注意

- リフトアップするときや、シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ず BSD / RCTA を OFF にする。
- ・ BSD / RCTA が予期しない作動をする可能性があります。
- 車両などをけん引するときは、必ず BSD / RCTA を OFF にする。
- ・ BSD / RCTA が予期しない作動をする可能性があります。
- 車両後部に自転車またはスキー・スノーボード固定用のリヤキャリアなどを取り付けた場合は、必ず BSD / RCTA を OFF にする。
- ・ BSD / RCTA が予期しない作動をする可能性があります。

BSD / RCTA の作動

ドアミラーの BSD / RCTA 接近表示灯が点灯、点滅して運転者に危険を知らせます。



A BSD / RCTA 接近表示灯

□ 知識

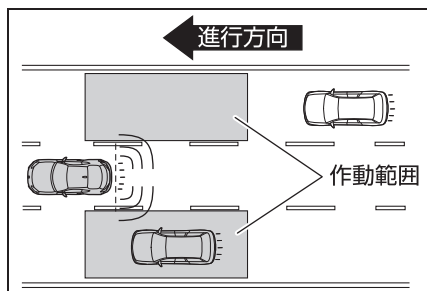
- 強い日差しのもとでは、BSD / RCTA 接近表示灯が見えにくいことがあります。
- 後方車両からのヘッドランプによって、

BSD / RCTA 接近表示灯が見えにくくなる場合があります。

- ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、インストルメントパネル照度調整ダイヤルに連動して BSD / RCTA 接近表示灯が減光します（明るさを調整することはできません）。インストルメントパネル照度調整ダイヤルを一番上（●印部分）に回すと減光は OFF になります。（→P.60）

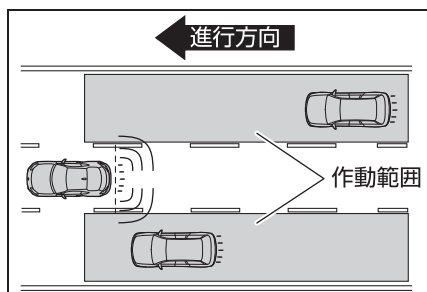
■ 死角検知機能

車速約 12 km/h 以上で走行中、ピラー左右後方の死角にある車両を検知すると、BSD / RCTA 接近表示灯が点灯します。運転者が BSD / RCTA 接近表示灯の点灯した側に方向指示器のレバーを操作した場合は、BSD / RCTA 接近表示灯が点滅して警告します。



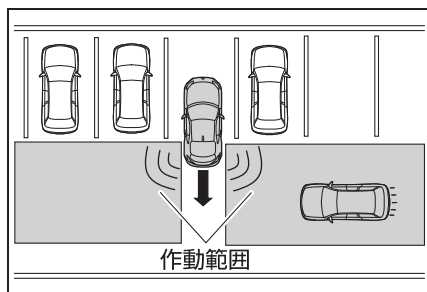
■ 車線変更支援

車速約 12 km/h 以上で走行中、隣接する左右車線内に高速で接近する車両を検知すると、BSD / RCTA 接近表示灯が点灯します。運転者が BSD / RCTA 接近表示灯の点灯した側に方向指示器のレバーを操作した場合は、BSD / RCTA 接近表示灯が点滅して警告します。



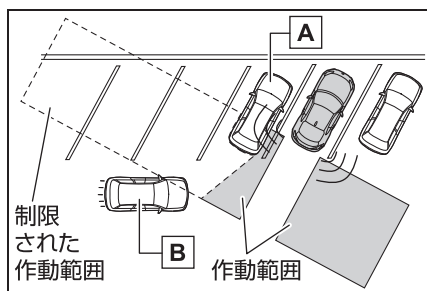
■ 後退時支援

後退時に左右から接近してくる車両を検知すると、接近状態に応じて BSD / RCTA 接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ります。



▶ 接近する車両を検知しにくいとき

後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、周囲の駐車している車両により BSD / RCTA の作動範囲が制限されます。

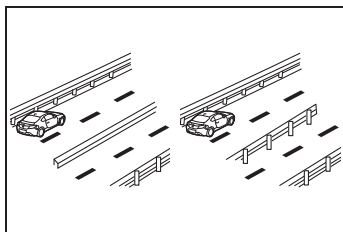


A 駐車している車両

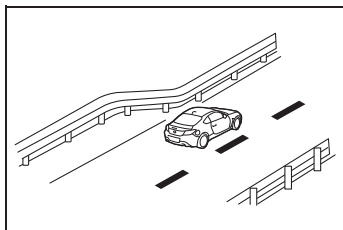
B 接近する車両

知識

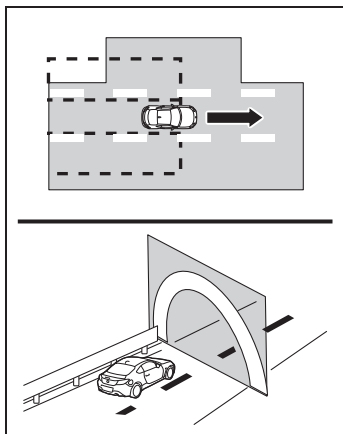
- 後側方レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合には BSD / RCTA の検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
 - ・ 後側方レーダー付近のリヤバンパーが変形、損傷したとき
 - ・ リヤバンパーの後側方レーダー付近に雪、氷、泥が付着しているとき
 - ・ 雨、雪、霧など悪天候のとき
 - ・ 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行するとき
- 次のような車両などに対しては、後側方レーダーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。
 - ・ 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の構造物
 - ・ レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
 - ・ 隣車線後方の検知エリアや、後退時の左右側方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両（接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています）
 - ・ 自車との速度差がかなり大きい車両
 - ・ 自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
 - ・ 対向車
 - ・ 2 車線隣にいる車両
 - ・ 自車よりもかなり遅い速度で隣車線を走行中に、急激に速度を上げて自車を追い越そうとする車両
- 次のような場合は、BSD / RCTA 接近表示灯の点灯／点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
 - ・ 車両が、2 車線隣の車線から隣車線に車線変更してきたとき
 - ・ 急勾配を走行している、または急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき
 - ・ 自車と隣車線の車両が、互いの車線の端を走行しているとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近しているとき
 - ・ 回転半径が小さいとき（急カーブや交差点を曲がるときなど）
 - ・ 走行車線と隣接する車線間で高低差があるとき
 - ・ BSD / RCTA を ON にした直後
 - ・ シフトレバーを R に入れた直後
 - ・ 荷室に非常に重い荷物を載せているとき
- 後退時、次のような場合は BSD / RCTA 接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
 - ・ 傾斜のある駐車スペースから出るとき
 - ・ 隣に大型車両が駐車しているとき
 - ・ 勾配がついた路面で後退しているとき
 - ・ 後退速度が速いとき
- 後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、次のような現象が発生する可能性があります。
 - ・ BSD / RCTA 接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しない
 - ・ 車両前方を通過する車両を検知して、BSD / RCTA 接近表示灯が点滅し、警報音が鳴る
- 次のような場合には、2 車線横の車両を検知することがあります。
 - ・ 自車が車線端に寄って走行しているとき
 - ・ 2 車線横の車両が車線端に寄って走行しているとき
- 道路上および道路端に構造物（ガードレール、トンネル、側壁など）があるとき、BSD / RCTA 接近表示灯が点灯することがあります。
 - ・ ガードレールやコンクリート壁などが並行している場合



- ・ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ



- ・トンネルの出入口やトンネル内の側壁、非常駐車帯や待避所



- 後退している方向に建物や路壁などがあるとき、BSD / RCTA 接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ることがあります。
- 市街地の交差点を曲がるとき、多車線の交差点を曲がるときなどに、BSD / RCTA 接近表示灯が点滅することがあります。
- 警報音の音量を設定できます。

(→P.333)

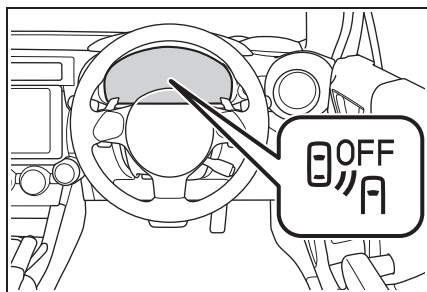
警告

周囲の駐車している車両により BSD / RCTA の作動範囲が制限され、接近する車両の検知ができない場合や、遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において目視によって周辺状況を確認してください。

BSD / RCTA の一時停止

BSD / RCTA が一時停止すると、BSD / RCTA OFF 表示灯が点灯し、割り込み画面を表示します。
(→P.299)

状況が改善されると正常復帰しますが、BSD / RCTA OFF 表示灯が長時間点灯し続ける場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



■ 一時停止

極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき、または後側方レーダーの取り付け角度が著しく変化していると後側方レーダーが判断したときに表示します。

■ 一時停止（レーダー検知不能）

後側方レーダーの検知性能が低下したときに表示します。

BSD / RCTA を OFF にするとき

メーターで BSD / RCTA を OFF に設定することができます。
(→P.333)

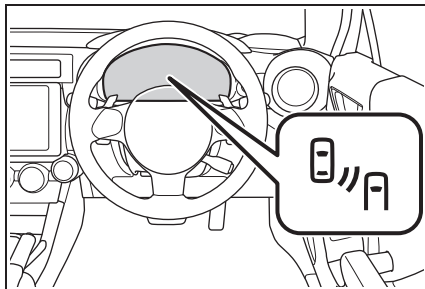
BSD / RCTA を OFF にすると、BSD / RCTA OFF 表示灯が点灯します。復帰したときは、左右のドアミラーの BSD / RCTA 接近表示灯が数秒間点灯します。

知識

エンジンスイッチを OFF にし、再度 ON にした場合は、OFF にする前の BSD / RCTA ON / OFF 状態が保持されます。

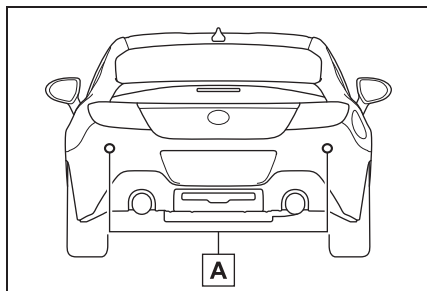
BSD / RCTA 警告灯

システムに異常が発生したときは BSD / RCTA 警告灯が点灯し、割り込み画面を表示します。トヨタ販売店で点検を受けてください。
(→P.299)



後側方レーダーの取り扱いについて

後側方レーダーはリヤバンパーの内側に左右ひとつずつ取り付けられています。

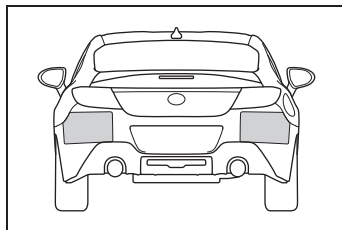


A 後側方レーダー

注意

BSD / RCTA の正しい作動のため、次のことをお守りください。

- 後側方レーダー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- 後側方レーダー付近のバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
- ・ 詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



- 後側方レーダー付近のバンパーを改造しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーを塗装しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーへの強い衝撃を与えない。
- ・ 後側方レーダーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起ころおそれがあるので強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

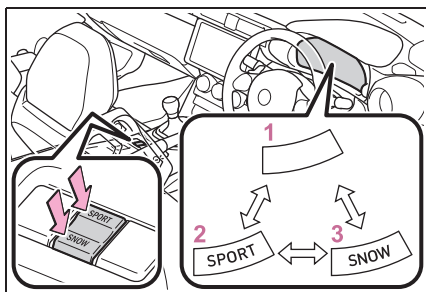
- 後側方レーダーを分解しない。

ドライブモードセレクトスイッチ★

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

走行・使用状況に合わせて次の
モードを選択できます。

走行モードを選択するには



スポーツモードスイッチ、スノーモードスイッチを押すと、ノーマルモード、スポーツモード、スノーモードが切りかわります。

スポーツモードまたはスノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

スポーティな走行、カーブの多い山間地などの走行に適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。
また、シフトレバーをDポジションで走行中、スポーツモードに切りかえた場合、D1からD6のあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。

3 スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適しています。

スノーモード表示灯が点灯します。

知識

■スポーツモードについて

- スポーツモードでは、低ギヤ段を使用し、より高いエンジン回転数で変速します。
- 次のときはスポーツモードに切りかわらない場合があります。スポーツモードに切りかわらないときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - ・全車速追従機能付クルーズコントロールまたは定速クルーズコントロールを使用しているとき
 - ・エンジンが冷えているとき

■スノーモードについて

スノーモードでは、すべり防止のため、1速には入りません。

■スポーツ / スノーモードの自動解除

以下の場合、自動的にノーマルモードに切りかわります。

- スポーツモードまたは、スノーモードを選択して走行後、エンジンを切る
- スポーツモードで走行中に全車速追従機能付クルーズコントロールまたは定速クルーズコントロールを使用したとき
- スポーツモードで自動的に2速での停止・2速からの発進となったとき
(→P.114)

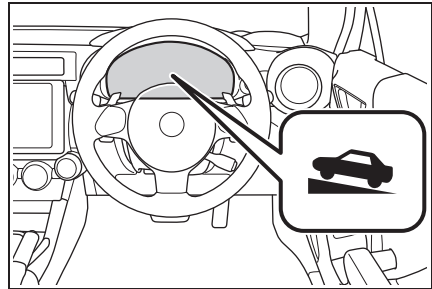
ヒルスタートアシストコントロール

上り坂での前進時および下り坂での後退時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯について

エンジンスイッチを ON にすると、ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯が点灯します。

ヒルスタートアシストコントロールが作動している場合は、点滅します。



ヒルスタートアシストコントロールを解除するには

- 1 車両を安全で平坦な場所に停車させる

パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認してください。

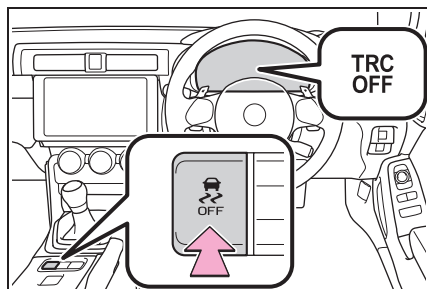
- 2 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する

- 3 エンジンを始動し、ABS & ブレーキアシスト警告灯とスリッ

ブ表示灯が消灯していることを確認する

4 スイッチを長押しする（約 30 秒）

TRC OFF 表示灯が点灯し、その後消灯することを確認してください。



5 消灯後、5 秒以内に スイッチを離し、2 秒以内に再度 スイッチを押す

ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯が消灯し、その後点灯します。

6 エンジンスイッチを OFF にする

7 再度エンジンを始動し、ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯が消灯していることを確認する

ヒルスタートアシストコントロールが解除されます。

ヒルスタートアシストコントロールを作動可能状態にもどすには、上記手順 1 から手順 7 を行ってください。



■ヒルスタートアシストコントロール設定時の留意事項

●ヒルスタートアシストコントロール作

動表示灯が消灯しない場合や途中で操作を間違えた時は、一度エンジンスイッチを OFF にして、手順 4 からやり直してください。

-  スイッチもしくは TRACK スイッチを 30 秒以上押し続けると TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が消灯し、

 スイッチおよび TRACK スイッチの以後の操作を受け付けなくなります。この場合、VSC および TRC はノーマルモードで作動します。（→P.225）一度エンジンスイッチを ACC または OFF にし、再度エンジンを始動すれば

 スイッチおよび TRACK スイッチの操作が有効になります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- オートマチック車：上り坂での前進時にシフトレバーの位置が D または M のとき、または下り坂での後退時にシフトレバーの位置が R のとき
- マニュアル車：上り坂での前進時にシフトレバーの位置が R 以外のとき、または下り坂での後退時にシフトレバーの位置が R のとき
- 車両停止状態のとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき

■ヒルスタートアシストコントロールが作動しないとき

次のときシステムは作動しません。

- オートマチック車：上り坂での前進時にシフトレバーの位置が D または M 以外のとき、または下り坂での後退時にシフトレバーの位置が R 以外のとき

- マニュアル車：上り坂での前進時にシフトレバーの位置をRにしたとき、または下り坂での後退時にシフトレバーの位置をR以外にしたとき
- オートマチック車：アクセルペダルを踏んだとき
- マニュアル車：クラッチが繋がったとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- ブレーキペダルから足を離して約2秒経過したとき
- ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯が消えているとき
- エンジンスイッチをACCまたはOFFにしたとき

■ ヒルスタートアシストコントロールについて

- シフトレバーをRに入れて後退した後、前進する場合、わずかに衝撃を感じる場合があります。
- ヒルスタートアシストコントロールのブレーキ力が不十分なときは、再度ブレーキペダルを踏んでください。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏んでください。

■ システムの故障について

次の場合はシステムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- スリップ表示灯が点灯したとき
- ヒルスタートアシストコントロール作動表示灯が消灯してブザーが鳴ったとき

⚠ 警告

■ ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヒルスタートアシストコントロール作動中に、エンジンを停止しないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。TRC 機能の一部として、ブレーキ LSD 機能を有しています。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P.221

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

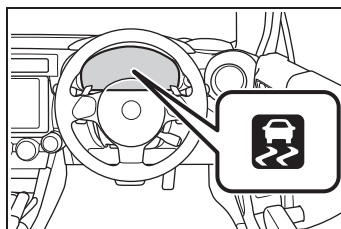
■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。



■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC（ブレーキ LSD 機能含む）・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

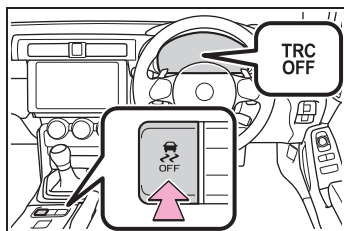
この場合でも、ブレーキ LSD 機能は作動します。

TRC を停止するには  スイッチを押します。

TRC OFF 表示灯が表示されます。

もう一度  スイッチを押すと、システ

△作動可能状態にもどります。



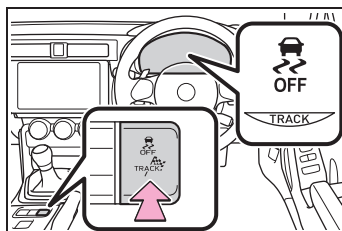
■TRACK モード

運転者が望むさまざまな運転を可能にするため 2 種類の制御モードを搭載し、TRACK スイッチによって制御モードを選択することができます。通常はノーマルモードで安心してスムーズに走ることができます。

スイッチを 1 秒以上長押しすると、TRACK モードに切りかわります。TRACK モードを選択すると、VSC や TRC などの制御特性を調整することで、よりスポーティーな走行が可能となります。

TRACK モードにすると、メーター表示が TRACK モード専用表示に切りかわり、TRACK 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

TRACK モード中に、 スイッチまたは TRACK スイッチを押すとノーマルモードに戻ります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に TRC を停止した状態または、TRACK モードに切りかえた状態で  スイッチを 3 秒以上長押しする

TRACK モードから TRC と VSC を停止させる場合、 スイッチを押すとメーター表示がノーマルモードに戻りますがそのまま  スイッチを押し続けてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

この場合でも、ブレーキ LSD 機能は作動します。(オートマチック車のみ)

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■VSC モードの切りかえ

 スイッチと TRACK スイッチの組み合わせによって、以下のようにモードが切りかわります。

走行状態	TRC	VSC	ブレーキ LSD 機能	表示灯
通常走行	ノーマルモード	ノーマルモード	ノーマルモード	—
悪路走行	OFF	ノーマルモード	ノーマルモード	TRC OFF

走行状態	TRC	VSC	ブレーキ LSD 機能	表示灯
スポーツ走行	TRACK モード	TRACK モード	TRACK モード	 OFF 
	OFF	OFF	TRACK モード ※1	TRC OFF
			OFF※2	 OFF

※1 オートマチック車

※2 マニュアル車

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSCの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPSモーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチをOFFにしたとき
- （TRCのみを作動停止にしている場合）

車速が50km/hをこえたとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。しばらくするとともにの状態にもどります。

■TRACKモードの自動解除

TRACKモードを選択して走行後エンジンスイッチをOFFにすると、自動でノーマルモードにもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)

⚠ 警告

■ABSの効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRCやVSCが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSCおよびブレーキLSD機能が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRCやVSCをOFFにするときは

TRCやVSCは駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はTRC・VSCを作動停止状態にしないでください。TRCやVSCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P.332)

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

**■ タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着し、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.263）

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後、約 100m 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤを修理・交換するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

トヨタ販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

⚠ 警告

- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤチェーンの装着（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの

周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

- 雪道を走行したり、吹雪の中で駐車したときは、足まわりに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。付着している雪や氷を取り除いてください。
 - 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。
 - ブレーキシステムに雪や氷が付着したまま凍結するとブレーキの効きが悪くなることがあります。
 - 走行前に付着している雪や氷を取り除いてください。
 - 走行を開始するとき、お車や道路の状況に十分注意してブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合には、回復するまで走行中にブレーキペダルを軽く踏み続けてください。
 - 繰り返しペダルを踏み続けてもブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキの異常が考えられますので、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ドアガラスが凍結した状態でドア開閉を行うと、安全装置が作動し、ドア連動ガラス開閉機能が正常に作動しなくなる場合があります。その場合は、氷を溶かした後に、以下の作業を行ってください。
- 1 すべてのドアが閉まっている状態でドアガラスを半分程度の位置まで下げる

- 2 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒間押し続ける
- 3 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ガラス位置の再設定が行われ、安全装置作動状態が解除されます。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R 上り坂では 1 速に入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
- オートマチック車: パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

オートエアコン 234

シートヒーター 238

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 240

5-3. 収納装備

収納装備一覧 242

トランク内装備 245

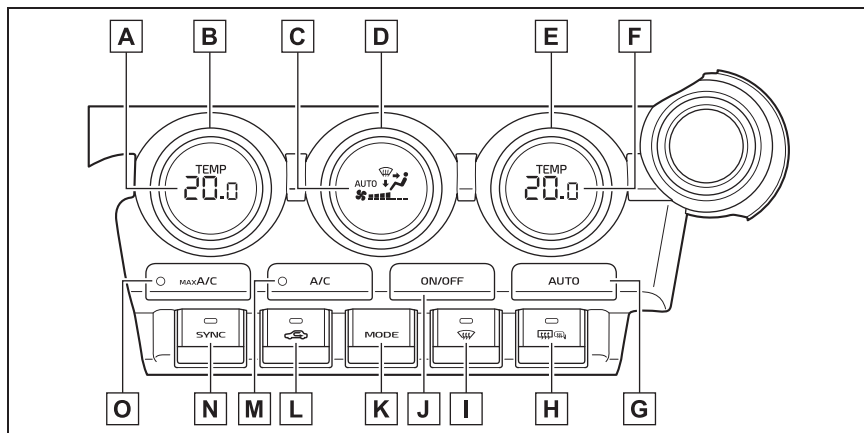
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 247

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席温度表示
- B** 助手席温度調節ダイヤル
- C** 風量 / 吹き出し口表示
- D** 風量調節ダイヤル
- E** 運転席温度調節ダイヤル
- F** 運転席温度表示
- G** AUTO スイッチ
- H** リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチ
- I** フロントデフロスタースイッチ
- J** ON/OFF スイッチ
- K** 吹き出し口切りかえスイッチ
- L** 内外気切りかえスイッチ
- M** A/C スイッチ
- N** SYNC スイッチ
- O** MAX A/C スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節

ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

A/C スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

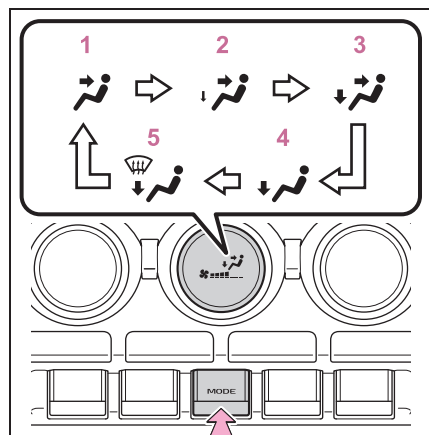
風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右へまわし、減らすときは左へまわす

ON/OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元（弱）に送風
- 3 上半身と足元に送風
- 4 足元に送風
- 5 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、内外気切りかえスイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

A/C スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ 急速冷房機能

MAX A/C スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。スイッチを ON にすると冷房 ON、設定温度 LO、風量 MAX、上半身に送風、内気循環に自動で切り替わります。

■ 停止機能

ON/OFF スイッチを押す

エアコン使用中、ON/OFF スイッチを押すとエアコンは止まり、設定温度などの表示灯が消灯します。

再度 ON / OFF スイッチを押して ON にすると、止まる前の作動状態で作動します。ただし、OFF にする前の状態が急速冷房機能作動中だった場合は、急速冷房機能を ON にする前の作動状態で作動します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動で外気導入に切り替わる場合があります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。



知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が動かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざま

な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→P.271

■ カスタマイズ機能で連続作動にしたとき

連続作動は 15 分間作動し、2 分間停止、再度 15 分間作動を繰り返します。ただし、2 分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。作動を停止するときはリヤウインドウデフォッガーを OFF にします。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.333)



警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

**注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、ON/OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

**知識****■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

運転席と助手席の設定温度を同じに設定する（左右連動モード）

SYNC スイッチを押す

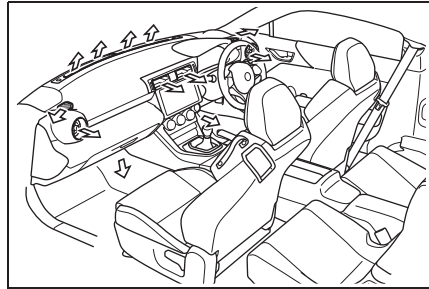
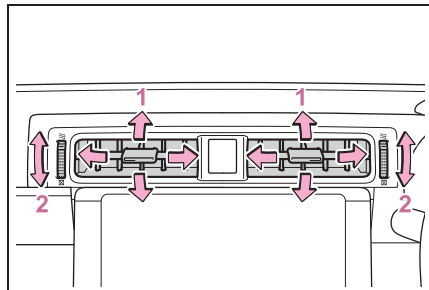
左右連動モードになり作動表示灯が点灯します。

助手席の設定温度が運転席側の設定温度に切り替わります。

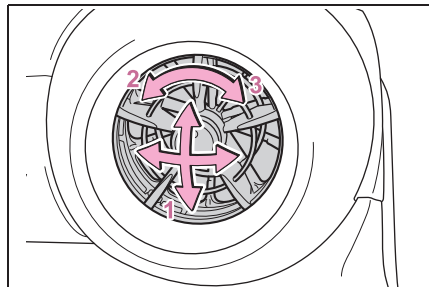
作動表示灯が点灯しているときに SYNC スイッチを押す、または助手席温度調節ダイヤルを操作すると左右連動モードが OFF になり、運転席と助手席の設定温度がそれぞれの設定温度に切り替わります。

吹き出し口の配置・操作**■ 吹き出し口の位置**

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

**■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉****▶ センター**

- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

▶ サイド

- 1 風向きを調整する

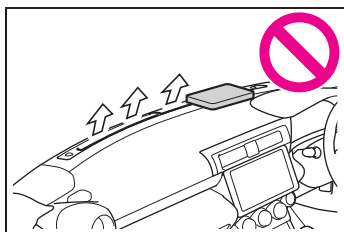
2 吹き出し口を開ける

3 吹き出し口を閉じる

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

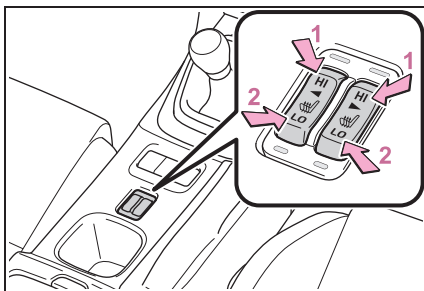
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

■ シートヒーター

スイッチを押してフロントシートを暖める

作動するとインジケータが点灯します



- 1 早く暖めたいときに使います。
暖まったら 2 の位置にします。
- 2 保温するときに使います。通常
はこの位置で使用してください。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 使用しないときは

スイッチを中立の位置にしてください。
インジケータが消灯します。

警告

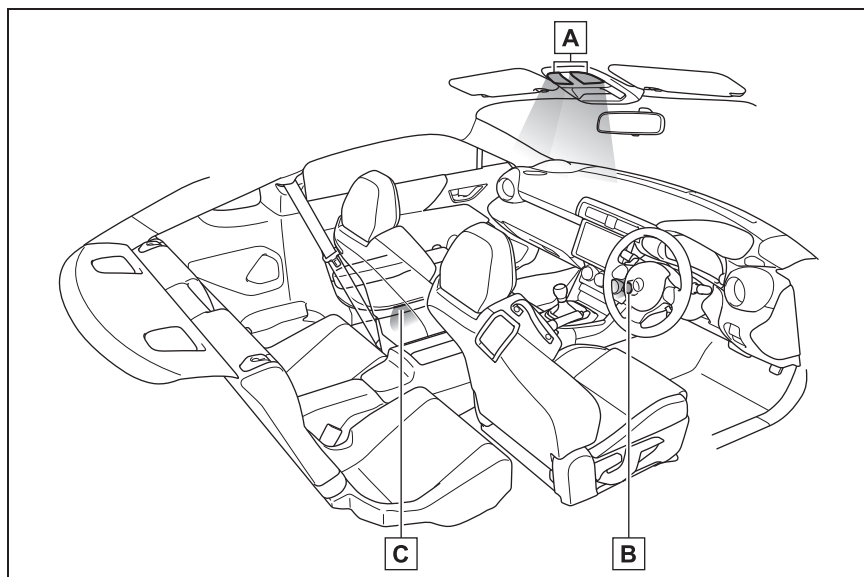
■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A インテリアランプ (→P.240)

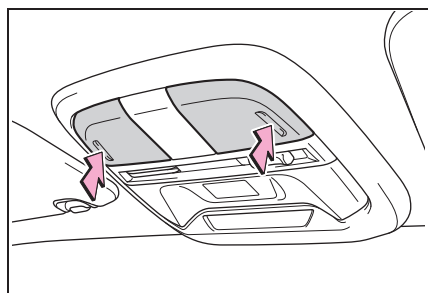
B エンジンスイッチ照明

C ドアカーテシランプ★

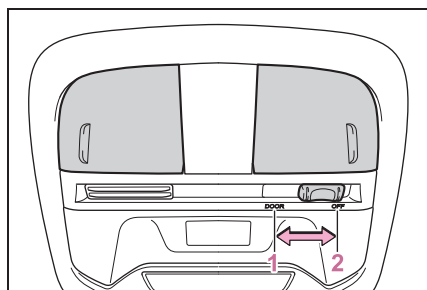
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



1 ドア連動 ON

2 ドア連動 OFF

 知識**■イルミネーテッドエントリーシステム**

ドア連動 ON のとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

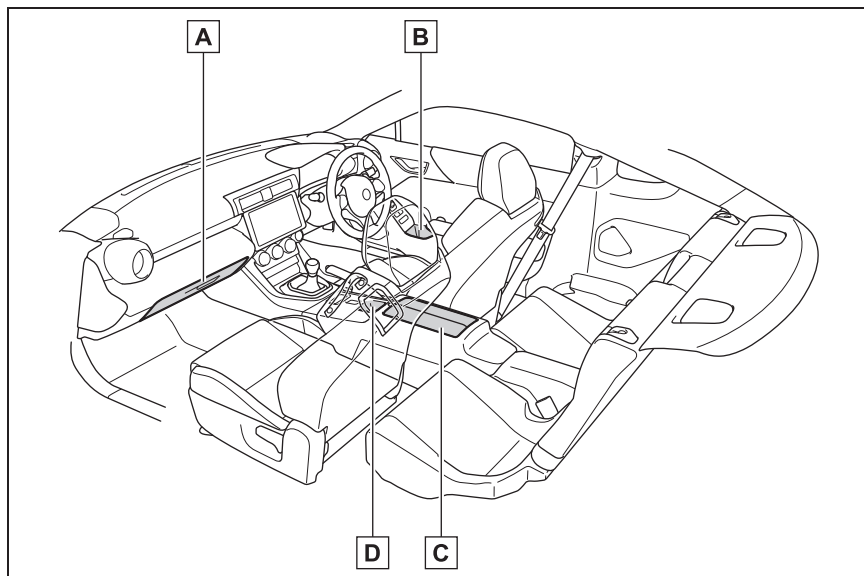
- ドア連動 ON・半ドア状態でエンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
- エンジンスイッチを OFF にしてから約 20 分経過すると、スイッチを操作しても室内灯は点灯しなくなります。点灯していた場合は、自動的に消灯します。エンジンスイッチを OFF にしてからドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると、操作をしてから約 20 分後に点灯しなくなります。ドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると復帰します。

 注意**■バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** グローブボックス (→P.242)
- B** ボトルホルダー (→P.243)
- C** コンソールボックス (→P.243)
- D** カップホルダー／小物入れ★ (→P.244)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

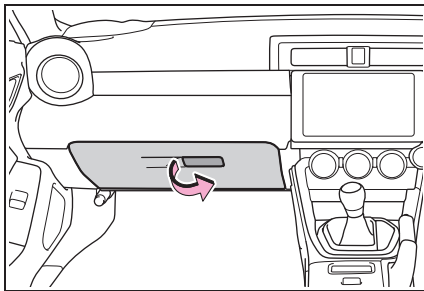
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

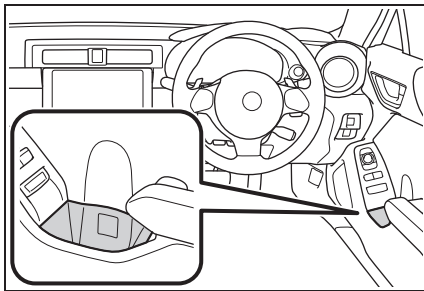
グローブボックス

レバーを引いて開ける

**警告****■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダー**知識****■ ボトルホルダーについて**

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

**警告****■ 収納してはいけないもの**

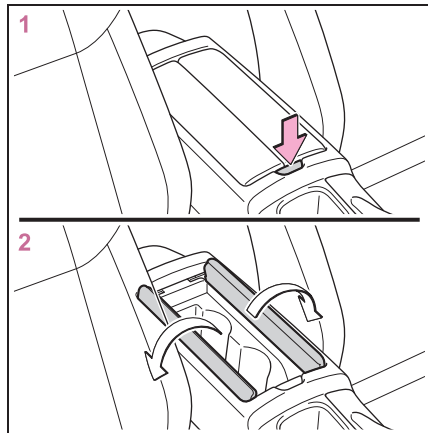
ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるけがをするおそれがあります。

**注意****■ 収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

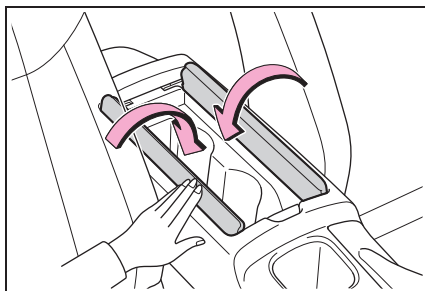
コンソールボックス**■ フタを開けるには**

ボタンを押す

**■ フタを閉めるには**

フタを中央へ押す

片側を操作すれば、反対側も連動して動きます。



⚠ 警告

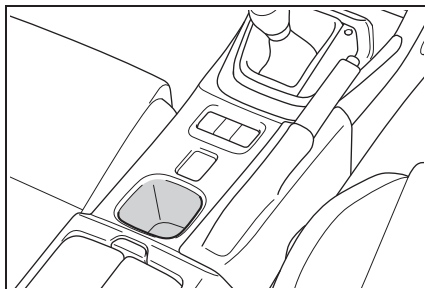
■ コンソールボックスを使わないときは

コンソールボックスを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

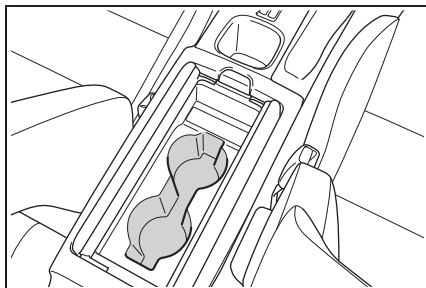
カップホルダー／小物入れ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ センターコンソール（オートマチック車）



▶ コンソールボックス



⚠ 警告

■ 走行中の警告

やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ものを置くときは、次の注意事項を守ってください。

急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

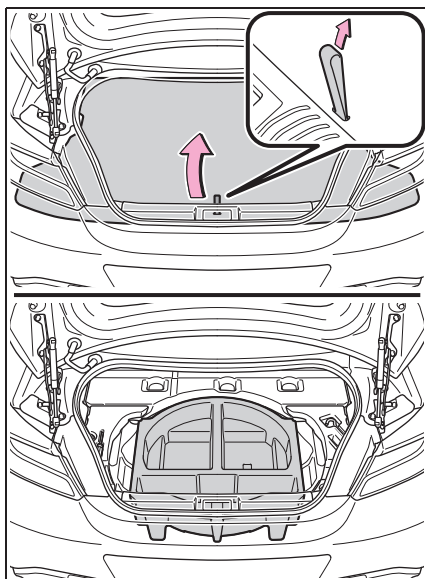
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- 端よりも高くものを積み重ねないでください。
- 端からはみ出してもものを置かないでください。

トランク内装備

ラゲージアンダートレイ★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ラゲージマットを持ち上げる

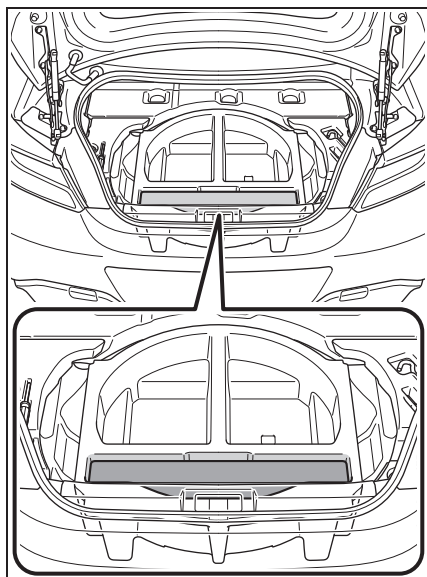


三角表示板収納スペース★

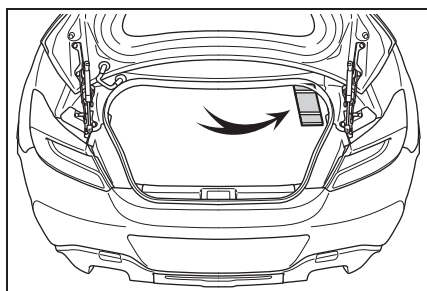
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

三角表示板※を収納することが
できます。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



※ 三角表示板は、トヨタ販売店で購入
することができます。

□ 知識

■ 収納について

三角表示板のケースの大きさや形状に
よっては、収納できない場合があります。

 警告**■ 三角表示板を収納するときは**

確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

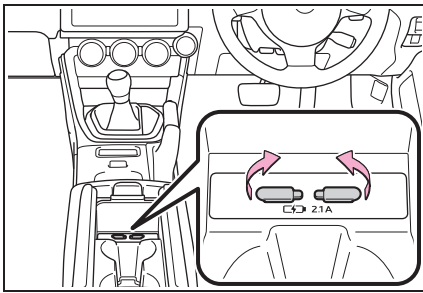
その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには
フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V / 2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の

温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

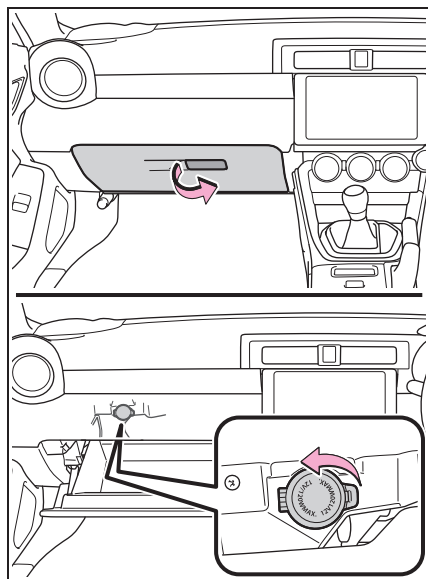
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）をこえないようにしてください。

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

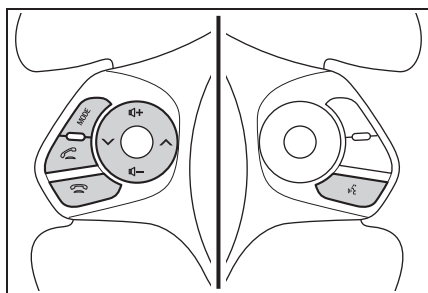
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

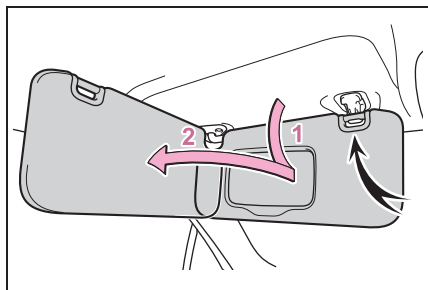


⚠ 警告

■ 運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

サンバイザーを使うには

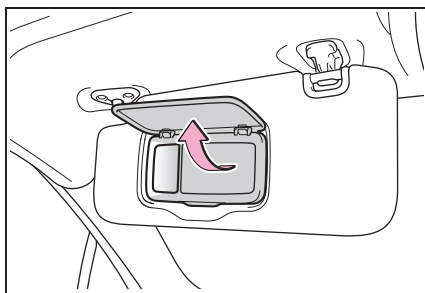


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーを開けて使用する

バニティランプ装着車：カバーを開けるとランプが点灯します。



⚠ 注意

■ 使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	252
内装の手入れ	255
ウルトラセード [®] の手入れ	257

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	259
ガレージジャッキ	261
ウォッシャー液の補充	262
タイヤについて	263
タイヤ空気圧について	270
エアコンフィルターの交換	271
電子キーの電池交換	272
ヒューズの点検・交換	275
電球（バルブ）の交換	276

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときは、研磨剤の入っていない中性のカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を

損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.80）

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。

- 水洗いで早めに汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。

- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。
- スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。
- マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・ コーティング剤やワックスは使用しない
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
 - ・ 乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
 - ・ 自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
 - ・ 高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ ブレーキキャリパーの塗装について (brembo 製ブレーキ装着車)

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■ 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管およびデュアルエキゾーストパイプについて

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

● BSD / RCTA ★

● RAB ★

● クリアランスソナー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ サイドシルプレート★の保護フィルムについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

保護フィルムは必ずはがしてください。状況によっては錆の原因になるおそれがあります。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■メーターバイザーの取り扱いについて

メーターバイザーの上に物を置かないでください。メーターバイザーの色が移るおそれがあります。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.26)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

注意

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

- エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。

これらの部品にシリコン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.136）

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ インストルメントパネルの手入れをするときは

インストルメントパネル表面に細かい砂粒などが入り込んで布で拭き取れないときは、鉄粉除去用粘土を水でぬらす使用してください。

ブラシやスポンジなどを使用して無理に拭き取ろうとすると、表面を傷付けたりスポンジの破片が残ってしまうおそれがあります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く

- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

 注意

- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ウルtrasエード®の手入れ★※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ウルtrasエード® は東レ株式会社の登録商標です。

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

日常のお手入れをするには

- 月 1 回程度の定期的なお手入れを行うことをおすすめします。
- 1 布などに 40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞りを拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度拭き取った布の汚れはすすいで十分に取り除いてからご使用ください。

- 2 乾いたらやわらかいブラシなどで毛並みを整える

 知識

■ 毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはやわらかいブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

 注意

ウルtrasエード® はスエード調製品のため強いブラッシングはしないでください。毛羽立ち、毛羽落ちの原因になります。

液体汚れについて

- 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、やわらかいブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

- 1 布などに 40℃ 程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽く拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。

- 2 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする
- 3 表面を完全に乾燥させる

注意

■ 液体汚れを吸い取るときは

ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

油性の汚れについて

用意するもの

- ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布

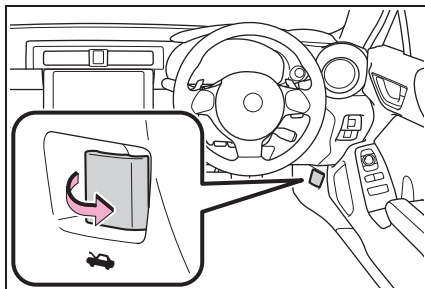
● 乾いた布

- 1 乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけ拭き取る
- 2 ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で浮いた汚れをたたきながら吸い取る
- 3 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする

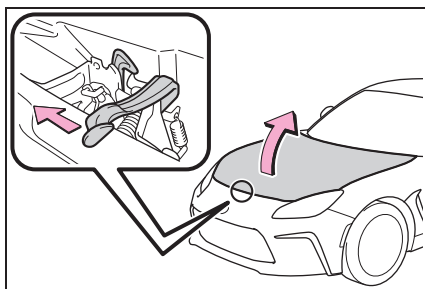
ボンネット

ボンネットを開けるには

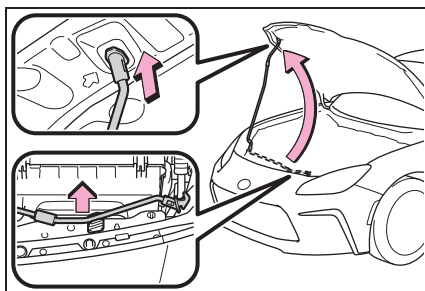
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に差し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

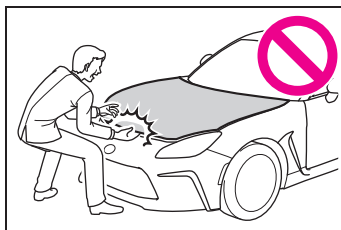
■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■ ボンネットを閉めるとき



- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 警告

- ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボデーに近くなったら（約 30 cm）手を離します。確実にロックされていることを確認してください。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを開けるときには

- ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。
- 風の強いときには十分注意して開けてください。ボンネットが閉まることがあります。
- ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

ガレージジャッキ

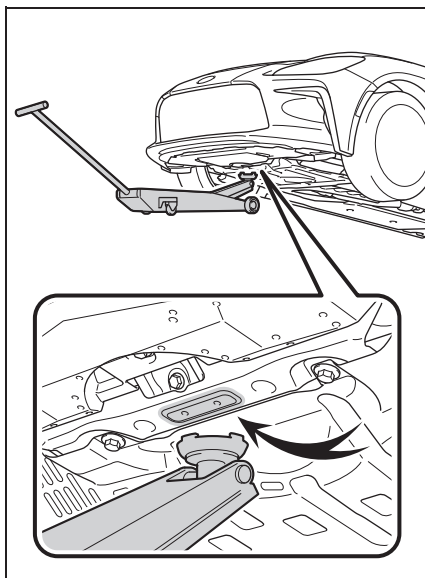
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

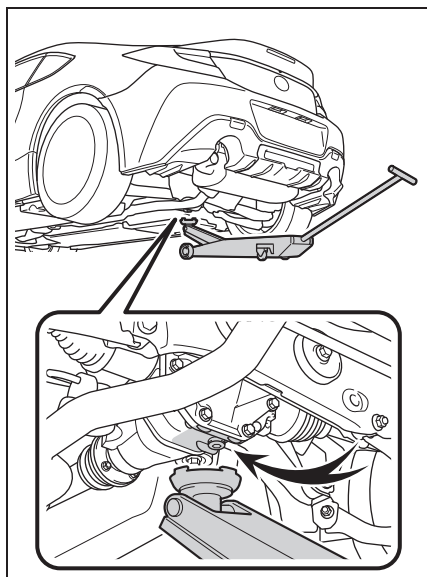
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



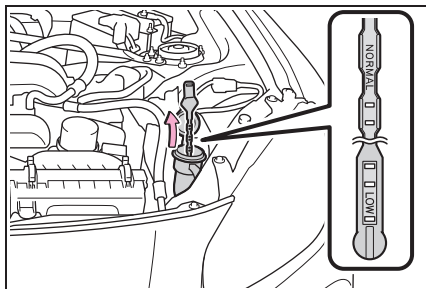
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充をするには

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

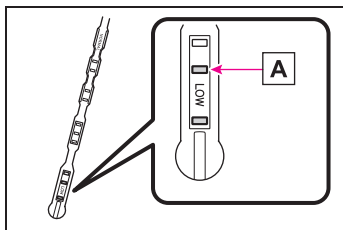


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



A 現在の液量

警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 標準タイヤ

前輪：240kPa (2.4kgf/cm²) ※

後輪：240kPa (2.4kgf/cm²) ※

▶ 応急用タイヤ★

420 kPa (4.2 kgf/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて（17 インチ／18 インチ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検（17 インチ／18 インチ装着車）

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1 ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の
損傷や不安定な操縦特性により、重大
な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に
つながるおそれがあります。

- 4 輪とも必ず、指定サイズ・同一サ
イズ・同一メーカー・同一銘柄およ
び同トレッドパターン（溝模様）
のタイヤを装着する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤや
ホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ以外を使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイ
ヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使
用しない
以前どのように使用されていたか不
明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着し
ていると、走行時にハンドルをとられ
たり、異常な振動を感じるがありま
す。また、次のような事態になり、思
わぬ事故につながるおそれがあり危
険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与
える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安
定性・制動距離など）が発揮されな
い

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にし
て取り付けてください。（→P.313）
テーパー部を外側にして取り付け
ると、ホイールが破損しはずれてしま
い、重大な傷害におよぶか、最悪の
場合死亡につながるおそれがありま
す。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらな
いください。
ナットを締めるときに必要な以上に
締め付けられ、ボルトが破損したり、
ディスクホイールが損傷するおそれ
があります。
またナットがゆるみホイールが落下
して、重大な事故につながるおそれ
があります。
オイルやグリースがねじ部について
いる場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止（ア ルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用
しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思
わぬ事故につながるおそれがあり危
険です。

注意

■低扁平タイヤについて（17 インチ/ 18 インチ装着車）

低扁平タイヤのホイールは、路面から
衝撃を受けたとき、ホイールに通常よ
り大きなダメージを与えることがあ
ります。そのため次のことに注意して
ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷する
ことがあります。

⚠ 注意

- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起ったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

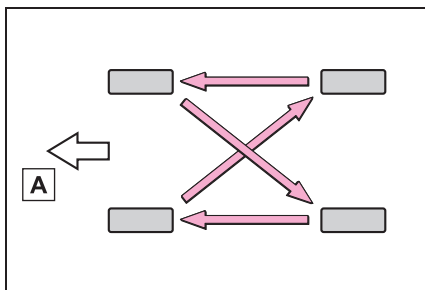
■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

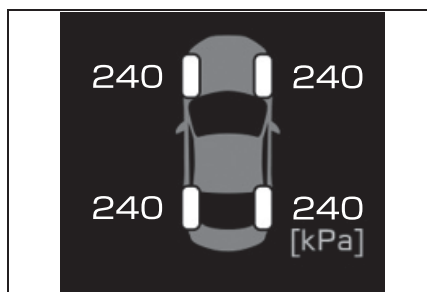


A 前側

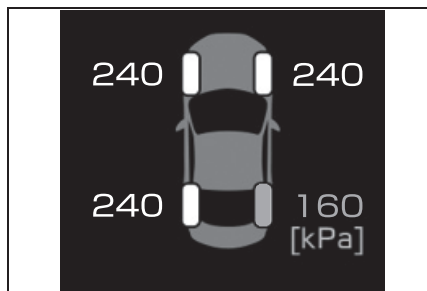
タイヤ空気圧警報システム（タイヤ空気圧警報システム装着車）

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.297）



📖 知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してく

ださい。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

● エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約3分かかります。

● タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

● 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できません。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。

バルブ／送信機の ID コードは、トヨタ販売店で登録してください。

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コード

が登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着や空気漏れする恐れがあります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク補修液を使用したとき（タイヤパンク応急修理キット装着車）

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには（タイヤ空気圧警報システム装着車）

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
 - 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
 - ID コードの登録を実施したとき
- システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

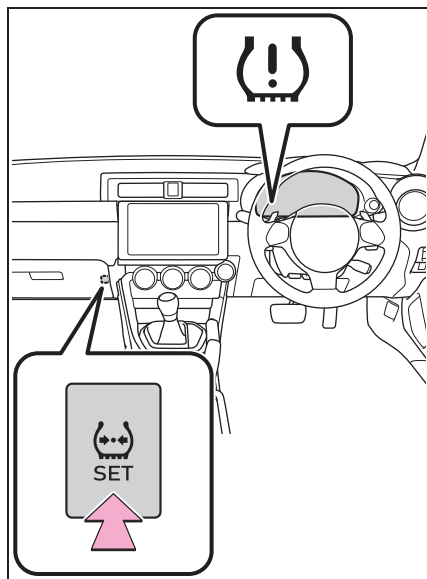
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンを始動する

- 4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッ

セージが表示され、初期化を開始します。



5 エンジンスイッチを ON にしたまま数分※待ち、その後エンジンスイッチを OFF にする

※設定が完了するには2～3分かかります。



■初期化するとき

- 通常は約30分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に左右折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や

走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・約40km/h以上で走行していない
 - ・未舗装の場所を走行した

1時間以上走行しても初期化できない場合は、エンジンをかけたまま安全な場所に約20分間停車したあと、再度走行し直してください。

- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告**■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき**

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには（タイヤ空気圧警報システム装着車）

バルブ / 送信機の ID コードは、トヨタ販売店で登録してください。



知識

■ ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。

ID コードの切りかえについては、トヨタ販売店にご相談ください。

ID コードを切りかえるには（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを始動する
- 2 リセットスイッチを 3 秒以内に 3 回押す
- 3 タイヤ空気圧警告灯が 3 秒点灯し、その後 3 回点滅する
- 4 タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅し、その後点灯する

- 5 ID コードの切りかえが完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯する

タイヤ空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示されていることを確認してください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→P.332)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

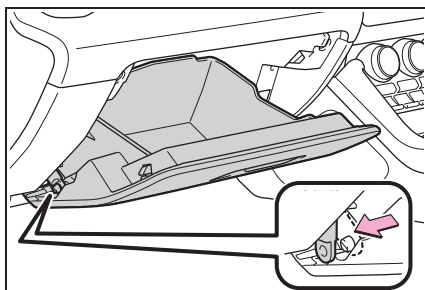
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

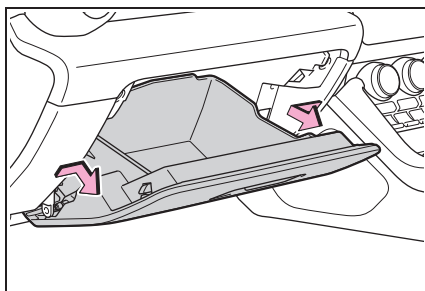
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーasteのピンをはずす



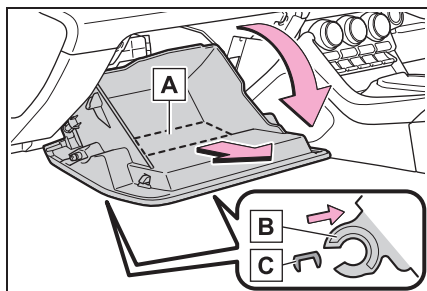
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、手前へ引いて上部のツメをはずす



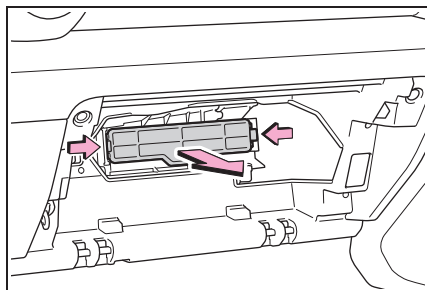
- 4 **A**面が水平になるまでグローブボックスをゆっくり開き、手前に引いて取りはずす（そのまま軽く引くとはずれます）

グローブボックスを無理に取りはずそうとすると、ヒンジ**B**や回転軸**C**が変形

し、グローブボックスが正しく閉まらなくなったり、建て付けが悪くなったりするおそれがあります。

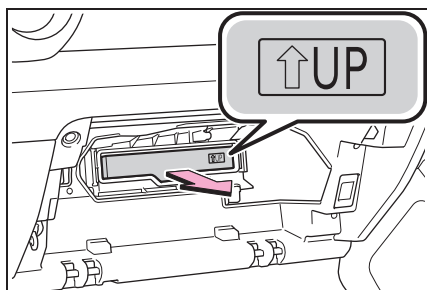


- 5 フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルターカバーからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

□ 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは 12,000km または 12ヶ月毎に交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ グローブボックスを取りはずすときは

グローブボックスを無理に取りはずそうとすると、回転軸やヒンジが変形し、グローブボックスが正しく閉まらなかったり、建て付けが悪くなったりするおそれがあります。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

□ 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

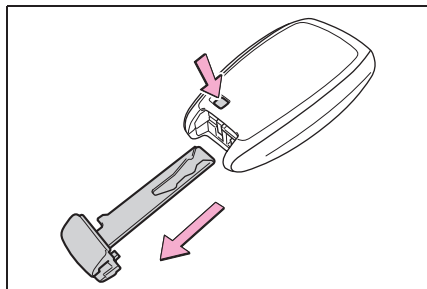
□ 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

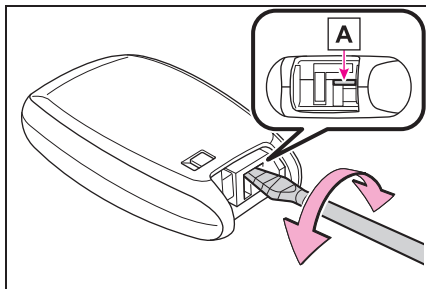
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



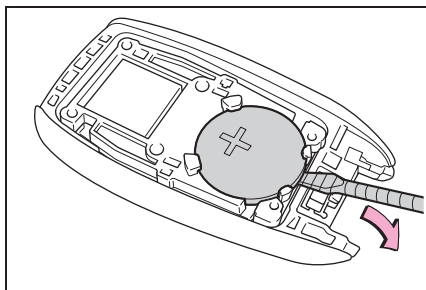
- 2 溝部 **A** にマイナスドライバーの先端を差し込んでカバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

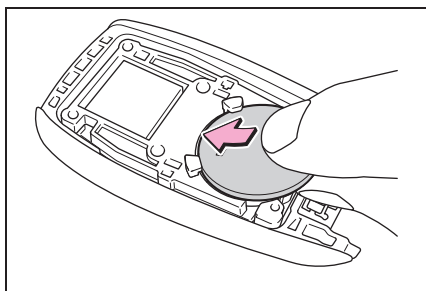


- 3 消耗した電池を取り出す

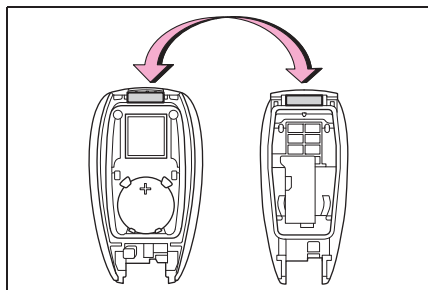
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 4 新しい電池の+極を上にして図のように挿入し、確実に取り付ける



- 5 凹凸を合わせてカバーを確実に取り付ける



知識

■ 電池交換後

電池交換後は、電池交換した電子キーを携帯し、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを ON にしたあと、OFF にします。

- 電池交換をしても「キーの電池を交換して下さい」の表示が消えないときは、他の電子キーの電池が消耗している可能性があります。他の電子キーの電池を交換し、同じ手順で操作してください。
- 電子キーは 2 つ以上携帯して操作しないでください。

⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

 警告

- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
 - カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- **電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意

■ **電池を交換するときは**

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ **交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

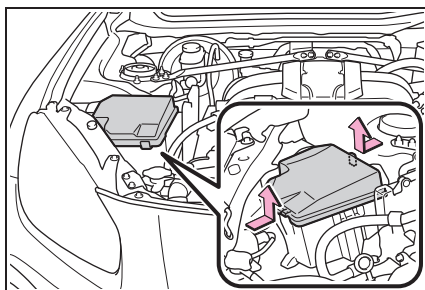
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

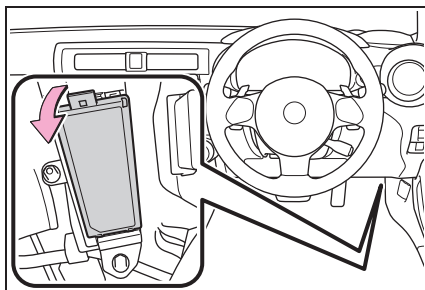
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



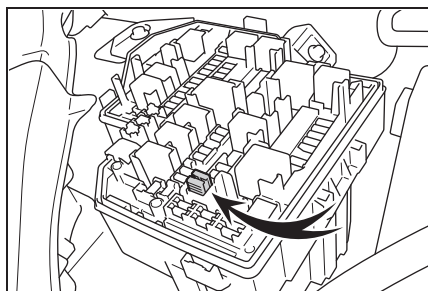
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす

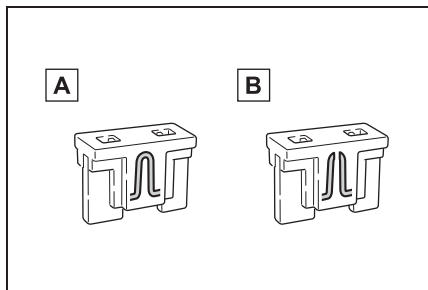


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れ

るように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

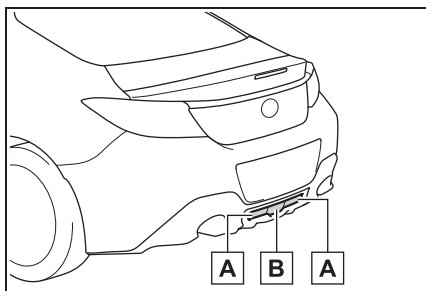
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.332）

バルブ位置



A 後退灯

B リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯／デイトタイムランニングランプ★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯

- サイド方向指示灯／非常点滅灯
 - リヤ方向指示灯／非常点滅灯
 - 制動灯
 - 尾灯／制動灯
 - 番号灯
 - ハイマウントストップランプ
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプ・車幅灯・デイトタイムランニングランプ★・フロント方向指示灯／非常点滅灯・サイド方向指示灯／非常点滅灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・制動灯・ハイマウントストップランプ・尾灯／制動灯・番号灯は数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。

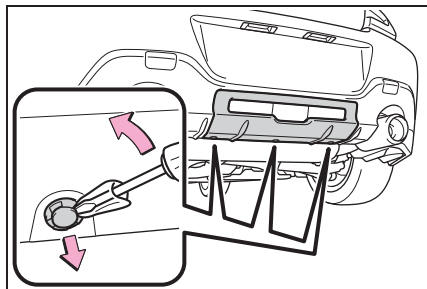
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

電球交換のしかた

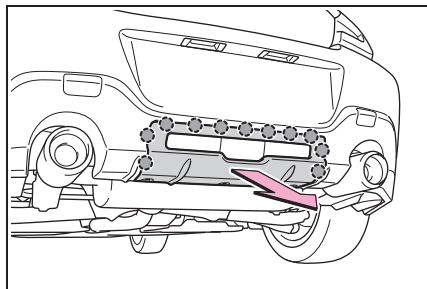
■ 後退灯

1 クリップを3ヶ所取りはずす

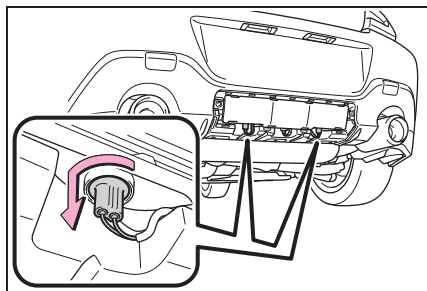
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



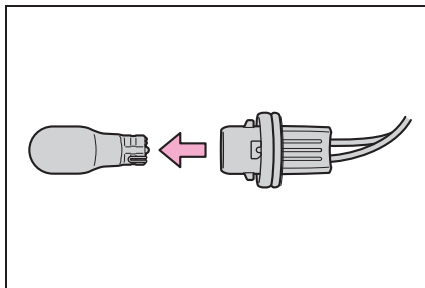
2 カバーのツメを外してから、カバー本体を取りはずす



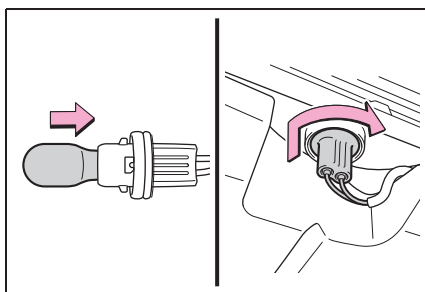
3 ソケットを左にまわして取りはずす



4 電球を取りはずす

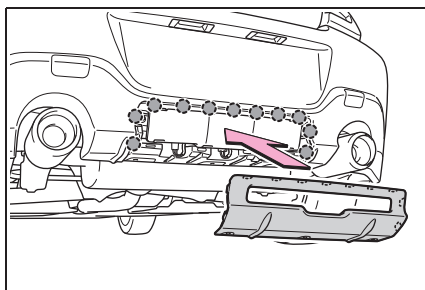


5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

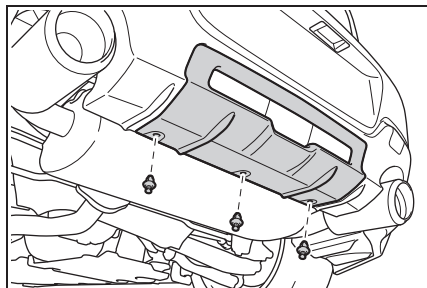


6 カバーを取り付ける

カバー本体側と車両側のツメの位置を合わせ、カバーを車両前方へ押し付けてください。



7 クリップを 3ヶ所取り付け

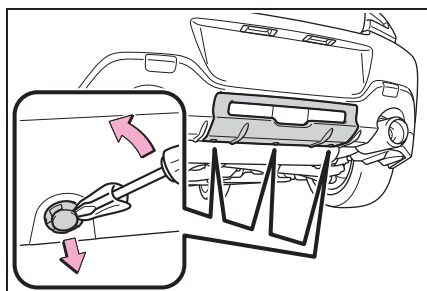


■ リヤフォグランプ★

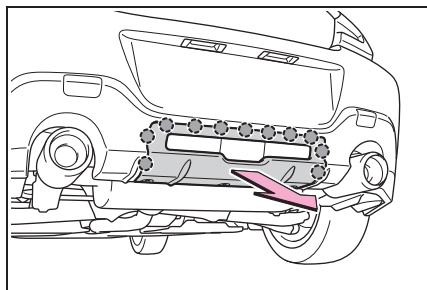
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 クリップを 3ヶ所取りはずす

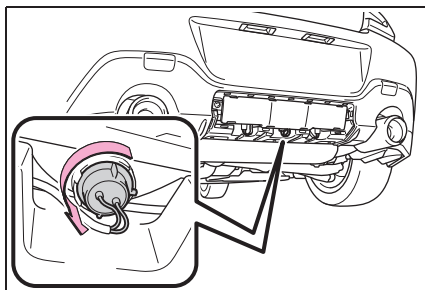
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



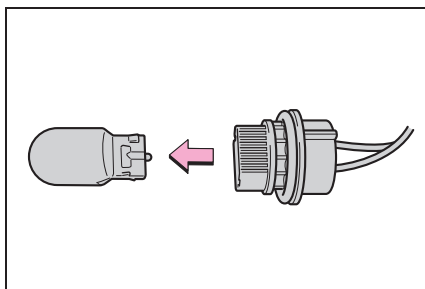
2 カバーのツメを外してから、カバー本体を取りはずす



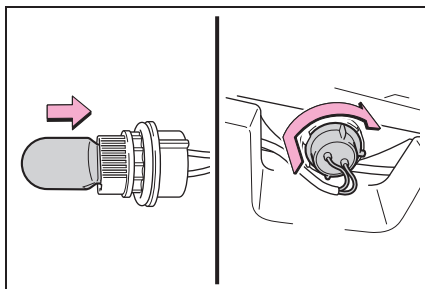
3 ソケットを左にまわして取りはずす



4 電球を取りはずす



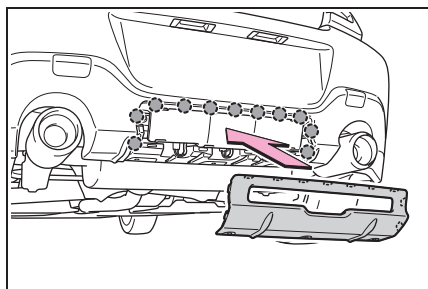
5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける



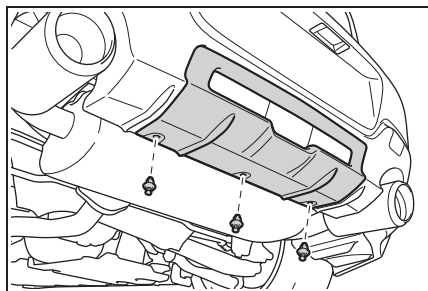
6 カバーを取り付ける

カバー本体側と車両側のツメの位置を合わせ、カバーを車両前方へ押して取り付

けてください。



7 クリップを3ヶ所取り付け



⚠ 警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

 警告

- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

■**後退灯・リヤフォグランプ★を交換するとき**

エンジンを停止して、十分に排気管および周辺部品が冷めてからにしてください。近くに排気管があるため、やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	282
非常点滅灯（ハザードランプ）	283
発炎筒.....	283
車両を緊急停止するには.....	284
水没・冠水したときは.....	285
車中泊が必要なときは.....	286

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	287
フューエルポンプシャットオフシス テム.....	292
警告灯がついたときは.....	293
警告メッセージが表示されたときは	299
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）.....	300
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	309
エンジンがかからないときは..	316
キーをなくしたときは.....	317
給油扉が開かないときは.....	318
電子キーが正常に働かないときは	318
バッテリーがあがったときは..	320
オーバーヒートしたときは.....	323
スタックしたときは.....	325

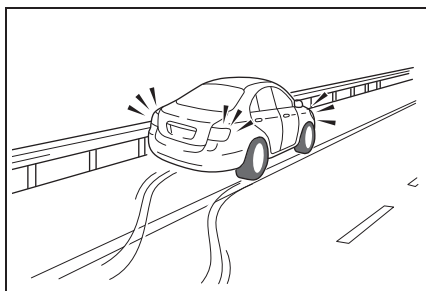
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

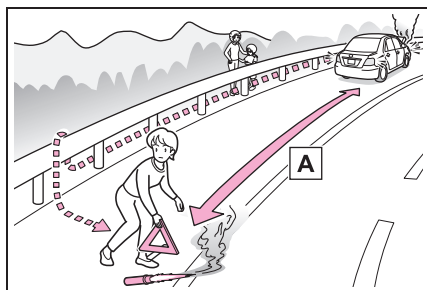
- 非常点滅灯（→P.283）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.283）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

い。

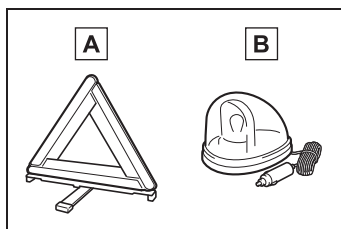


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

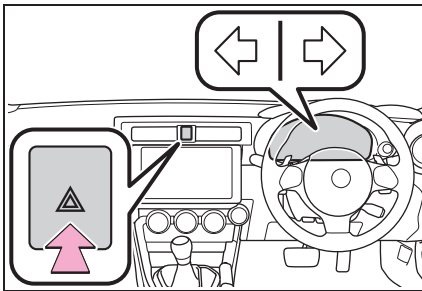
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



 知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

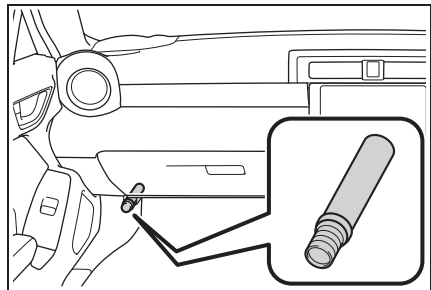
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

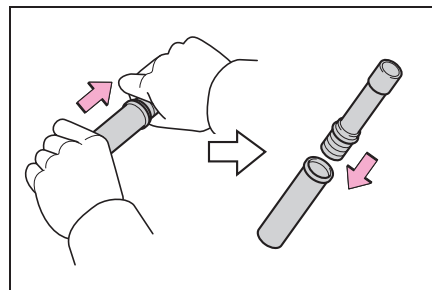
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

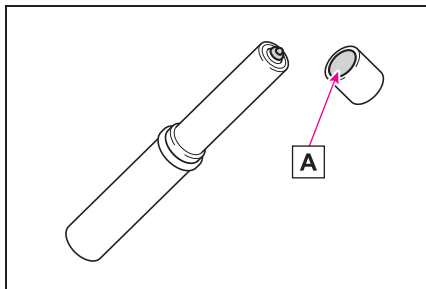


3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

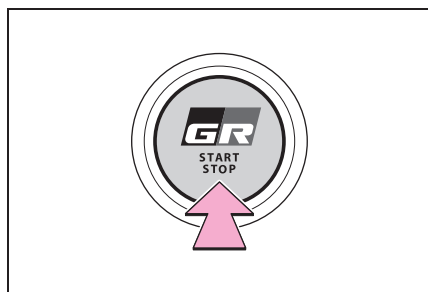
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができません。

 知識**■ 水位がフロアを超えると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、再始動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動けなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

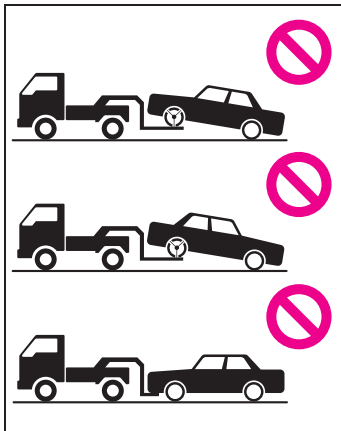
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両運搬車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

■ けん引のあとは

けん引フックは必ず取り外してください。
そのままにしておくと、衝撃を受けたときSRSエアバッグとフューエルポンプシャットオフシステムが正常に作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 30km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない

⚠ 注意

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

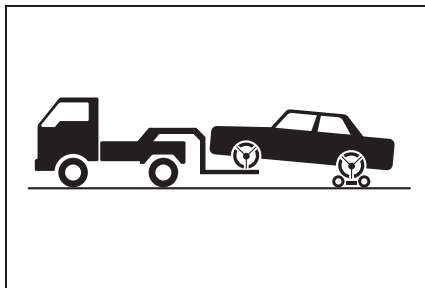
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

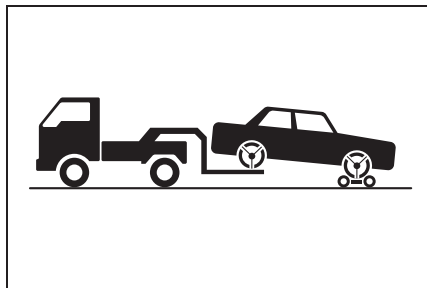
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

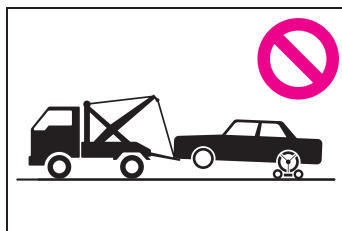


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

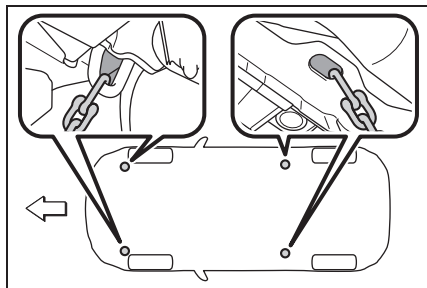
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



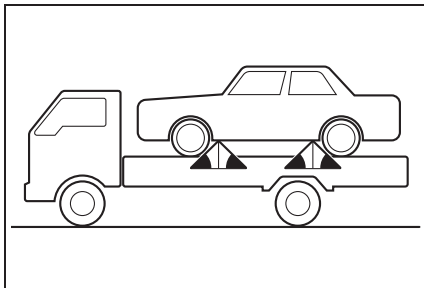
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角

度が45° になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

📖 知識

車両運搬車に車両を載せたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。照射方向が気になる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

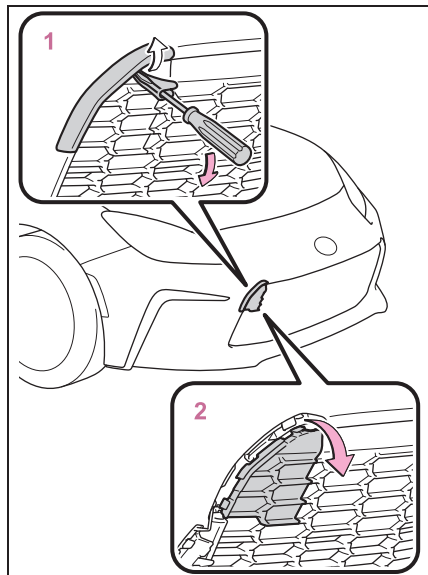
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す
(→P.302, 310)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

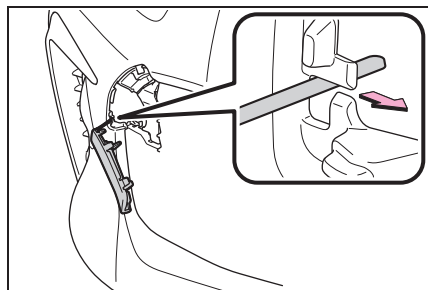
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

ださい。



3 上側のカバーをバンパーから取りはずす

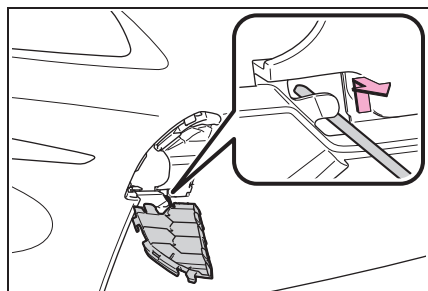
カバーを取りはずすときは、車両中央へ引っ張るようにして取りはずしてください。



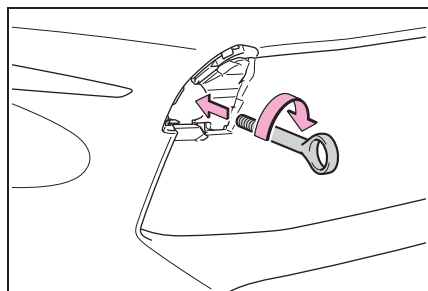
4 下側のカバーをバンパーから取りはずす

カバーを取りはずすときは、カバーを上へスライドさせて車両前方へ引っ張るよ

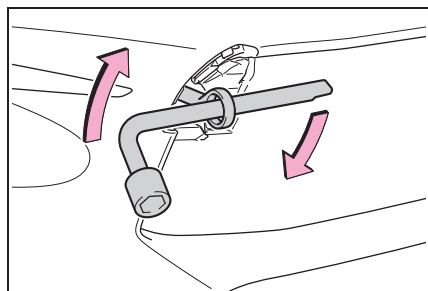
うにして取りはずしてください。



- 5** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 6** ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

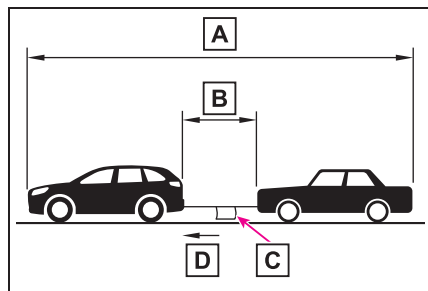


- 7** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 8** ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- A** 25m 以内
B 5m 以内
C 白い布
D けん引方向

- 9** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

- 10** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

オートマチック車：シフトレバーがシフトできないときは：→P.114

⚠ 注意

■ カバーを取りはずすときは

カバーを取りはずす際に無理な力を加えないでください。変形したり破損したりするおそれがあります。

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

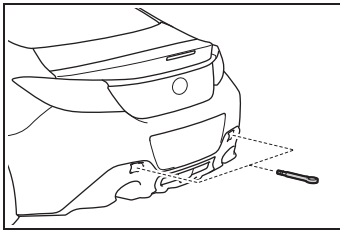
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。
(→P.302, 310)

■リヤ側けん引フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■他車をけん引するときは

BSD / RCTA 装着車は、BSD / RCTA を OFF にしてください。

けん引車によりレーダー波が妨げられ、システムが正常に機能しません。

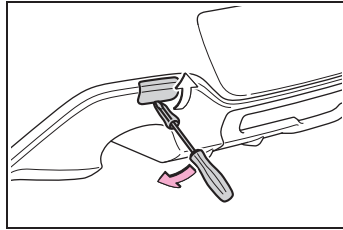
■リヤ側けん引フックを取り付けるには

リヤ側けん引フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

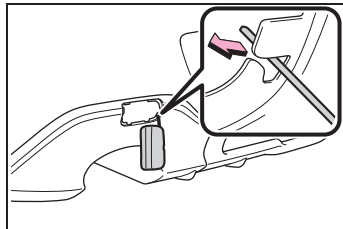
- 1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.302, 310)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

ださい。



- 3 カバーをバンパーから取りはずす



- 4 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 5 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

フューエルポンプシャット オフシステム

エンジンが止まってしまったときや、事故などにより衝撃を受けたとき、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 駐車ブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ負圧系警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	ブレーキ負圧系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.323）に従ってください。

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ 油圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●オートマチックトランスミッション電子制御システム★の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	SRS エアバッグシステム（シートベルトプリテンショナー含む）のいずれかに異常 → P.34

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 燃料残量警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7L 以下になった → 燃料を補給する

■ オートマチックトランスミッション油温警告灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	トランスミッションフルードの温度異常 → トランスミッションフルードを冷却するために、安全な場所に停車し、シフトレバーをPに入れてエンジンをかけたままにする。 しばらくして消灯すれば走行できます。 消灯しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 半ドア警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない → 全ドアおよびトランクを閉めてください。

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯※¹（警告ブザー※²）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※¹助手席シートベルト警告灯はオーバーヘッドコンソールに表示されます。

※²運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯※¹（警告ブザー※²）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※¹オーバーヘッドコンソールに表示されます。

※²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ BSD / RCTA 警告灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	BSD / RCTA の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ SRH 警告灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	SRH の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RAB・クリアランスソナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	RAB/ クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ スリップ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	点灯した場合： ●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 状況によっては異常がなくても点灯する場合がありますが、しばらくして消灯すれば異常ではありません。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 点滅した場合： → TRC・VSC およびブレーキ LSD 機能が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ LED ヘッドランプ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	LED ヘッドランプの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ オートヘッドランプレベラー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	自動光軸調整システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マスターウォーニング（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P.299

■ EyeSight 警告表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	EyeSight の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧警告灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク → 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 → トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、セン

サーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（タイヤ空気圧警報システム装着車）

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ 応急用タイヤ★に交換した場合（タイヤ空気圧警報システム装着車）

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況（タイヤ空気圧警報システム装着車）

P.266

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

● タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合は応急用タイヤ★に交換するか、タイヤパンク応急修理キット★で応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤを修理してください。

⚠ 警告

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- **タイヤの破裂、突然の空気もれが発生したときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

- **タイヤ空気圧警報システムについての注意（タイヤ空気圧警報システム装着車）**

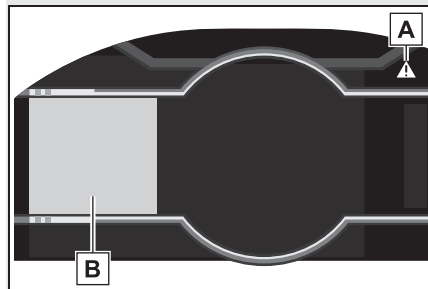
- 純正ホイール以外を使用した場合、パルプ／送信機から発信する電波の飛び方が変わり、システムが正常に作動しないことがあります。

- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（P.267）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

□ 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディ

オの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■販売店への連絡または点検をうながす
メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤ パンク応急修理キット装着 車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.301）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

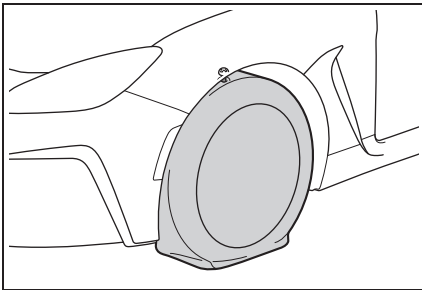
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは R（マニュアル車）にする

- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき



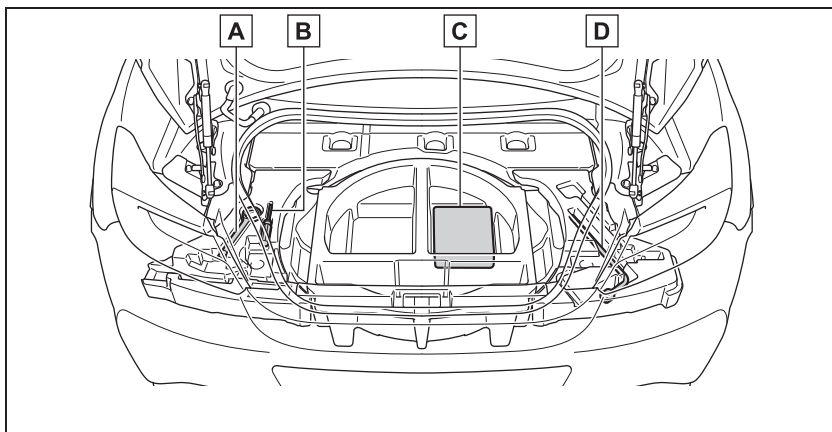
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

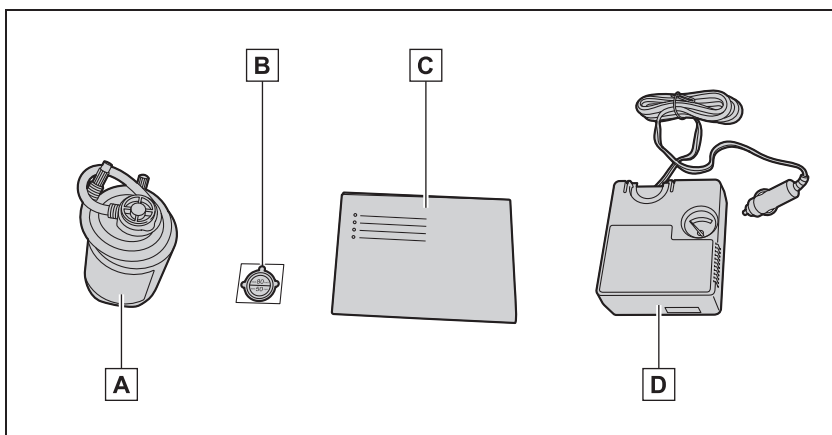
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



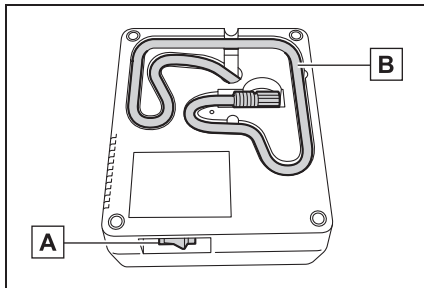
- A** けん引フック
- B** ドライバ
- C** タイヤパンク応急修理キット
- D** ホイールナットレンチ

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



- A** ボトル
- B** 速度制限ラベル
- C** クイックリファレンスガイド
- D** コンプレッサー

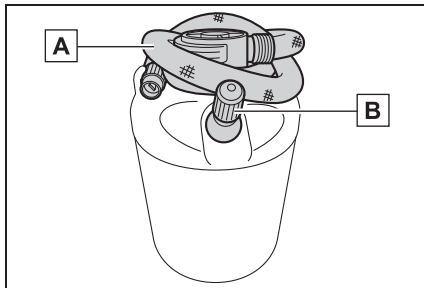
▶ コンプレッサー



A 電源スイッチ

B ホース

▶ ボトル



A ホース

B バルブ



知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- 極低温下（-30℃～-20℃）では修理剤の粘度が高くなり、タイヤに流れ込むまでの時間が極端に長くなります。極低温時は、修理剤ボトルを室内で温めてから使用してください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

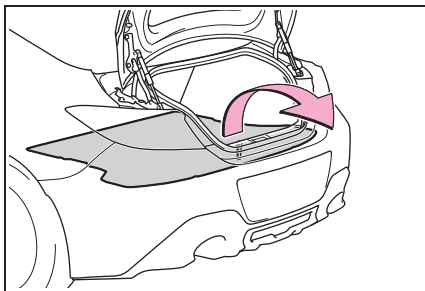
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 天然ゴムにアレルギーのある方がパンク補修液に触れると、アレルギー症状が出る場合があります。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

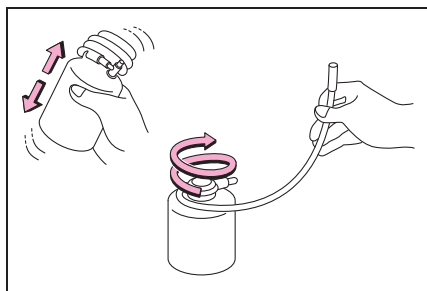
- 1 ラゲージマットを持ち上げる
(ラゲージマット装着車)



- 2 応急修理キットを取り出す
(→P.302)

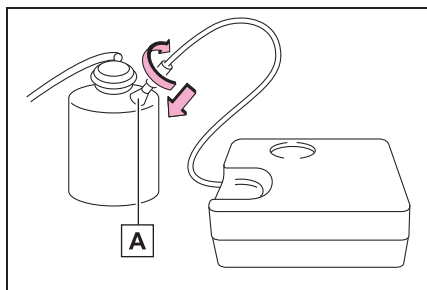
応急修理するときは

- 1 ボトルを数回上下に振り、ホースを取り出す



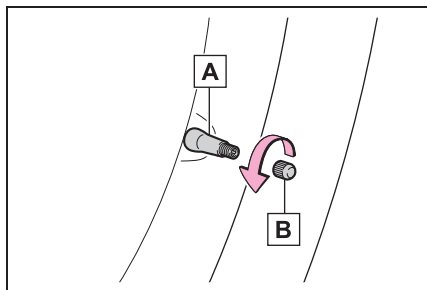
- 2 コンプレッサーのホースをボトルのバルブに接続する

締め付けが不十分な場合、パンク補修液が漏れる可能性があります。



- A** バルブ

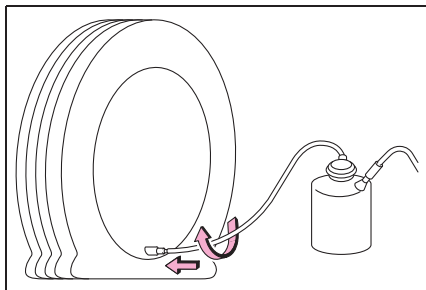
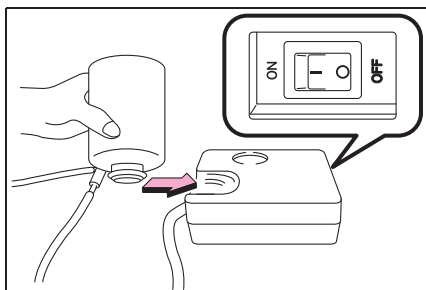
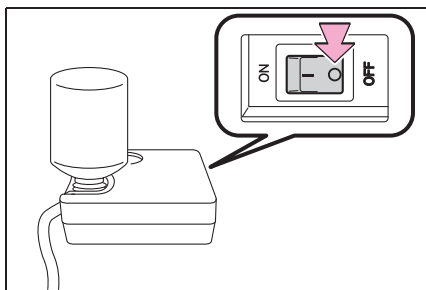
- 3 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



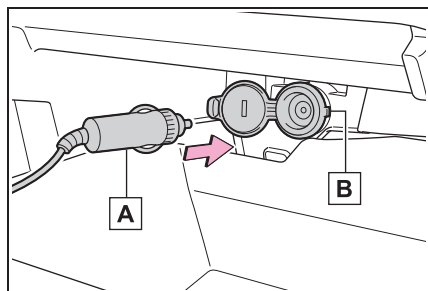
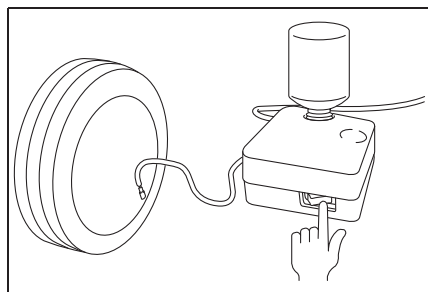
- A** バルブ

B バルブキャップ**4** ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

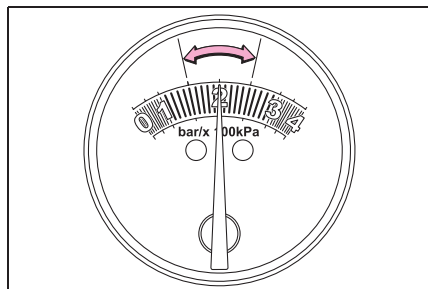
締め付けが不十分な場合、パンク補修液が漏れる可能性があります。

**5** ボトルをコンプレッサーに接続する**6** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する**7** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む

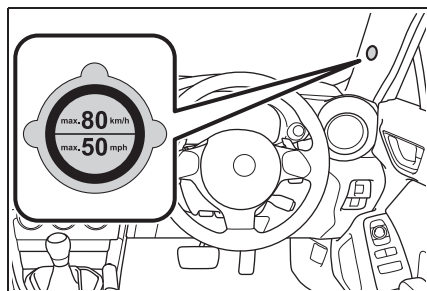
エンジンスイッチは ACC であること

**A** 電源プラグ**B** アクセサリーソケット**8** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液を充填する**9** 空気圧が緑のゾーンになるまで空気を充填する

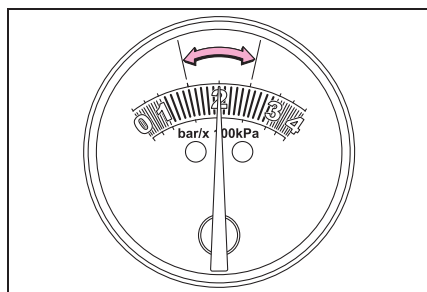
一時的に空気圧計が 300kPa (3.0kgf/cm²) 以上に上昇しますが、徐々に減少します。



- 10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

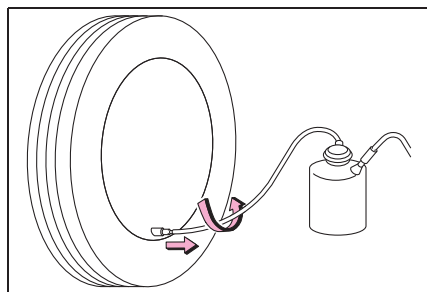


- 11** 空気圧が緑のゾーンになったらコンプレッサーのスイッチをOFFにする



- 12** アクセサリーソケットから電源プラグを取り外し、タイヤのバルブからホースを取りはずす

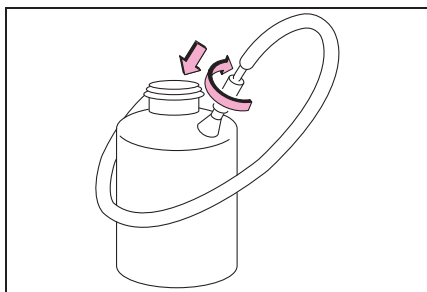
ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。



- 13** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

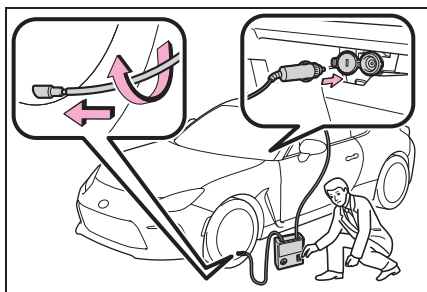
- 14** ホースをボトルに巻き付けながらバルブに接続します。

パンク補修液が車や衣服などを汚す可能性があります。



- 15** いったんトランクに収納する
タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに 10 分間または 5km 安全に走行する

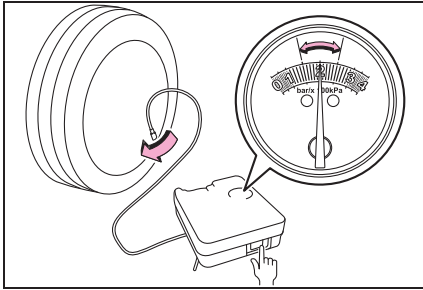
- 16** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する



- 17** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

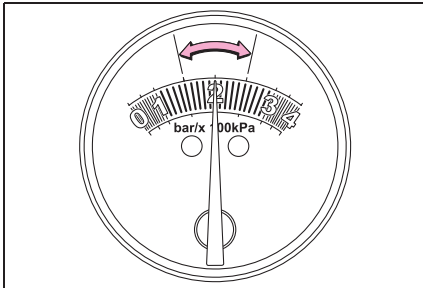
タイヤの指定空気圧は、運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。

(→P.263)



18 空気圧が黄色のゾーンのときは、タイヤの指定空気圧まで空気を入れる

空気圧が赤色のゾーンのときは、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



19 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約200km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイ

ヤのバルブを新品に交換してください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

⚠ 警告

- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかる、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットはトランク内に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

 注意

■ 応急修理キットを使用したとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ / 送信機を交換してください。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.263 を参照してください）

 警告

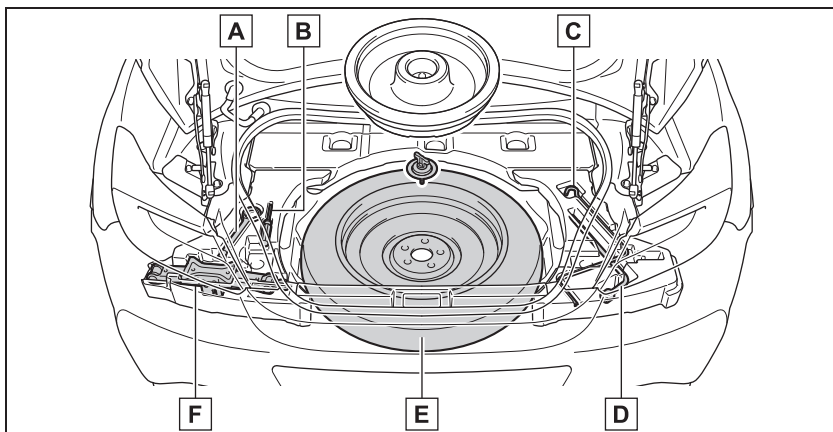
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは R（マニュアル車）にする
- エンジン进行停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



- A** けん引フック
- B** ドライバー
- C** ジャッキハンドル
- D** ホイールナットレンチ
- E** 応急用タイヤ
- F** ジャッキ

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

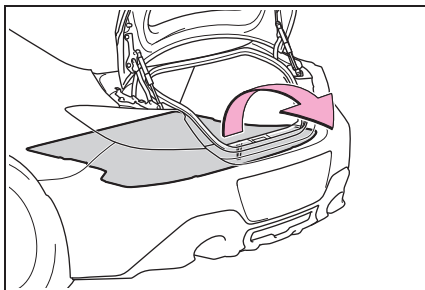
次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける

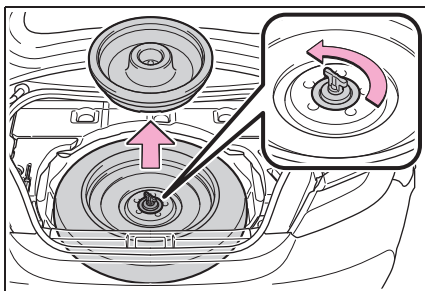
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

応急用タイヤの取り出し方

- 1 ラゲージマットを持ち上げる
(ラゲージマット装着車)



- 2 カバーと留め具を取りはずす



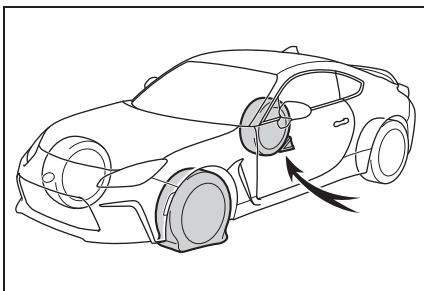
警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

- 1 輪止め※をする



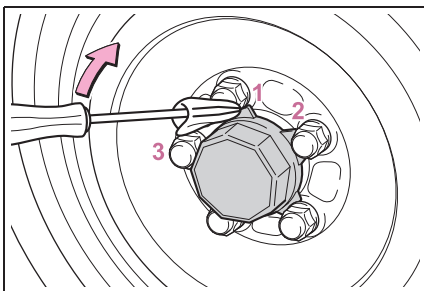
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

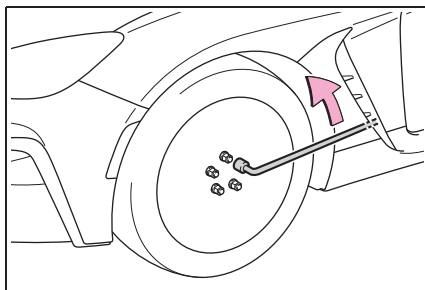
- 2 センターキャップをはずす (スチールホイール装着車)

マイナスドライバーを使用して、図の番号順でセンターキャップのツメを外してください。

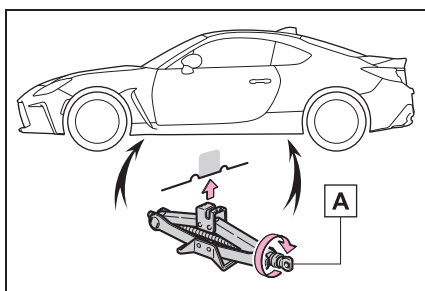
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



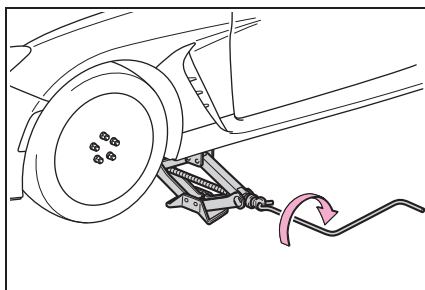
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキの[A]部を手でまわす



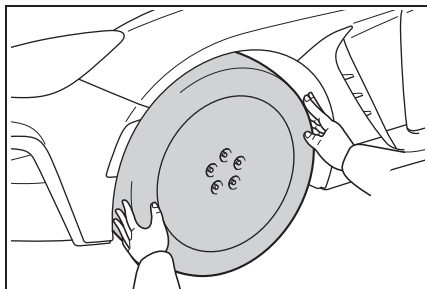
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にして

します。



警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：120N・m
(1224kgf・cm)
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

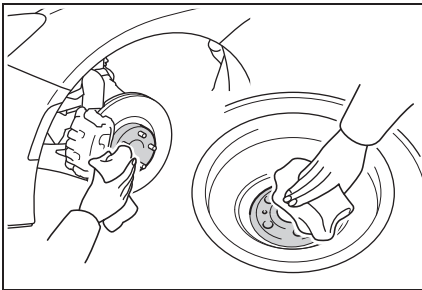
⚠ 警告

- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

応急用タイヤの取り付け

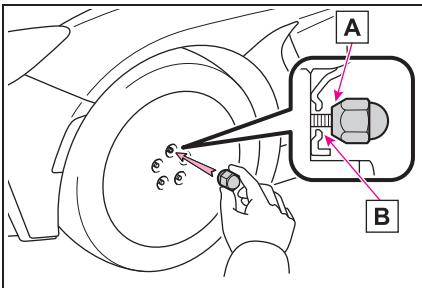
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

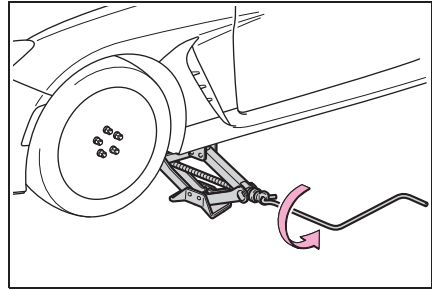
ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわす



A テーパー部

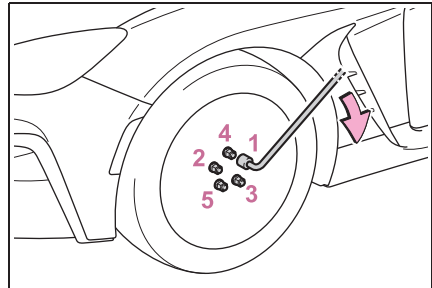
B シート部

3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：120N・m
(1224kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

📖 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P.332)

■ タイヤを交換したあとは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ空気圧警報システムの初期化操作を行ってください。(→P.267)

■ 応急用タイヤを使用するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

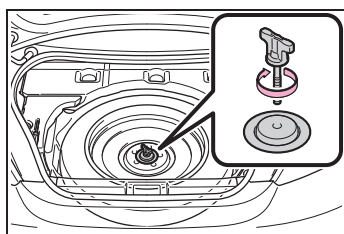
■ 後輪がパンクしたとき

- 1 前輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした後輪をはずした前輪と交換する

■ タイヤの格納について

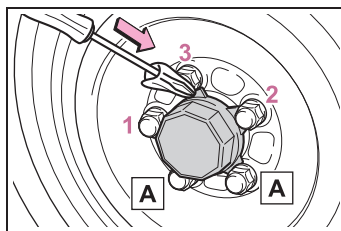
- 1 センターキャップ付ホイールは、センターキャップを取りはずす
- 2 留め具を取り付ける

留め具は必ず図の向きにして取り付けてください。



■ センターキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

図のように[A]をナットに取り付けたあと、マイナスドライバーを使用して図の番号順でセンターキャップのツメを押し込む
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



⚠ 警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 応急用タイヤは前輪に装着してください
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります。次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ EPS
- ・ ブリクラッシュブレーキ
- ・ ブレーキアシスト★
- ・ ハイビームアシスト
- ・ 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロール★

⚠ 警告

- ・ 定速クルーズコントロール
- ・ 車線逸脱警報
- ・ BSD / RCTA ★
- ・ RAB ★
- ・ タイヤ空気圧警報システム★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、
80km/h 以上の速度で走行しないでく
ださい。

応急用タイヤは、高速走行に適してい
ないため、思わぬ事故につながるおそ
れがあります。

**■ タイヤを交換するとき（タイヤ空気
圧警告装置搭載車）**

ホイール、タイヤの取り外し、取り付
け時、またはタイヤ空気圧警告バルブ
と送信機、タイヤ空気圧についてはト
ヨタ販売店にご相談ください。
正しく扱わないと、警告バルブと送信
機が損傷する可能性があります。

⚠ 注意**■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装
着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗り越えるときは注意してくだ
さい。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを
装着しないでください。タイヤチェー
ンが車体にあたり、車を損傷したり走
行に悪影響をおよぼしたりするおそれ
があります。

■ ジャッキの収納について

ジャッキをジャッキホルダーへ収納す
るときは、ジャッキハンドル取付け部
をトランク内側へ向けて収納してくだ
さい。逆向きに収納すると、車体を損
傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.109）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順（→P.109）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.49）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.320）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、

エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.316）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.320）
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.120）

メーター内のブレーキ警告灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）の位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをACCにする
- 4 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル

とブレーキペダル（マニュアル車）をしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

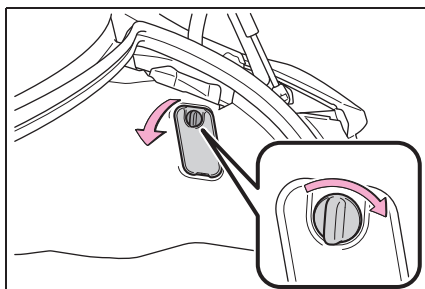
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

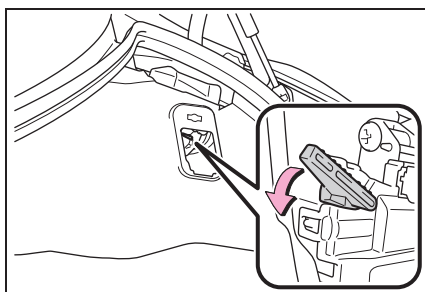
ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

- 1 トランク内のカバーを取りはずす



- 2 レバーを下げる



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.80)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- スマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.83)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。

設定されている場合は解除してください。(→P.80)

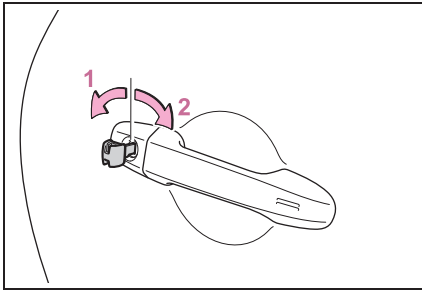
⚠ 注意

- スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー (→P.71) を使って次の操作ができます。



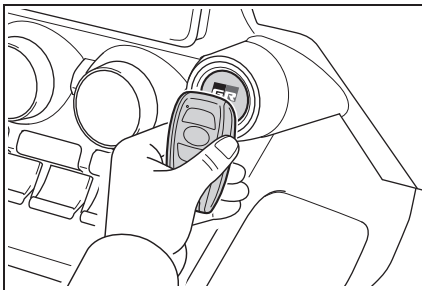
- 1 運転席ドア解錠
- 2 運転席ドア施錠

エンジン始動の方法

- 1 オートマチック車：シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
マニュアル車：シフトレバーがNの状態クラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面を手前に向けて、電子キーをエンジンスイッチにふれるまで近づける

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

スマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチ

ペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.272)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.50)

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.111)

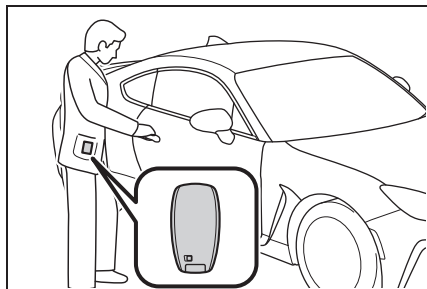
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

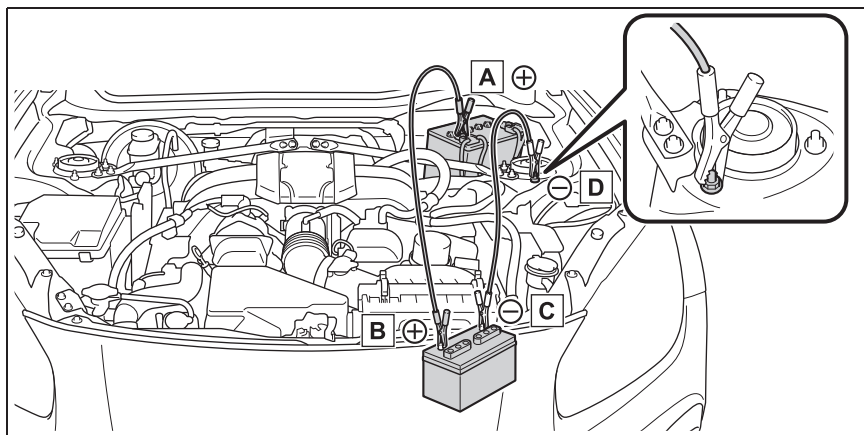
- 1 電子キーを携帯していることを確認する



- 2 ボンネットを開ける
(→P.259)

- 3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- A** バッテリーの+端子（自車）

- B** バッテリーの+端子（救援車）
- C** バッテリーの-端子（救援車）
- D** 図に示す金属部

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する
- 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

 警告**■ バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまをバッテリーに近付けない

■ 車の損傷を防ぐために

車両を押ししたり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するとき

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

注意

■ ドアを閉めるときは

ドアガラスを内側に倒すように力を加えながらゆっくりと閉めてください。ドア連動ドアガラス開閉機能が作動しないため、ドアガラスと車体が干渉して傷付き、ドアガラスが割れるおそれがあります。

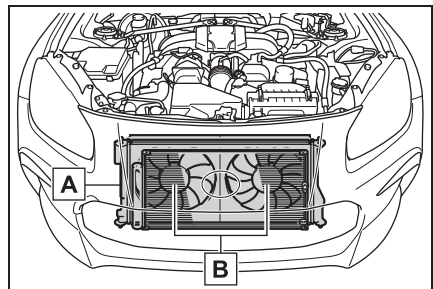
オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→P.293）が赤色に点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却液高温 販売店へ連絡してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

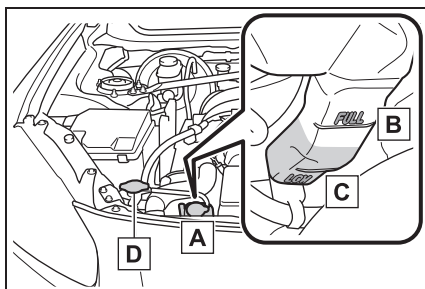


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

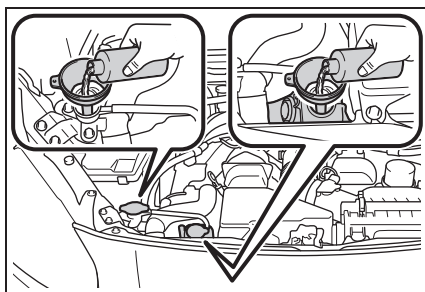
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

D ラジエーターキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを開始し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホース

などから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはリザーバータンクキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

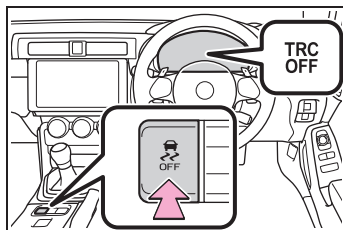
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にして、エンジンを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはR（オートマチック車）もしくは1速またはR（マニュアル車）にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

📖 知識

■ 脱出しにくいとき

 スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



 警告**■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（油脂類の容量
と銘柄など） **328**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **333**

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	50

エンジンオイル

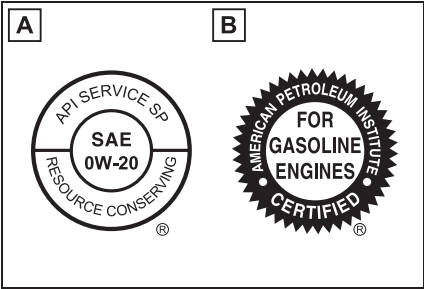
指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.8	5.0

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、車を水平な場所におき、エンジン始動前またはエンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。オイル量の確認は、レベルゲージの両面を見て油面の低い方で確認してください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使

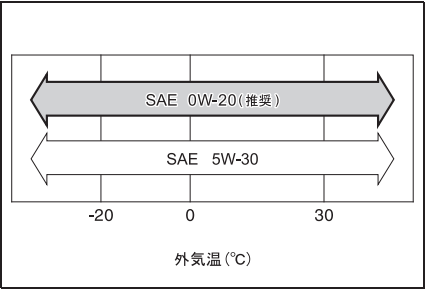
用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



- A API マーク
- B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 50 ブルー	7.7※ ¹
凍結保証温度 濃度 50% − 36° C	7.4※ ²

※¹ オートマチック車

※² マニュアル車

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートマチックトランスミッションフルード WS	7.5※

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

マニュアルトランスミッション

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV 75W (API GL-4, SAE 75W)	2.2

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.15

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5
クラッチ切れ残り代 ※	20 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

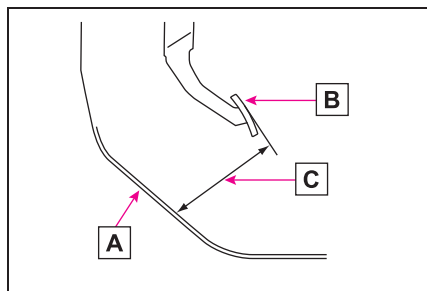
■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ~ 1.5
踏み込んだときの床板（カーペット）とのすき間 ※	74

※ エンジン回転時に 300N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値



- A** カーペット
- B** ブレーキペダル
- C** すき間

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200N（20kgf）のときのノッチ ※ 数	7 ~ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（"カチッ" という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
1.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kgf/cm ²)
標準タイヤ	205/55R16 91V	16 × 6 1/2J	240 (2.4)
	215/45R17 87W	17 × 7 1/2J	
	215/40R18 85Y	18 × 7 1/2J	
応急用タイヤ★	T135/80D16 101M	16 × 4T	420 (4.2)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	120 (1224)
応急用タイヤ	

電球（バルブ）※

電球		W (ワット) 数
車外	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
車内	インテリアランプ	8
	ドアカーテシランプ★	5
	バニティミラーランプ★	2
	トランクリンプ★	5

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZN8	FA24 (2.4L ガソリン)	FR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  または  を選択する

- 2  または  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
- 3  スイッチを押す

警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチインフォメーションディスプレイの  で設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイの  で設定変更可能
- C** トヨタ販売店で設定変更可能
- オートアラーム (→P.50)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オートアラームの作動	●あり ●なし	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.54, 57, 62)

機能の内容※	カスタマイズ設定	A	B	C
言語	●日本語 ●英語	—	○	—
初期演出	●あり ●なし	—	○	—
GSI★ (シフトポジション表示)	●あり ●なし	—	○	—
REV.(インジケーター)	●あり ●なし	—	○	—
REV.(回転数)	●2000rpm ~ 7400rpm ●なし (2000rpm)	—	○	—
REV.(ブザー)	●あり ●なし	—	○	—
警報音量	●小 ●中 ●大	—	○	—
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	●レベル 1 ~ 5 ●OFF	—	—	○

※ 機能についての詳しい説明は P.67 を参照してください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.73, 79)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図 (ブザー)	●あり ●なし	—	○	○
作動の合図 (ブザー音量調整)	●レベル 1 ~ 7 ●OFF	—	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	●あり ●なし	—	○	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒 ●OFF	—	○	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.70, 73)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレス機能	●あり ●なし	—	—	○
トランク解錠時の操作	●1 回押し続ける (短) ●1 回押し ●2 回押し ●1 回押し続ける (長)	—	—	○

■ ドアロックスイッチ (→P.75)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
キー閉じこみ防止機能	●あり ●なし	—	—	○

■ トランク (→P.75)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
電子キーなしでのトランク開	●あり ●なし	—	—	○

■ パワーウィンドウ (→P.97)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	○

■ 方向指示灯 (→P.119)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レバーを途中まで動かしたときの3回点滅する機能	●あり ●なし	—	○	○

■ アクティブサウンドコントロール★ (→P.121)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アクティブサウンドコントロールの作動	●あり ●なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.122)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	●-40% ~ +40%	—	—	○
ウェルカムランプの作動時間（乗車時）	●10 秒 ●20 秒 ●30 秒 ●OFF	—	—	○
ウェルカムランプの作動時間（降車時）	●10 秒 ●20 秒 ●30 秒 ●OFF	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	—	○

■ ランプ (→P.122)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）★機能	●あり ●なし	○	—	○
デイトタイムランニングランプ★	●あり ●なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ハイビームアシスト (→P.125)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ハイビームアシスト機能	●あり ●なし	—	—	○

■ PCB（プリクラッシュブレーキ）(→P.142)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PCB（プリクラッシュブレーキ）機能	●あり ●なし	○	—	—

■ 全車速追従機能付 / 追従機能付クルーズコントロール (→P.151, 166)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車捕捉音	●あり ●なし	—	○	—
加速レベル（クルーズコントロール加速レベル）	●レベル 1（エコ） ●レベル 2（コンフォート） ●レベル 3（スタンダード） ●レベル 4（ダイナミック）	—	○	—

■ AT 誤後進抑制制御★ (→P.194)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度リミッター	●低速 ●中速 ●高速 ●OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDW（車線逸脱警報）(→P.197)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
LDW（車線逸脱警報）機能	●あり ●なし	○	—	—

■ 先行車発進お知らせ (→P.201)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進 (先行車発進お知らせ) 機能	●あり ●なし	—	○	—

■ RAB (後退時ブレーキアシスト) ★ (→P.202)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RAB (後退時ブレーキアシスト)	●あり ●なし	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー (→P.206)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
 クリアランスソナー機能	●あり ●なし	○	—	—

■ BSD/RCTA (後側方警戒支援システム) ★ (→P.215)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
BSD/RCTA (後側方警戒支援システム) 機能	●あり ●なし	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル (→P.224)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
緊急ブレーキシグナルの作動	●あり ●なし	—	—	○

■ エアコン (→P.234)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤデフォグガーの作動	●15分作動 ●連続作動	—	○	○

■ イルミネーション (→P.240)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	—	○	○
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
ルームランプの点灯	●あり ●なし	—	—	○

知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■ 車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	342
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	344
アルファベット順さくいん.....	345
五十音順さくいん	346

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.317）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.317）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.272）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.111）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

（→P.80）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.109）
- マニュアル車：クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.109）
- オートマチック車：シフトレバーは P になっていますか？（→P.109）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.79）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.109）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.319）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.320）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない（オートマチック車）

- エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレー

キを踏んでも解除できないときは（→P.114）を参照してください。



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.109）



パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.98）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった

- 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.109）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.344）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示

されたときは、P.293、299 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.300）
- 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.309）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.325）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている★	P.299
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.50
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.272
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.79
	電子キーを車内に置き忘れている	P.299

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはエンジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	シートベルトを着用していない※	P.295
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した★	P.116
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.104
後退時に左右からの車を検知したとき	BSD / RCTA（後側方警戒支援システム）★が作動した	P.215

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 234

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 224

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェン
スシフト) 114

BSD / RCTA

(後側方警戒支援システム) 215

EDR

(イベントデータレコーダー) 6

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 224

EyeSight 134

AT 誤後進抑制制御 194

AT 誤発進抑制制御 190

クリアランスソナー 206

後退時ブレーキアシスト (RAB)
..... 202

車線逸脱警報 197

先行車発進お知らせ 201

全車速追従機能付クルーズコント
ロール 151

追従機能付クルーズコントロール
..... 166

定速クルーズコントロール 182

ふらつき警報 199

プリクラッシュブレーキ 142

FR

(フロントエンジンリヤドライブ)
..... 332

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン) 328

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィッ
クス) 38

LED

(ライトエミットングダイオード)
..... 122

RAB

(後退時ブレーキアシスト) 202

REV インジケーター 59

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 26

TRC

(トラクションコントロール) 224,
325

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 224

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	320
アウターミラー（ドアミラー）	
格納のしかた.....	96
操作.....	95
BSD / RCTA（後側方警戒支援システム）	215
ミラーヒーター.....	236
アクセサリースocket.....	247
アクセサリーモード.....	111
アラーム	
オートアラーム.....	50
音さくいん.....	344
警告ブザー.....	293
アンチロックブレーキシステム（ABS）	224
警告灯.....	294
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	79

い

イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）	
エンジンのかけ方.....	109
自動電源 OFF 機能.....	112
車両を緊急停止するには.....	284
モードの切りかえ.....	111
位置交換（タイヤローテーション）.....	265
イベントデータレコーダー（EDR）.....	6
イモビライザーシステム.....	49
イルミネーテッドエントリーシステム	241
インジケーター（表示灯）.....	55
インストルメントパネル照度調整ダイア ル.....	60

インテリアランプ.....	240
ワット数.....	332
インナーミラー.....	94

う

ウインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換.....	276
方向指示レバー.....	119
ウインドウ	
ウォッシャー.....	129
パワーウインドウ.....	97
リヤウインドウデフォグガー.....	236
ウインドウロックスイッチ.....	98
ウォッシャー.....	129
液の補給.....	262
スイッチ.....	129
タンク容量.....	331
冬の前の準備・点検.....	229
動けなくなったときは（スタック）.....	325
運転	
雨の日の運転.....	101
運転を補助する装置.....	224
寒冷時の運転.....	229
正しい運転姿勢.....	21
手順.....	100
運転支援機能情報.....	67
運転席シートベルト非着用警告灯... ..	295

え

エアコン	
オートエアコン.....	234
曇り取り（フロントウインドウガラス）	235
フィルターの清掃.....	271
エアコン・デフォグガー.....	234
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯.....	294

警告ブザー	294
正しい姿勢	21
配置	26
AT 誤後進抑制制御	194
AT 誤発進抑制制御	190
SRH (ステアリング連動ヘッドランプ)	124
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	224
警告灯	294
エンジン	
イグニッションスイッチ (エンジンスイ チ)	109
エンジンイモビライザーシステム	49
エンジンがかからない (エンジンが始動で きない)	316
エンジンスイッチ	109
エンジンの始動方法	109
オーバーヒート	323
緊急時の停止方法	284
タコメーター	57
フューエルポンプシャットオフシステム	292
ボンネット	259
エンジンイモビライザーシステム	49
エンジンオイル	
警告灯	294
冬の前の準備・点検	229
メンテナンスデータ	328
容量	328
エンジン回転計 (タコメーター)	57
エンジンスイッチ	
エンジンのかけ方	109
自動電源 OFF 機能	112
モードの切りかえ	111
エンジンフード (ボンネット)	
開け方	259

エンジンルーム	259
エンジンルームから蒸気が出ている ...	323

お

オイル (エンジンオイル)	328
応急用タイヤ	309
交換方法	309
オートアラーム	50
オートエアコン	234
オートマチックトランスミッション オートマチックトランスミッション ...	113
オーバーヒート	323
オープナー	
給油扉	132
トランク	77
ボンネット	259

お子さまを乗せるとき

ウインドウロックスイッチ	98
お子さまの安全のために	37
キーの電池	273
シートヒーターに関する警告	238
シートベルトの着用	23, 24
チャイルドシート	38
チャイルドシートの取り付け	38
発炎筒の取り扱いに関する警告	284
バッテリーに関する警告	322
パワーウインドウに関する警告	98
オドメーター／トリップメーターディス プレイ	60
表示切りかえボタン	60
表示項目	60

か

カーテンシールドエアバッグ	26
カーペット	
洗浄	255
フロアマットの取り付け方	20

外気温度表示	57
外装の電球（バルブ）	
交換要領	276
ワット数	332
カスタマイズ機能	333
型式	332
カップホルダー	244
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォグガー）	236
ガレージジャッキ	261
冠水路走行	107
寒冷時の運転	229

き

キー

エンジンが始動できない	316
キーナンバープレート	70
キーの構成	70
キーレスエントリー	71, 79
キーをなくした	317
正常に働かない	318
施錠・解錠ができない	318
電子キー	70
電池が切れた	272
メカニカルキー	71
ワイレスリモコン	71

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	79
ワイヤレスドアロック	71

給油

給油口が開けられない	318
給油のしかた	131
メンテナンスデータ	328

緊急時シートベルト固定機構

緊急時の対処

エンジンが始動できない	316
オーバーヒートした	323

キーの電池が切れた	272, 318
キーをなくした	317
警告灯がついた	293
警告メッセージが表示された	299
けん引	287
故障したときは	282
車中泊が必要なときは	286
車両を緊急停止する	284
水没・冠水したときは	285
スタックした	325
電子キーが正常に働かない	318
発炎筒	283
バッテリーがあがった	320
パンクした	300, 309
緊急ブレーキシグナル	224

<

空気圧（タイヤ）

タイヤ空気圧警報システム	265
メンテナンスデータ	332

区間距離計（トリップメーター）

曇り取り

フロントウインドウガラス	235
ミラーヒーター	236
リヤウインドウデフォグガー	236

クラクション（ホーン）

クラッチ

メンテナンスデータ	330
-----------------	-----

クラッチフルード

クリアランスソナー

クリアランスランプ（車幅灯）

スイッチ	122
電球（バルブ）の交換	276

クリップ

フロアマット	20
--------------	----

クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロール	151
-----------------------------	-----

追従機能付クルーズコントロール.....	166
定速クルーズコントロール	182
グローブボックス	242

け

警告器（ホーン）.....	93
計器類（メーター）.....	57
警告灯.....	293
RAB.....	296
EyeSight.....	297
ABS & ブレーキアシスト	294
SRH.....	296
SRS エアバッグ.....	294
LED ヘッドランプ	296
エンジン	294
オートヘッドランプレベラー	297
オートマチックトランスミッション油温	295
クリアランスソナー.....	296
高水温.....	293
シートベルト非着用.....	295
充電.....	293
スリップ表示灯.....	296
タイヤ空気圧.....	297
燃料残量	294
パワーステアリング.....	294
半ドア	295
BSD / RCTA.....	296
ブレーキ	293
マスターウォーニング.....	297
油圧.....	294
警告ブザー	
RAB.....	296
ABS & ブレーキアシスト	294
SRH.....	296
SRS エアバッグ.....	294
LED ヘッドランプ	296
エンジン	294

オートヘッドランプレベラー.....	297
オートマチックトランスミッション油温	295
クリアランスソナー.....	296
高水温.....	293
シートベルト非着用.....	295
シフトダウン制限.....	116
スリップ表示灯.....	296
パワーステアリング.....	294
半ドア	74
BSD / RCTA.....	296
ブレーキ	293
油圧.....	294
リバース	113, 118
警告メッセージ.....	299
化粧ミラー（バニティミラー）.....	249

こ

交換	
キーの電池.....	272
タイヤ	309
電球（バルブ）.....	276
ヒューズ.....	275
工具（ツール）.....	302, 310
航続可能距離.....	63
後側方警戒支援システム (BSD / RCTA)	215
後退時ブレーキアシスト（RAB）....	202
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	276
子供専用シート	
取り付け方.....	39
小物入れ.....	244
コンソールボックス	243
コンライト（自動点灯・消灯装置）. 122	

さ

サイドエアバッグ	26
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	276
方向指示レバー	119
サイドミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	96
操作	95
BSD / RCTA（後側方警戒支援システム）	
.....	215
ミラーヒーター	236
三角表示板等固定用バンド	245
サンバイザー	248

し

シート	
正しい運転姿勢	21
チャイルドシート	38
調整	87
手入れ	255, 257
ヘッドレスト	91
シートヒーター	238
シートベルト	23
お子さまの着用	23, 24
緊急時シートベルト固定機構	24
シートベルトガイド	25
正しく着用するには	24
着け方・はずし方	24
手入れ	255
妊娠中の方の着用	23
非着用警告灯	295
シートベルト非着用警告灯	295
シートベルトプリテンショナー	
機能	25
プリテンショナー警告灯	294
G モニター	64
室内灯（インテリアランプ）	240

始動のしかた	109
シフトポジション	113
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	114
シフトレンジの切りかえ	115
操作	113, 117
リバース警告ブザー	113, 118
締め付けトルク（ホイール）	313
車線逸脱警報	197
車中泊が必要なときは	286
ジャッキ	
ガレージジャッキ	261
車載ジャッキ	302, 310
ジャッキハンドル	302, 310
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	276
ランプスイッチ	122
車両型式	332
車両仕様（スペック）	328
車両情報表示	67
車両を緊急停止するには	284
充電用 USB 端子	247
瞬間燃費	63
仕様（車両仕様）	328
初期化	
タイヤ空気圧警報システム	267
パワーウインドウ	97
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	295

す

水温計	57
スイッチ	
イグニッション	109
ウインドウロック	98
ウォッシャー	129
エンジンスイッチ	109
シート調整	87
シートヒーター	238

照度調整	60
全車速追従機能付クルーズコントロール	151
タイヤ空気圧警報リセット	267
追従機能付クルーズコントロール	166
TRC OFF	224
定速クルーズコントロール	182
ドアミラー	95
ドアロック	74
ドライブモードセレクト	220
TRACK モード	225
トランクオープナー	77
パドルシフト	115, 116
パワーウィンドウ	97
表示切りかえ	60
VSC OFF	225
方向指示レバー	119
ホーン（警告器）	93
メーター操作	63
ランプ	122
リセット（タイヤ空気圧警報システム）	267, 269
リヤウィンドウデフォグガー	234
リヤフォグランプ	128
ワイパー	129
スタック	325
ステアリングスイッチ	248
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整	93
メーター操作スイッチ	63
ステアリングロック	109
解除できないとき	109
警告メッセージ	109
ストップウォッチ	64
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	276
スノータイヤ（冬用タイヤ）	229
スピードメーター	57

スペアタイヤ（応急用タイヤ）	309
交換方法	309
スペック（車両仕様）	328
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	79
エンジンの始動	109
カスタマイズ設定	333
緊急始動機能	316
作動範囲	79
正常に動かないとき	318
節電機能	80
電波がおよぼす影響について	83
ドアの解錠・施錠	73
トランクの解錠	77
スモールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換	276
ランプスイッチ	122
スリップ表示灯	224

せ

清掃

ウルトラスエード®	257
外装	252
シートベルト	255
内装	255, 257
ホイール・ホイールキャップ	252

制動灯

電球（バルブ）の交換	276
------------------	-----

積算距離計（オドメーター）

60

セキュリティインジケータ

49, 50

先行車発進お知らせ

201

センサー

ライトセンサー	122
---------------	-----

洗車

252

全車速追従機能付クルーズコントロール

151

前照灯（ヘッドランプ）

電球（バルブ）の交換	276
------------------	-----

ライトセンサー	122
ランプ消し忘れ防止機能	123
ランプスイッチ	122

そ

走行距離	63
走行時間	63
走行情報表示	63
走行モード（ドライブモード）	220
送信機（タイヤ空気圧警報システム）	265
速度計（スピードメーター）	57

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換	276
方向指示レバー	119
タイヤ	
応急用タイヤ	309
空気圧	270, 332
空気圧警告灯	297
交換	309
締め付けトルク	313
チェーン	229
点検	263
パンク応急修理キット	300
パンクしたときは	300, 309
冬用タイヤ	229
ホイールサイズ	332
ローテーション（位置交換）	265
タイヤが空まわりする（スタックした）	325
タイヤ空気圧	
警告灯	297
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの切りかえ	269
ID コードの登録・選択	269

機能について	265
空気圧バルブ／送信機について	266
空気圧表示画面	265
警告灯	297
初期化	267
タイヤチェーン	229
タコメーター	57
REV インジケーター	59

ち

チェーン（タイヤチェーン）	229
チャイルドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	46
シートベルトでの固定	45
選択方法	38
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	120
操作	120
冬季の注意	229
メンテナンスデータ	331

つ

追従機能付クルーズコントロール	166
ツール（工具）	302, 310

て

ディスプレイ	
マルチインフォメーションディスプレイ	62
定速クルーズコントロール	182
デイトタイムランニングランプ	122
ディファレンシャル	330
手入れ	
外装	252
シートベルト	255
内装	255, 257

ホイル・ホイルキャップ	252
テールランプ (尾灯)	
電球 (バルブ) の交換	276
ランプスイッチ	122
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	236
電圧計	63
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	276
ワット数	332
点検基準値 (メンテナンスデータ) .	328
電子キー	70
作動範囲	79
正常に働かないとき	318
節電機能	80
電池が切れた	318
電池交換	272
電池交換 (キー)	272

と

ドア	73
スマートエントリー&スタートシステム	79
ドアガラス	97
ドアロックスイッチ	74
ロックレバー	75
ワイヤレスリモコン	73
ドアカーテシランプ	
ワット数	332
ドアミラー	
格納のしかた	96
操作	95
BSD / RCTA (後側方警戒支援システム)	215
ミラーヒーター	236
盗難防止装置	
エンジンモビライザーシステム	49
オートアラーム	50

時計	57, 60
トップテザーアンカレッジ	48
ドライブモードセレクトスイッチ ...	220
トラクションコントロール (TRC)	224
トランク	75
オープナー	77
キー閉じ込み防止機能	78
トランク内の装備	245
トランクリンプ	78
ワット数	332
トランスミッション	
オートマチックトランスミッション ...	113
シフトダウン制限警告ブザー	116
操作	114
パドルシフトスイッチ	115, 116
マニュアルトランスミッション	117
マニュアルモード	116
メンテナンスデータ	329, 330
トリップメーター	60

な

内装	
収納装備	242
手入れ	255, 257

に

ニーエアバッグ	26
荷物	
積むときの注意	107
トランク	75
トランク内装備	245

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	325
-----------------------	-----

ね

燃料

給油	131
種類	328
燃料計	57
燃料残量警告灯	294
フューエルポンプシャットオフシステム	292
容量	328
燃料計	57

は

パーキングブレーキ	120
操作	120
冬季の注意	229
メンテナンスデータ	331
パーソナルランプ	
ワット数	332
排気ガス	35
ハイビーム (ヘッドランプ)	
電球 (バルブ) の交換	276
ハイビームアシスト	125
ランプスイッチ	122
ハイビームアシスト	125
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	276
ハザードランプ (非常点滅灯)	
電球 (バルブ) の交換	276
挟み込み防止機能	
パワーウインドウ	97
発炎筒	283
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	276
バッテリー	
警告灯	293
バッテリーがあがった	320
パドルシフトスイッチ	115, 116

バニティ (化粧用) ミラー	249
----------------------	-----

バニティミラーランプ

装備について	249
ワット数	332

バルブ (電球)

交換要領 (外装のバルブ)	276
ワット数	332

パワー・トルクカーブ 64

パワーウインドウ

ウインドウロックスイッチ	98
閉めることができないときは	97
初期化	97
操作	97
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	97
挟み込み防止機能	97
巻き込み防止	97

パワーステアリング 224

警告灯	294
-----------	-----

パンクした

応急用タイヤ装着車	309
タイヤ空気圧警告灯	297
タイヤパンク応急修理キット装着車	300

番号灯 (ライセンスプレートランプ)

電球 (バルブ) の交換	276
ランプスイッチ	122
ワット数	332

ハンドル (ステアリングホイール)

位置調整	93
メーター操作スイッチ	63

ひ

ビークルスタビリティコントロール

(VSC)	224
-------------	-----

ヒーター

エアコン・デフォグガー	234
シートヒーター	238
ミラーヒーター	236

非常点滅灯

緊急ブレーキシグナル 224

非常点滅灯（ハザードランプ）

電球（バルブ）の交換 276

尾灯（テールランプ）

電球（バルブ）の交換 276

ランプスイッチ 122

ヒューズ 275

表示切りかえボタン 60

表示灯 55

日よけ（サンバイザー） 248

ヒルスタートアシストコントロール
..... 221, 224**ふ**

ブースターケーブルのつなぎ方 320

フォグランプ

電球（バルブ）の交換 276

ブザー

シフトダウン制限警告 116

リバース警告 113, 118

フック

けん引フック 289

フロアマット固定フック 20

フューエルポンプシャットオフシステム
..... 292

フューエルメーター 57

フューエルリッド（給油口）

給油口が開かない 318

給油のしかた 131

冬の前の準備（寒冷時の運転） 229

冬用タイヤ 229

ふらつき警報 199

ブリクラッシュブレーキ 142

ブレーキ

緊急ブレーキシグナル 224

警告灯 293

パーキングブレーキ 120

メンテナンスデータ 330

ブレーキ 293

ブレーキアシスト 224

ブレーキフルード 330

フロアマット 20

フロントシート

シートヒーター 238

正しい運転姿勢 21

調整 87

手入れ 255, 257

ヘッドレスト 91

フロント方向指示灯

電球（バルブ）の交換 276

方向指示レバー 119

へ

平均車速 63

平均燃費 63

ヘッドランプ

電球（バルブ）の交換 276

ライトセンサー 122

ランプ消し忘れ防止機能 123

ランプスイッチ 122

ヘッドレスト 91

ほ**ホイール**

交換（タイヤ） 309

メンテナンスデータ 332

方向指示灯

電球（バルブ）の交換 276

方向指示レバー 119

ホーン（警告器） 93

保証 7

ボトルホルダー 243

ボンネット 259

開け方 259

ま

マスターウォーニング	297
マニュアルトランスミッション	
マニュアルトランスミッション	117
マルチインフォメーションディスプレイ	
運転支援機能情報	67
運転支援システム設定	67
警告メッセージ	299
スポーツインフォメーション	64
設定	67
走行情報表示	63
タイヤ空気圧	265
時計	60
メーター操作スイッチ	63
メニューアイコン	62
割り込み表示	62

み

ミラー	
アウトミラー	95
インナーミラー	94
ドアミラー	95
バニティミラー	249
ミラーヒーター	236

め

メーター	
計器類	57
警告灯	293
警告メッセージ	299
照度調整	60
設定	67
時計	57
表示灯	55
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	62

メーター操作スイッチ	63
メーター照度調整	60
メカニカルキー	71
メニューアイコン	62
メンテナンスデータ	328

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	333
油温計	63
雪道ですべて動けない（スタックした）	
.....	325
油脂類	328

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
電球（バルブ）の交換	276
ランプスイッチ	122
ラゲージアンダートレイ	245
ラゲージルーム（トランク）.....	75, 245
ラジエーター	
オーバーヒート	323
メンテナンスデータ	329
ランプ	
室内灯	240
電球（バルブ）の交換	276
非常点滅灯（ハザードランプ）	283
ヘッドランプ（前照灯）	122
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィ	
ンカー）	119
ライトセンサー	122
ランプ消し忘れ防止機能	123
リヤフォグランプ	128
ランプ消し忘れ防止機能	123

り

リヤウィンドウデフォッガー	236
---------------------	-----

リヤシート	89
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...	295
リヤフォグランプ	128
電球（バルブ）の交換	276
ランプスイッチ	128
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	276
方向指示レバー	119

る

ルームミラー（インナーミラー）	94
-----------------------	----

れ

冷却水

冬の前の準備	229
メンテナンスデータ	329

冷却装置（ラジエーター）

オーバーヒート	323
メンテナンスデータ	329

レバー

シフト	113, 117
方向指示	119
ボンネット解除	259

ろ

ロック

ウインドウロック	98
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	79
ドア	73
ワイヤレスリモコン	71

わ

ワイパー&ウォッシャー	129
ウォッシャー液の補充	262
ワイパーブレード（寒冷地用）	231

ワイヤレスリモコン

作動の合図	73
操作	71
電池の交換	272
半ドア警告ブザー	74

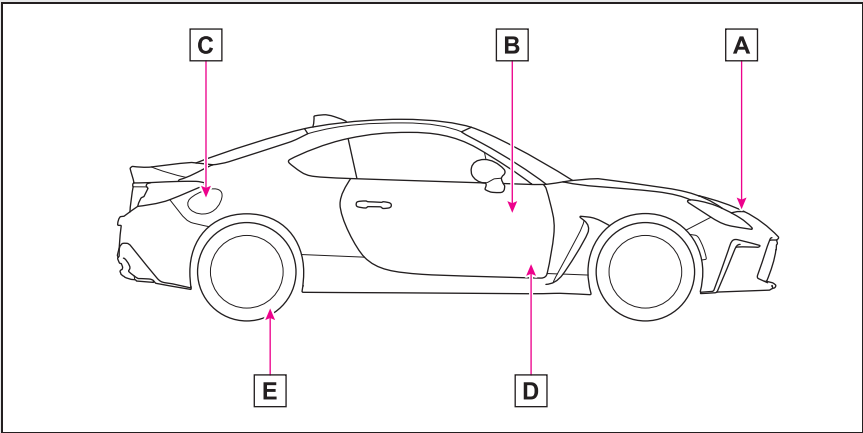
ワックス 252 |

ワット数 332 |



ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.259)
- B** トランクオープナースイッチ (→P.77)
- C** 給油口 (→P.131)
- D** ボンネット解除レバー (→P.259)
- E** タイヤ空気圧 (→P.332)

燃料の容量 (参考値)	50L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)	P.328
タイヤが冷えているときの空気圧		P.332
エンジンオイル容量 (参考値)		P.328
エンジンオイルの種類		P.328

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
0800-700-7700



WEB ページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

